

高齢者の生活と健康に関する調査 高齢期の生活と健康に関する意識調査

調査結果中間報告

目 次

第1章 調査の概要

1 調査目的	1
2 調査の種別と調査対象	1
3 調査内容	1
4 調査期間	2
5 調査方法	2
6 回収結果	2
7 報告書の見方	2

第2章 高齢者一般調査

1 対象者についての基本的事項	3
2 身体・生活の状況について	9
3 介護予防と介護のあり方について	21
4 介護保険制度について	28

第3章 若年者調査

1 対象者についての基本的事項	31
2 身体・生活の状況について	36
3 介護予防と介護のあり方について	48
4 介護保険制度について	55

第4章 居宅サービス利用者調査

1 対象者についての基本的事項	58
2 身体・生活の状況について	65
3 介護保険サービスの利用状況	75
4 介護予防と介護のあり方について	82
5 介護保険制度について	88
6 在宅介護の状況について	91

第5章 居宅サービス未利用者調査

1 対象者についての基本的事項	95
2 身体・生活の状況について	102
3 介護保険サービスの利用状況	112
4 介護予防と介護のあり方について	120
5 介護保険制度について	126
6 在宅介護の状況について	129

1 調査目的

本調査は、介護サービスの利用状況及び今後の利用意向等を把握し、次期介護保険事業計画における各サービスの見込み量設定等の基礎データを得るとともに、介護保険制度や高齢者保健福祉施策全般に対する市民の意向を把握し、「京都市民長寿すこやかプラン」（京都市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画）の見直しに向けての基礎資料を得ることを目的として実施した。

2 調査の種別と調査対象

種 別	調 査 対 象
A 高齢者一般調査	要介護（要支援）認定を受けていない 65歳以上の方 4,000人（抽出）
B 若年者調査	40歳以上65歳未満の方 3,000人（抽出）
C 居宅サービス利用者調査	介護保険の居宅サービスを利用している 方 3,000人（抽出）
D 居宅サービス未利用者調査	要介護（要支援）認定を受けているが、 介護サービスを利用していない方 1,500人（抽出）

3 調査内容

(1) 高齢者一般調査・若年者調査

- ア 基本属性
- イ 身体・生活の状況
- ウ 外出や生きがい活動の状況
- エ 介護予防に関する取り組みと意向
- オ 介護と在宅生活に対する意向
- カ 介護保険制度に対する意向

(2) 居宅サービス利用者調査・居宅サービス未利用者調査

- ア 基本属性
- イ 身体・生活の状況
- ウ 外出や生きがい活動の状況
- エ 介護サービスの利用状況と利用意向
- オ 介護サービスの未利用理由
- カ 介護サービス等の情報に対する意向
- キ 施設への入所申込の状況
- ク 介護予防に関する取り組みと意向
- ケ 介護と在宅生活に対する意向
- コ 保険料、利用料に対する意向

4 調査期間

平成16年12月1日～12月14日

5 調査方法

郵送法

6 回収結果

種 別	発送数	有効回収数	有効回収率
A 高齢者一般調査	4,000	2,784	69.6%
B 若年者調査	3,000	1,406	46.9%
C 居宅サービス利用者調査	3,000	1,759	58.6%
D 居宅サービス未利用者調査	1,500	790	52.7%

7 報告書の見方

- (1) 集計結果は、すべて小数点以下第2位を四捨五入しており、比率の合計が100.0%にならないことがある。
- (2) 図表中に次のような表示がある場合は、複数回答を依頼した質問である。
M A % (Multiple Answer) = 回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合
2 L A % (2 Limited Answer) = 回答選択肢の中からあてはまるものを2つ以内で選択する場合
3 L A % (3 Limited Answer) = 回答選択肢の中からあてはまるものを3つ以内で選択する場合
複数回答を依頼した質問では、集計結果の合計が100.0%を超える場合がある。
- (3) 回答比率(%)はその質問の回答者数を基数(N = Number of case)として算出した。
- (4) 「C 居宅サービス利用者調査」及び「D 居宅サービス未利用者調査」の調査対象者の抽出を本市の介護保険被保険者・受給者台帳データを用いて実施したが、対象者の抽出の資料とした給付実績(利用月)と調査時点との時間差により、介護サービスの利用有無の回答で抽出区分と違う回答をした方があった。調査票はすべて同一の質問項目を用いているため、集計に当たっては、回答内容によって、介護サービスの利用者・未利用者に振り分けた。
- (5) 平成16年12月24日付け厚生労働省老健局長通知以降、「痴呆」に替わる用語について行政用語は「認知症」に変更されたところであるが、調査時点において調査票の選択肢に「痴ほう」を用いていたことから、本報告書でもそのまま使用することとした。

1 対象者についての基本的事項

(1) 記入者

ア 記入者

表 1-1 記入者

調査数	宛名のご本人	ご家族	その他	無回答
2784 100.0	2404 86.4	179 6.4	4 0.1	197 7.1

アンケートの回答者は、「宛名のご本人」86.4%に対し、「ご家族」6.4%、「その他」0.1%となっている。

イ 本人が回答できない理由

表 1-2 本人が回答できない理由

調査数	病院に入院中	介護保険施設に入所 (入院)中	病気やけが	物忘れがあり、意志疎通が時々難しい	痴呆のため意志疎通がいつも難しい	障害(身体障害、知的障害など)	別居・転居	答えたくない	その他	無回答
183 100.0	23 12.6	4 2.2	10 5.5	51 27.9	4 2.2	16 8.7	2 1.1	8 4.4	43 23.5	22 12.0

本人が回答できない理由としては、「物忘れがあり、意志疎通が時々難しい」が27.9%、「病院に入院中」が12.6%となっている。

(2) 年齢別・性別構成

図 1-1 年齢構成

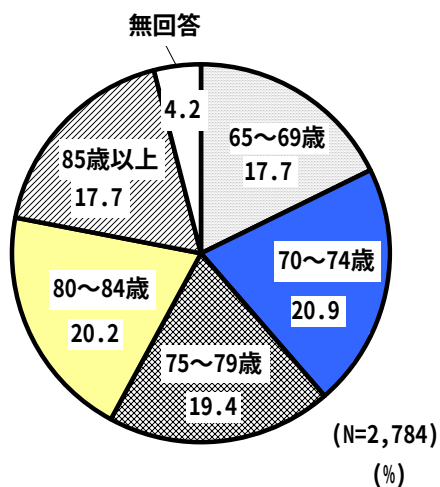
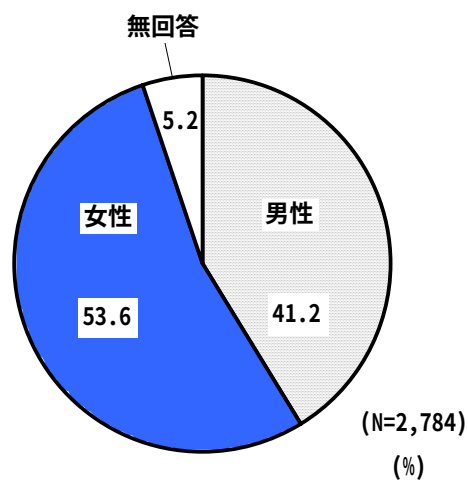


図 1-2 性別構成



調査対象者の年齢構成は、「70～74 歳」が 20.9%と最も多く、「65～69 歳」「85 歳以上」がともに 17.7%と最も少なくなっている。

性別構成については、男性 41.2%、女性 53.6%と女性の方が多くなっている。

(3) 居住地域

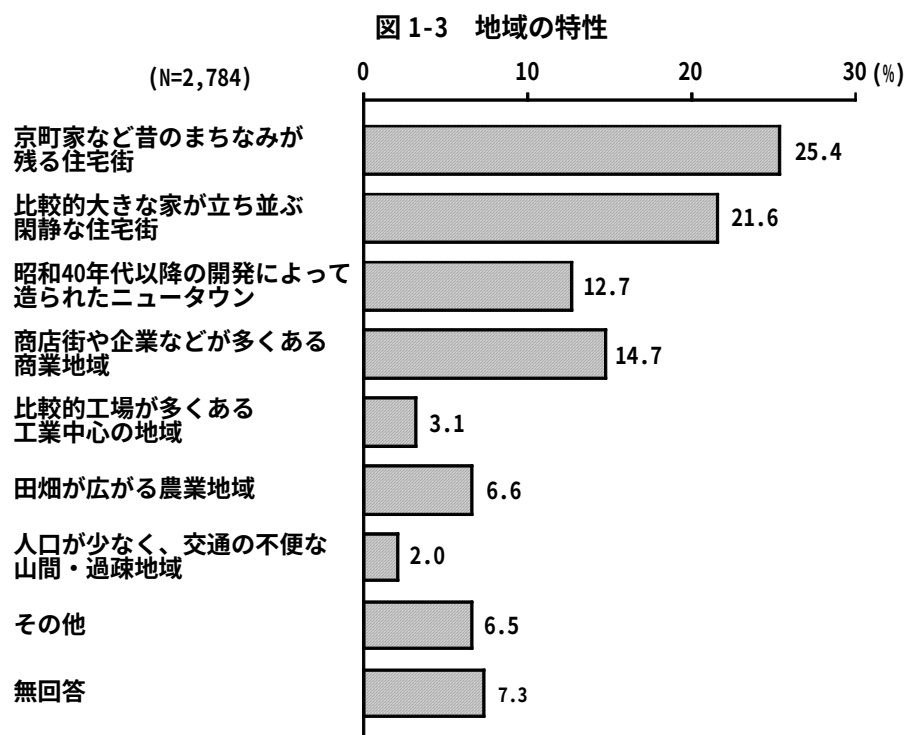
ア 居住地区

表 1-3 居住地区

調査数	北区	上京区	左京区	中京区	東山区	山科区	下京区	南区	右京区（京北町を含む）	西京区	洛西支所	伏見区	深草支所	醍醐支所	無回答
2784 100.0	228 8.2	204 7.3	359 12.9	225 8.1	112 4.0	197 7.1	158 5.7	138 5.0	376 13.5	222 8.0	18 0.6	348 12.5	47 1.7	40 1.4	112 4.0

居住地区をみると、「右京区（京北町を含む）」が 13.5%と最も多く、「左京区」「伏見区」も 10%を超えている。

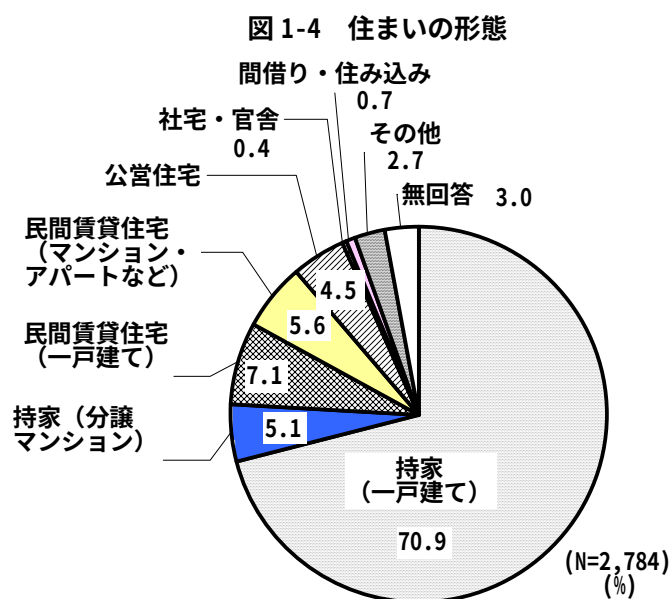
イ 地域の特性



お住まいの地域については、「京町家など昔のまちなみが残る住宅街」が 25.4%と最も多く、次いで「比較的大きな家が立ち並ぶ閑静な住宅街」(21.6%)、「商店街や企業などがある商業地域」(14.7%)、「昭和 40 年代以降の開発によって造られたニュータウン」(12.7%) の順となっている。

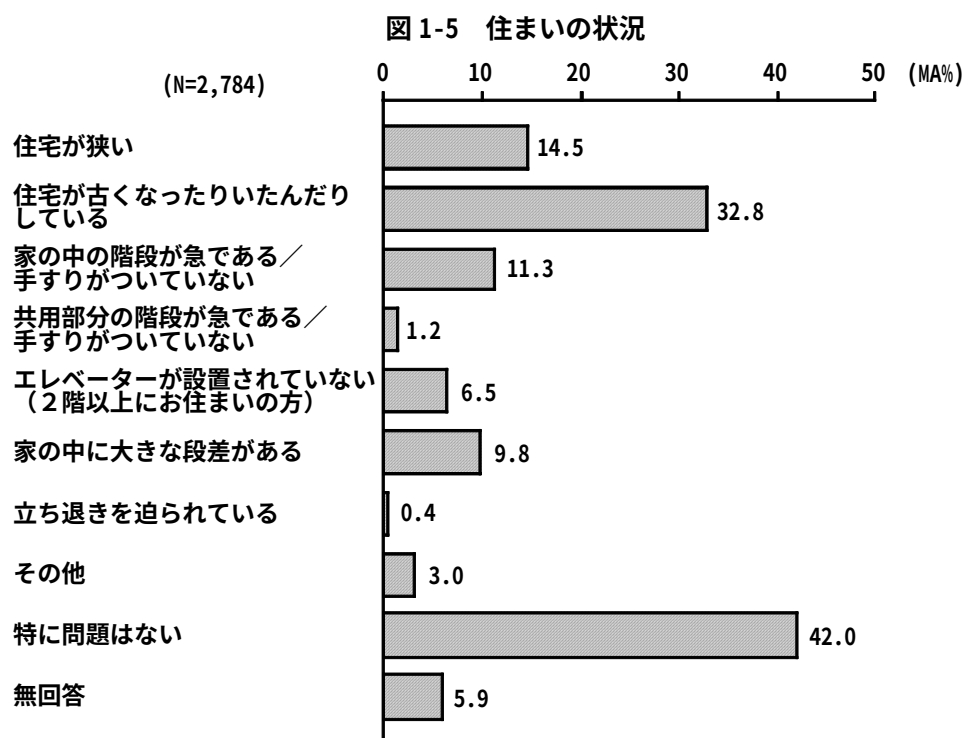
(4) 住居形態

ア 住まいの形態



住まいの形態をみると、「持家（一戸建て）」が 70.9%と圧倒的に多く、そのほかは「民間賃貸住宅（一戸建て）」が 7.1%、「民間賃貸住宅（マンション・アパートなど）」が 5.6%などとなっている。

イ 住まいの状況

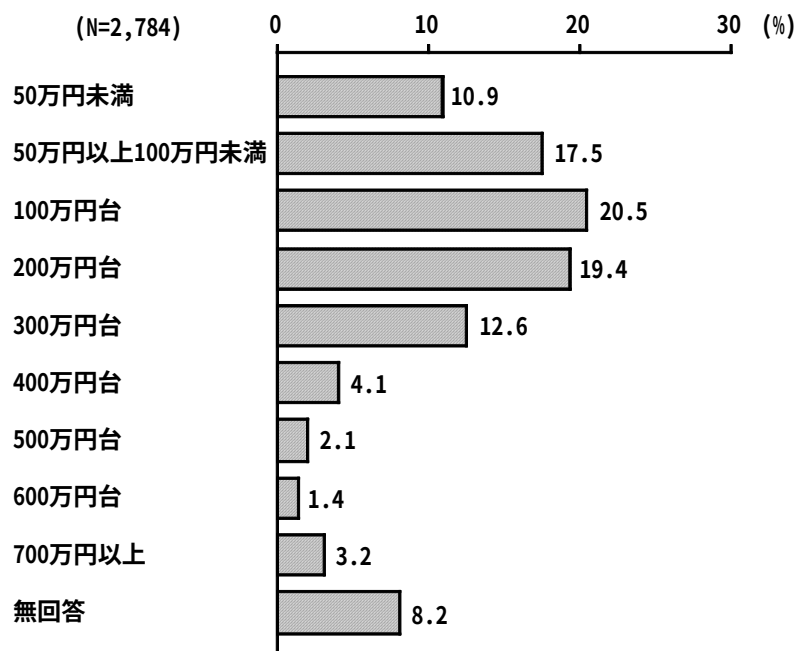


住まいの状況については、「住宅が古くなったりいたんだりしている」が 32.8%と最も多く、次いで「住宅が狭い」（14.5%）、「家の中の階段が急である／手すりがついていない」（11.3%）となっている。

(5) 収入

ア 本人の年収

図 1-6 ア 本人の年収

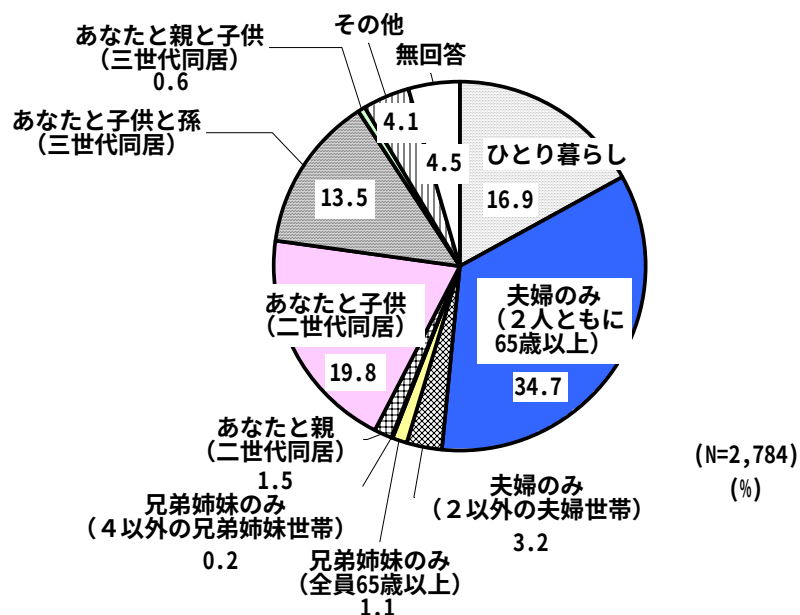


調査対象者本人の年収は、「100 万円台」が 20.5%と最も多く、次いで「200 万円台」が 19.4%となっている。

(6) 世帯の状況

ア 世帯構成

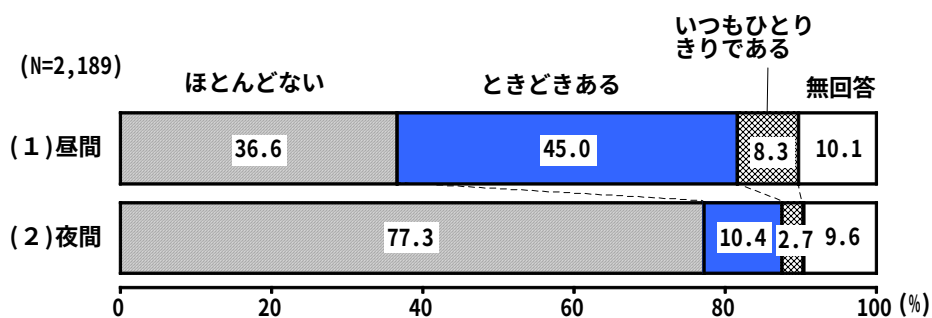
図 1-7 世帯構成



世帯構成は「夫婦のみ（2 人とも 65 歳以上）」が 34.7%と最も多く、次いで「あなたと子供（二世帯同居）」（19.8%）, 「ひとり暮らし」（16.9%）, 「あなたと子供と孫（三世帯同居）」（13.5%）となっている。

イ 昼間独居等の状況

図 1-8 昼間独居等の状況



家族と同居している高齢者のうち、昼間、ひとりきりになることがある人は53.3%を占め、「いつもひとりきりである」は8.3%となっている。

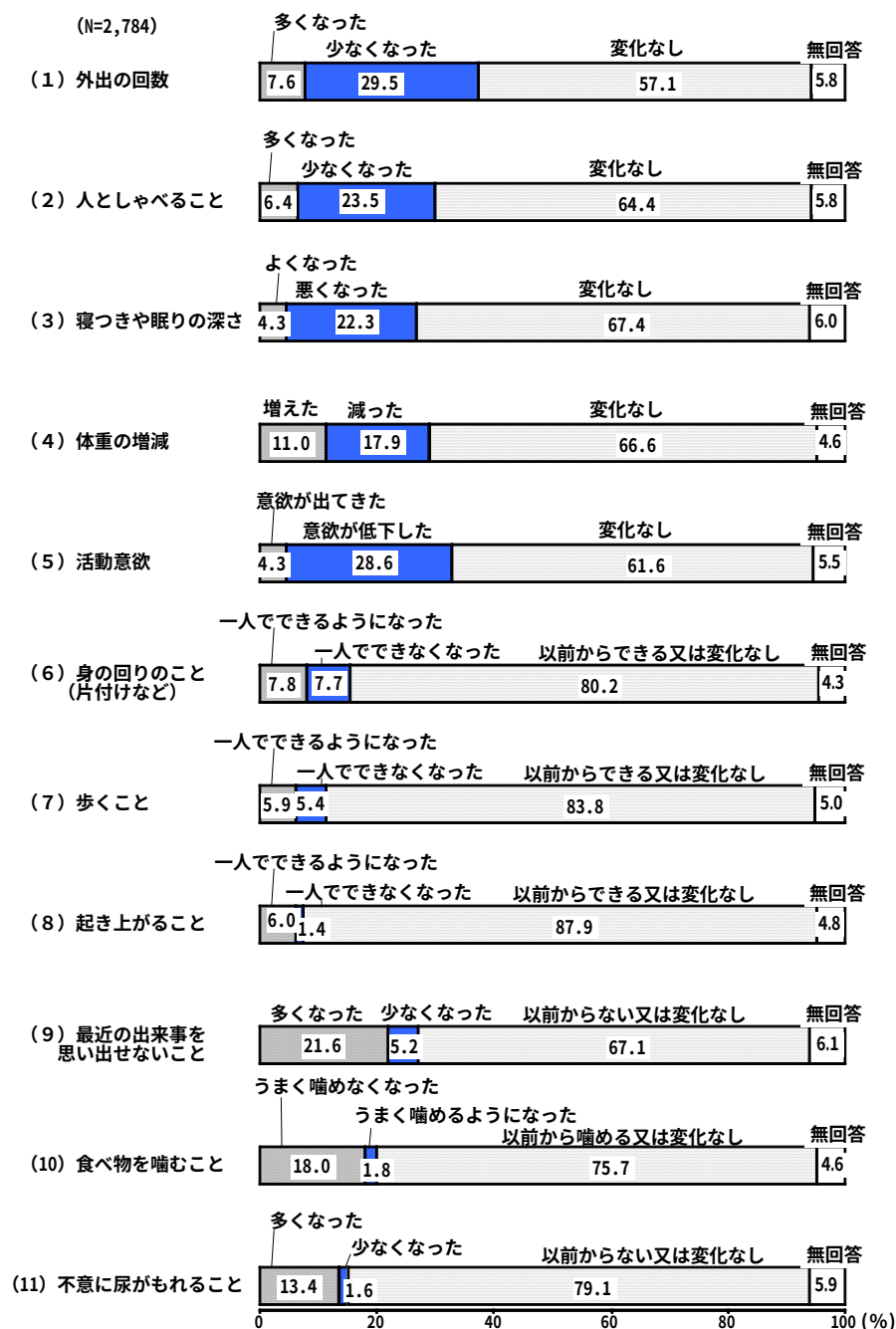
同様に、夜間、ひとりきりになることがある人は13.1%であり、「いつもひとりきりである」は2.7%となっている。

2 身体・生活の状況について

(1) 最近半年間の心身の変化

ア 最近半年間の心身の変化

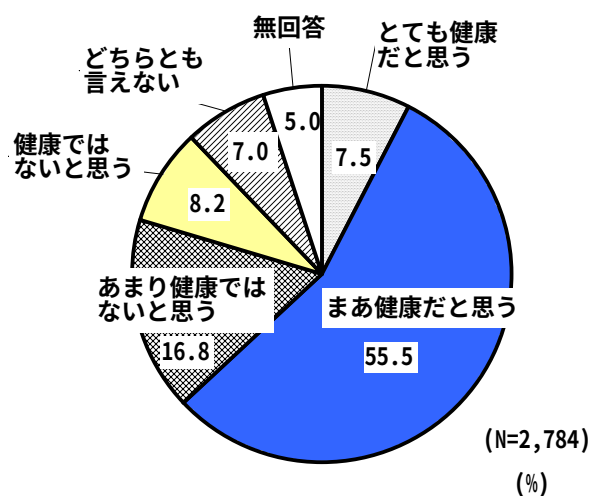
図 2-1 最近半年間の心身の変化



この半年間に心身の状態に変化が見られたかたずねたところ、いずれの項目でも「変化なし」が過半数を占めているが、『(1) 外出の回数』をはじめとして、『(5) 活動意欲』『(2) 人としゃべること』『(3) 寝つきや眠りの深さ』『(9) 最近の出来事を思い出せないこと』の各項目では、悪化もしくは低下を表す回答が20%を超えている。

イ 日ごろの健康状態

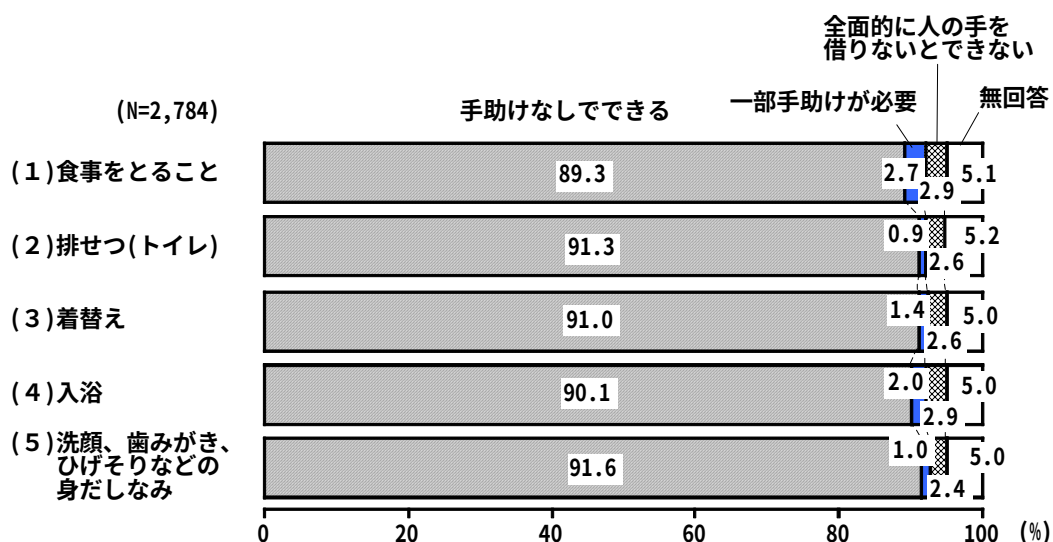
図 2-2 日ごろの健康状態



日ごろの健康状態については、『健康だと思う（計）』（「とても健康だと思う」に「まあ健康だと思う」を加えた割合）が 63.0%を占め、『健康ではないと思う（計）』（「健康ではないと思う」に「あまり健康ではないと思う」を加えた割合）は 25.0%となっている。

(2) 日常生活動作（基本的ADL）

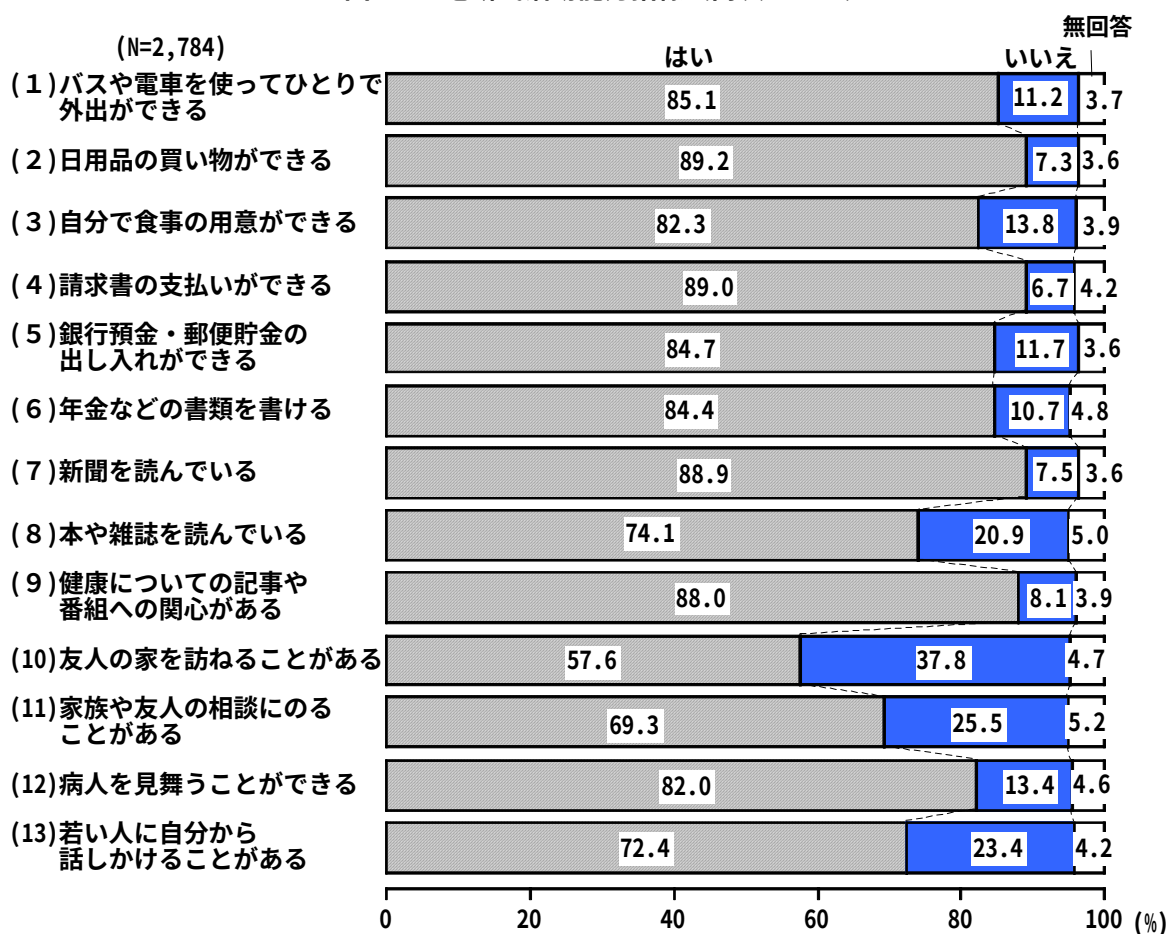
図 2-3 日常生活動作（基本的ADL）



基本的な日常基本動作についてみると、いずれの項目でも「手助けなしでできる」が 90%前後を占めている。「全面的に人の手を借りないとできない」または「一部手助けが必要」は『(1) 食事をとること』で 5.6%となっている。

(3) 老研式活動能力指標（高次ADL）

図 2-4 老研式活動能力指標（高次ADL）

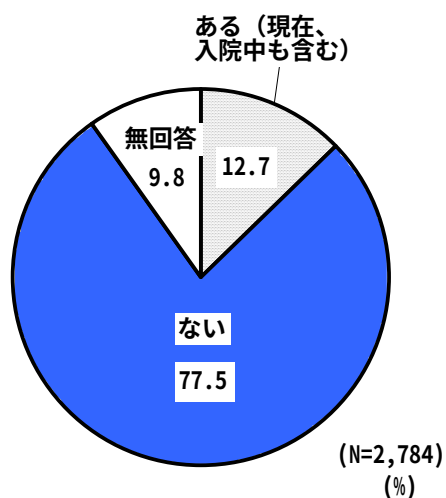


高次の日常生活動作については、大部分の項目で「はい」が80%以上を占めるが、『(10) 友人の家を訪ねることがある』(57.6%)、『(11) 家族や友人の相談にのることがある』(69.3%)などでやや低くなっている。

(4) 入院経験と現在治療を受けている病気

ア この1年間に入院した経験

図 2-5 この1年間に入院した経験



この1年間に入院したことがある人は、現在入院中の人も含め 12.7%となっている。

イ 現在治療を受けている病気

表 2-1 現在治療を受けている病気

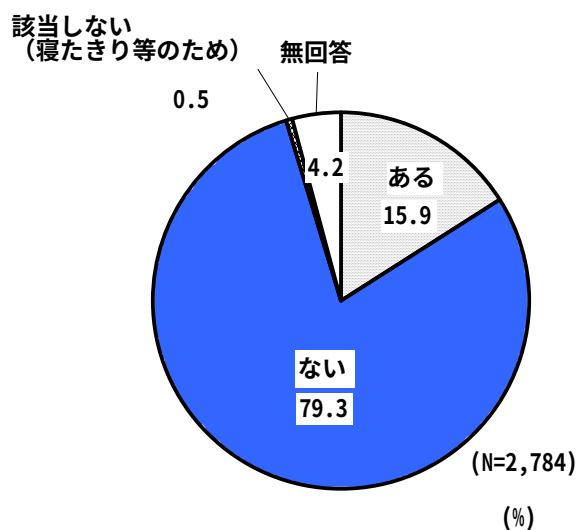
調査数	高血圧症	高脂血症	心臓病（心筋梗塞、狭心症など）	脳血管疾患（脳梗塞、脳出血など）	呼吸器系疾患（喘息、肺炎など）	結核	消化器系疾患	泌尿器系疾患	腎臓病	肝臓病	糖尿病	腰痛、膝痛などの病気	眼の病気	耳、鼻の病気	精神疾患	歯の病気	その他	特にない	無回答
2784	930	226	409	120	144	9	321	197	56	81	264	797	671	209	35	503	219	383	182
100.0	33.4	8.1	14.7	4.3	5.2	0.3	11.5	7.1	2.0	2.9	9.5	28.6	24.1	7.5	1.3	18.1	7.9	13.8	6.5

現在治療を受けている病気としては、「高血圧症」が 33.4%と最も多く、次いで「腰痛、膝痛などの病気」(28.6%)、「眼の病気」(24.1%)、「歯の病気」(18.1%)の順となっている。

(5) 転倒経験

ア この1年間に転倒してケガをした経験

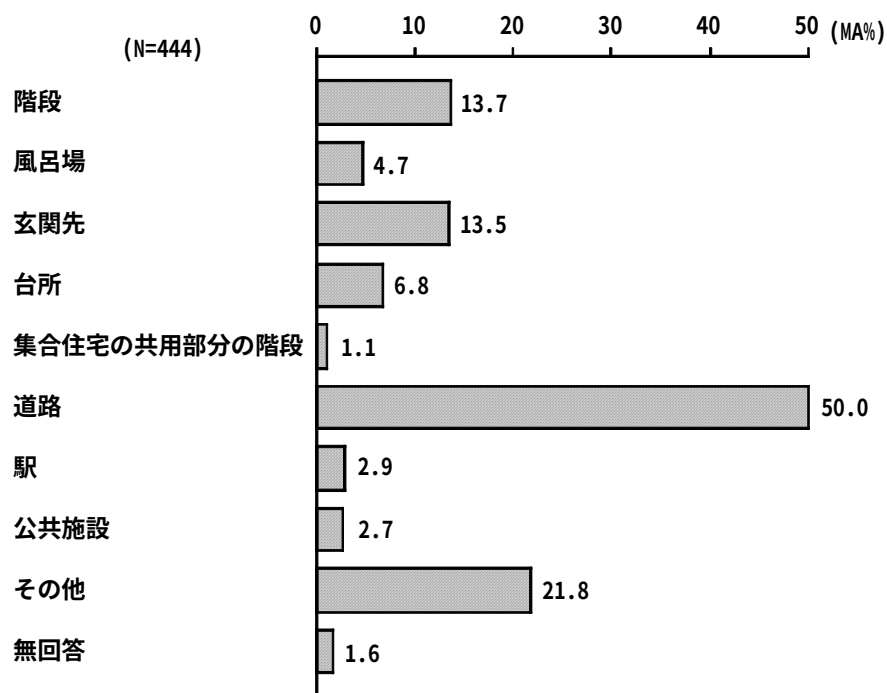
図 2-6 この1年間に転倒してケガをした経験



この1年間に転倒してケガをしたことがある人は、15.9%となっている。

イ 転倒した場所

図 2-7 転倒した場所

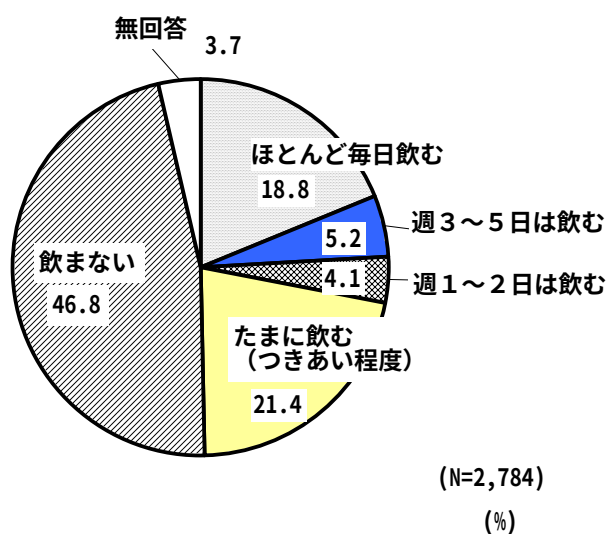


転倒した場所としては、「道路」が 50.0%と圧倒的に多く、「階段」「玄関先」もそれぞれ 10%を超えている。

(6) 飲酒・喫煙の習慣

ア 飲酒の状況

図 2-8 飲酒の状況

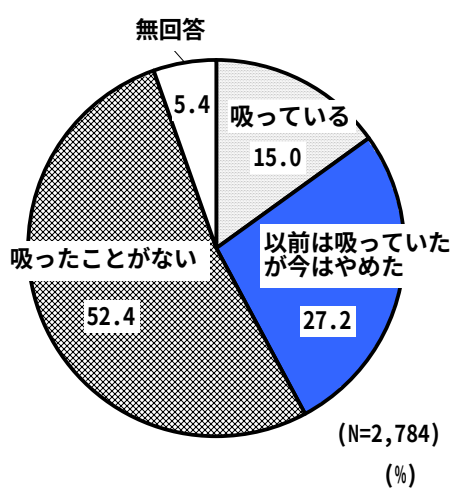


週 1 回以上の飲酒習慣のある人は 28.1%であり、「ほとんど毎日飲む」が 18.8%となっている。

イ 喫煙の状況

図 2-9 喫煙の状況

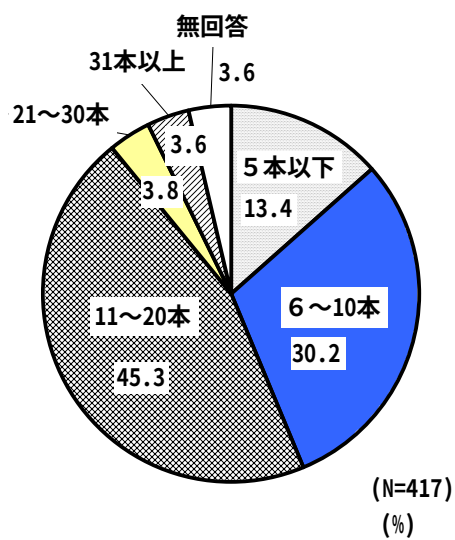
【図 喫煙の状況】



現在、喫煙の習慣のある人は全体の 15.0%であり、「以前吸っていたが今はやめた」(27.2%)を含めると 40%強となる。

ウ 1日の喫煙本数

図 2-10 1日の喫煙本数

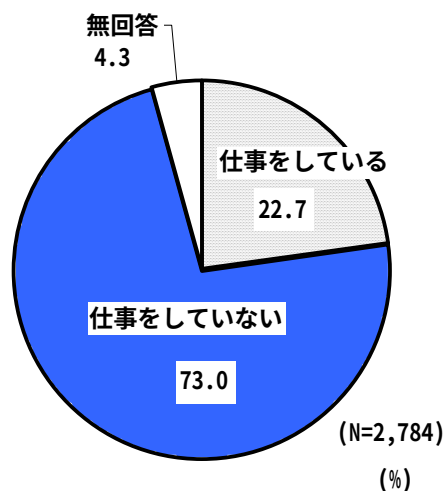


1日の喫煙本数をみると、「11～20本」が45.3%と最も多く、次いで「6～10本」が30.2%となっている。

(7) 就労状況

ア 就労の有無

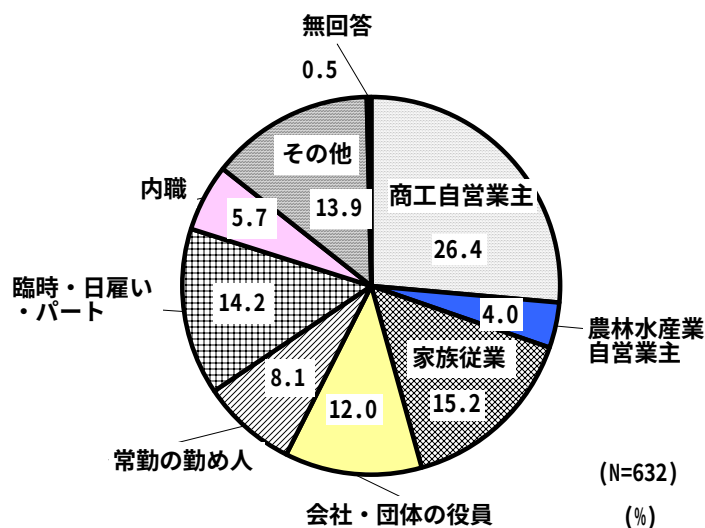
図 2-11 就労の有無



現在、就労している人は22.7%、就労していない人は73.0%となっている。

イ 就労形態

図 2-12 就労形態

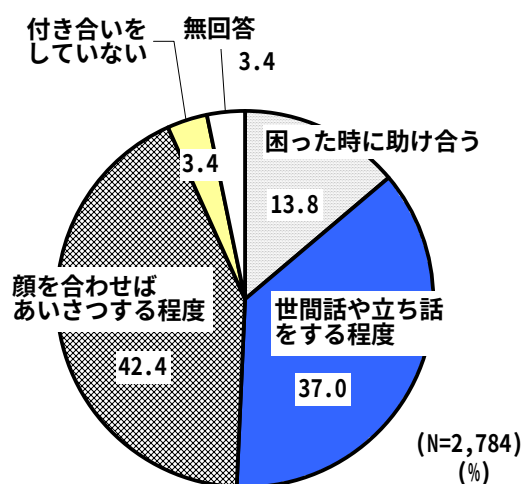


就労している場合の形態は、「商工自営業主」が26.4%と最も多く、次いで「家族従業」(15.2%)、「臨時・日雇い・パート」(14.2%)、「会社・団体の役員」(12.0%)の順となっている。

(8) 近所付き合いと社会参加・生きがい活動の状況

ア 近所付き合いの程度

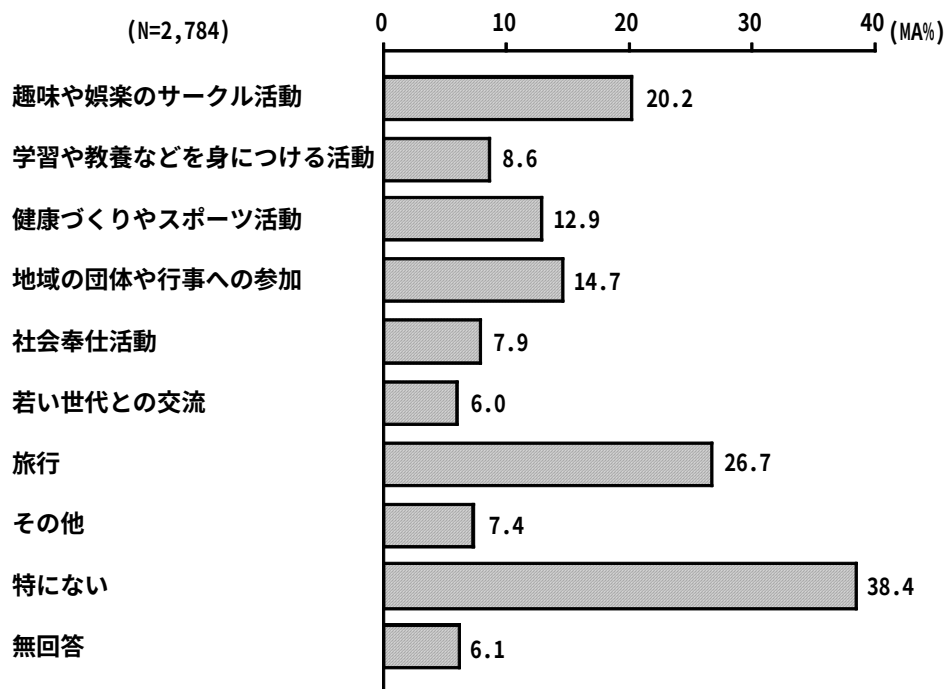
図 2-13 近所付き合いの程度



近所付き合いの程度をみると、「顔を合わせばあいさつする程度」が 42.4%と最も多く、次いで「世間話や立ち話をする程度」(37.0%)、「困った時に助け合う」(13.8%)となっている。

イ 生きがい活動への参加状況

図 2-14 生きがい活動への参加状況

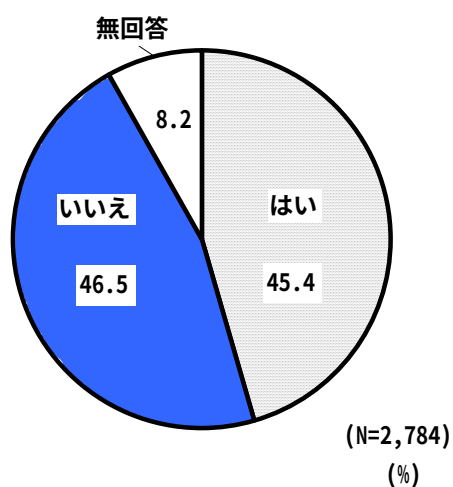


現在参加している生きがい活動は、「旅行」が 26.7%と最も多く、次いで「趣味や娯楽のサークル活動」(20.2%)、「地域の団体や行事への参加」(14.7%)、「健康づくりやスポーツ活動」(12.9%) などとなっている。

(9) 運動やスポーツの状況

ア 運動やスポーツの有無

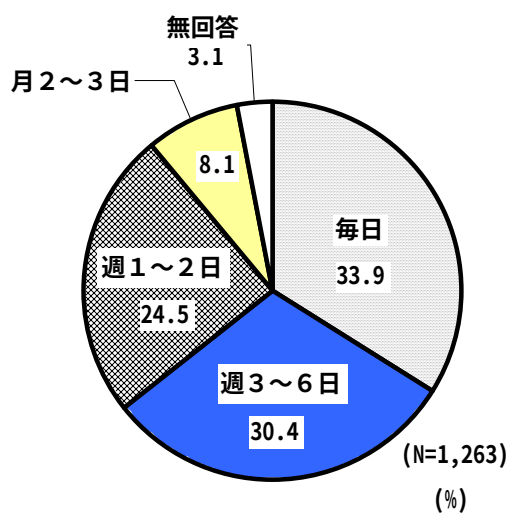
図 2-15 運動やスポーツの有無



日ごろから意識して運動やスポーツをしている人は、全体の 45.4% となっている。

イ 運動やスポーツを行う頻度

図 2-16 運動やスポーツを行う頻度

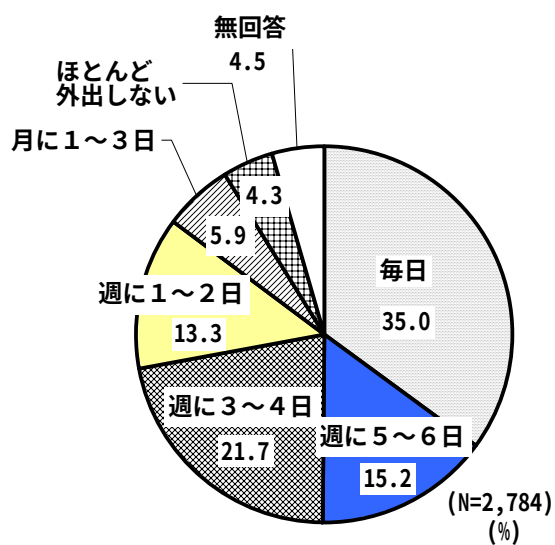


運動やスポーツをする頻度は、「毎日」が 33.9% と最も多く、次いで「週3～6日」(30.4%) 「週1～2日」(24.5%) となっている。

(10) 外出の状況

ア 外出の頻度

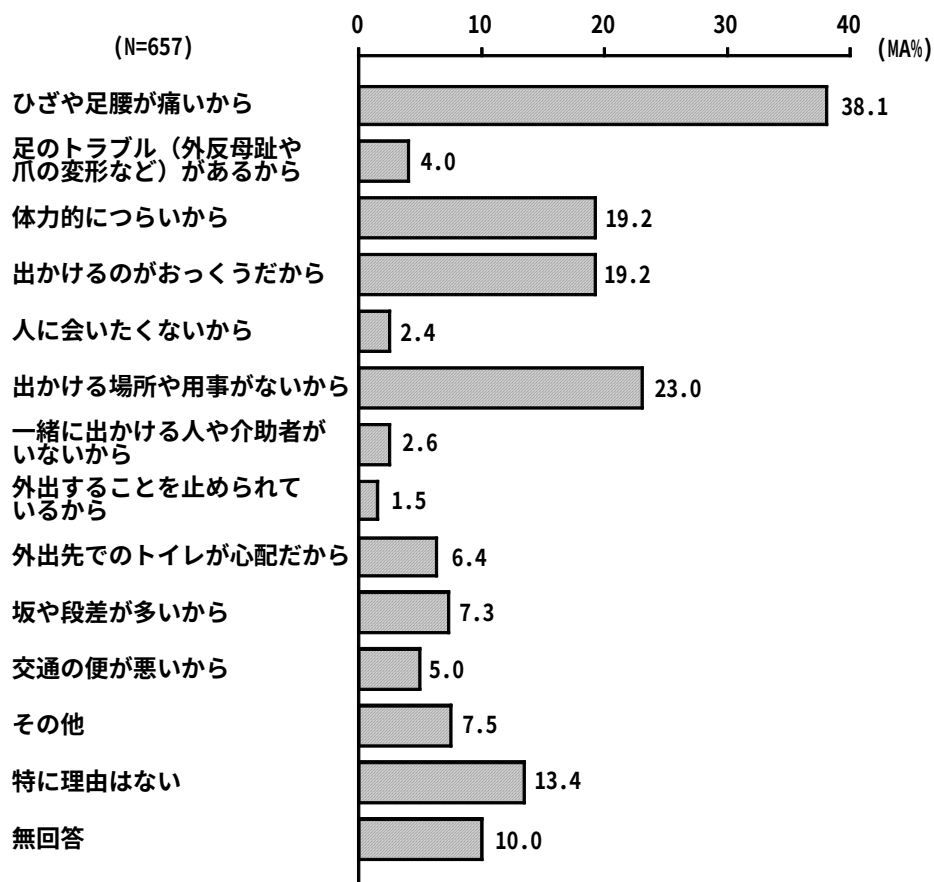
図 2-17 外出の頻度



外出する頻度をみると、「毎日」が35.0%と最も多く、次いで「週に3～4日」(21.7%)、「週に5～6日」(15.2%)、「週に1～2日」(13.3%)の順となっている。

イ 外出を控える理由

図 2-18 外出を控える理由



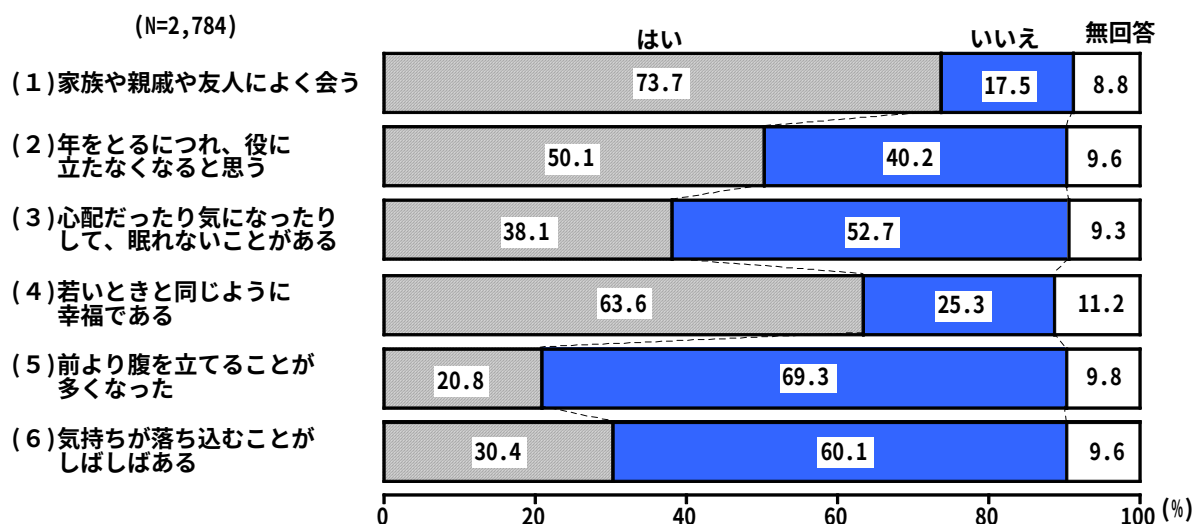
外出頻度が週に1～2日以下の人に外出を控える理由をたずねたところ、「ひざや足腰が痛いから」が38.1%と最も多く、次いで「出かける場所や用事がないから」が23.0%、「体力的につらいから」「出かけるのがおっくうだから」がともに19.2%となっている。

3 介護予防と介護のあり方について

(1) 主観的幸福感と心身の変化に対する意識

ア 主観的幸福感（モラール・スケール）

図 3-1 主観的幸福感（モラール・スケール）

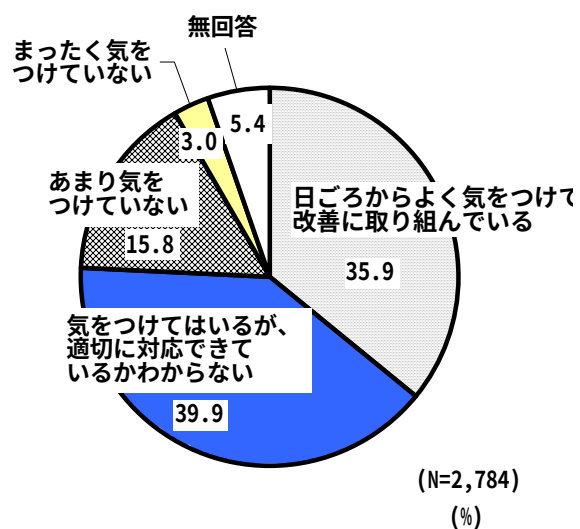


『(1) 家族や親戚や友人によく会う』『(4) 若いときと同じように幸福である』と回答した人は、順に 73.7%、63.6%と多くなっている。

『(3) 心配だったり気になったりして、眠れないことがある』『(5) 前より腹を立てることが多くなった』『(6) 気持ちが落ち込むことがしばしばある』の各項目では「いいえ」が過半数を占めたが、『(2) 年をとるにつれ、役に立たなくなると思う』については「はい」が 50.1%と多くなっている。

イ 心身の変化に対する意識

図 3-2 心身の変化への対応・改善の有無

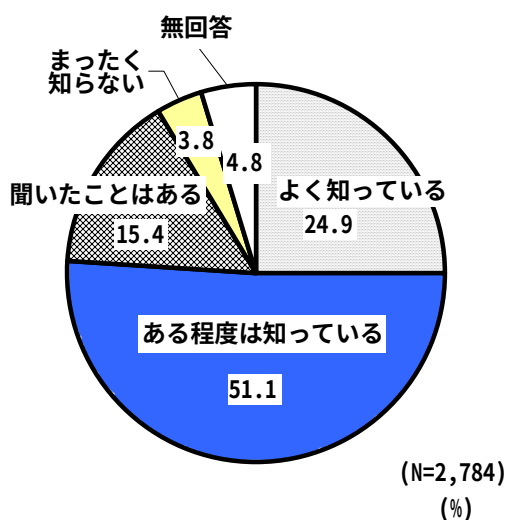


心身の変化に対して日ごろから配慮している人は全体の約 75%を占め、「改善に取り組んでいる」人は 35.9%となっている。

(2) 介護予防に関する知識と取り組み

ア 老化予防・介護予防に関する理解

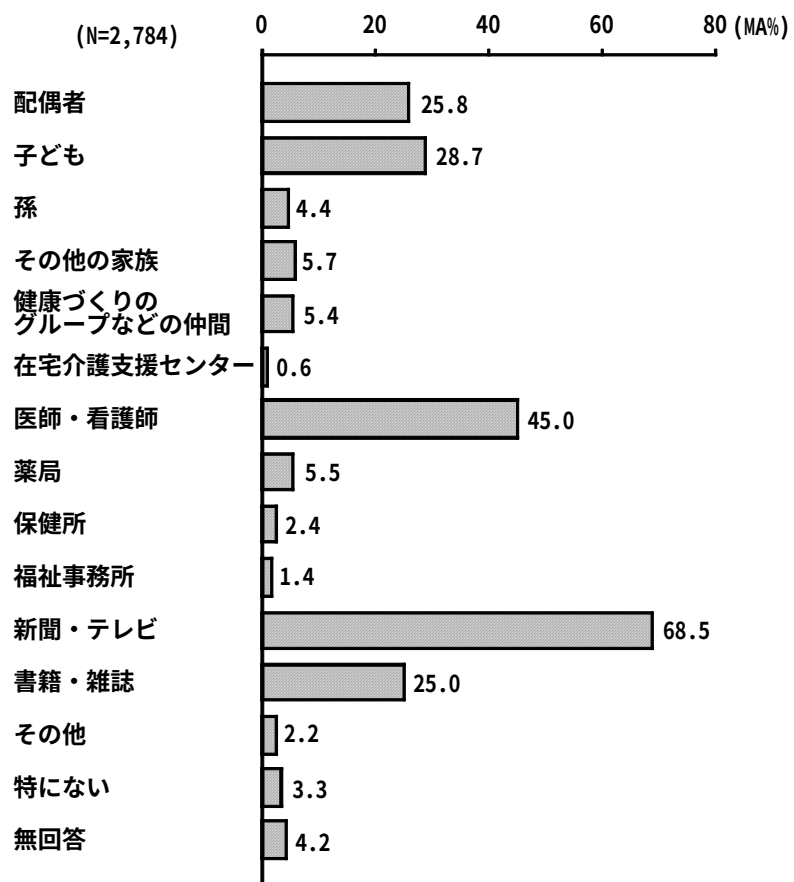
図 3-3 老化予防・介護予防に関する理解



介護予防や老化予防について「知っている」と答えた人は、「よく知っている」と「ある程度知っている」を合わせて 76.0%となっている。

イ 病気・老化の予防や健康づくりに関する情報源

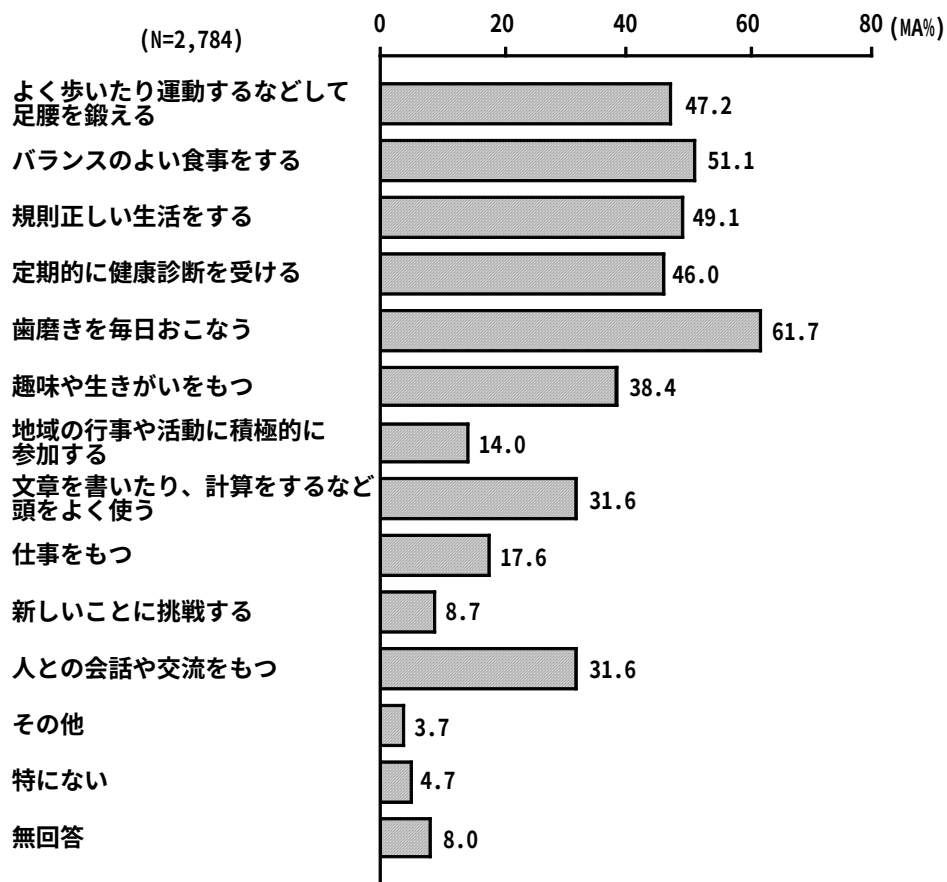
図 3-4 病気・老化の予防や健康づくりに関する情報源



病気・老化予防や健康づくりに関する情報源としては、「新聞・テレビ」が 68.5%と最も多く、次いで「医師・看護師」(45.0%)、「子ども」(28.7%)、「配偶者」(25.8%)、「書籍・雑誌」(25.0%)の順となっている。

ウ 病気・老化の予防のために取り組んでいること

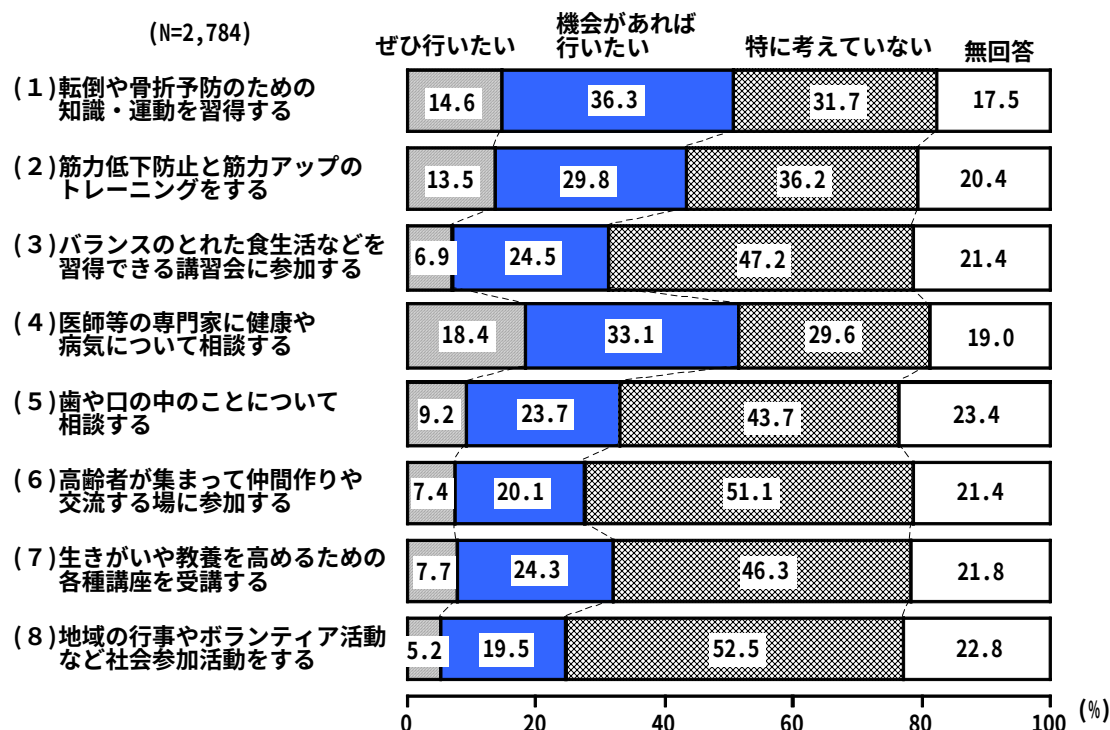
図 3-5 病気・老化の予防のために取り組んでいること



病気・老化予防のために取り組んでいることとしては、「歯磨きを毎日おこなう」が61.7%と最も多く、次いで「バランスのよい食事をする」(51.1%)、「規則正しい生活をする」(49.1%)、「よく歩いたり運動するなどして足腰を鍛える」(47.2%)、「定期的に健康診断を受ける」(46.0%) などとなっている。

エ 病気・老化の予防や健康づくりのために行いたいこと

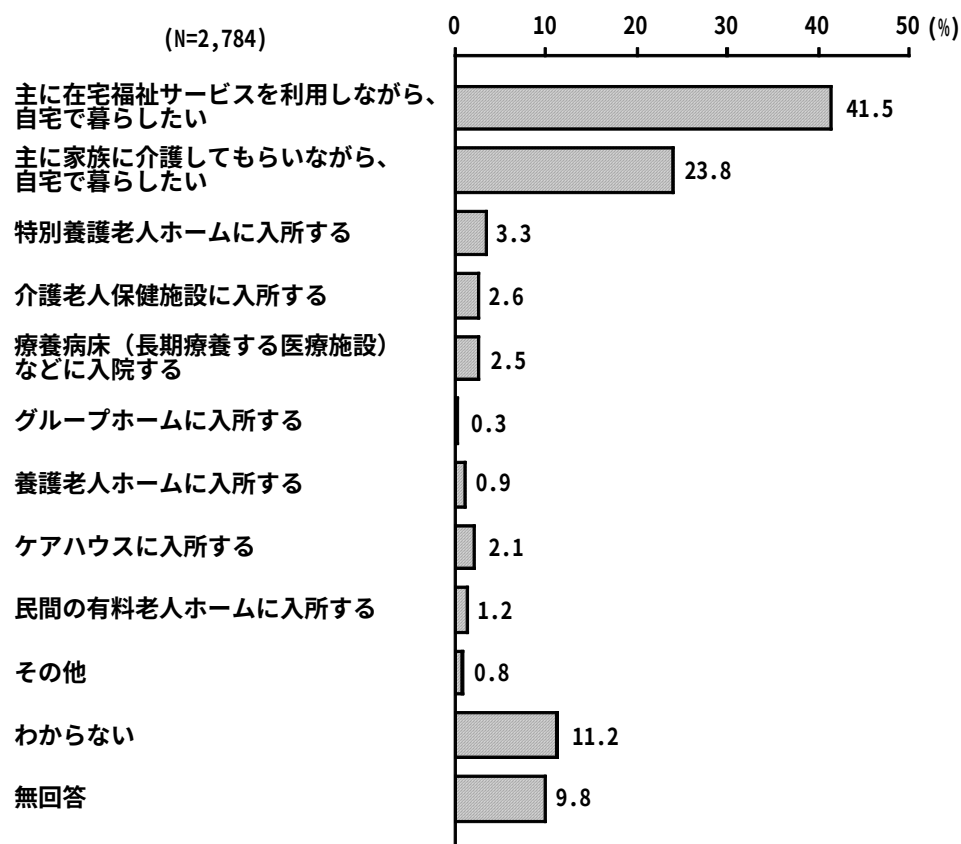
図 3-6 病気・老化の予防や健康づくりのために行いたいこと



病気・老化予防や健康づくりのために今後行いたいこと（「ぜひ行いたい」に「機会があれば行いたい」を加えた割合）としては、『(4) 医師等の専門家に健康や病気について相談する』が 51.5%と最も多く、次いで『(1) 転倒や骨折予防のための知識・運動を習得する』(50.9%)、『(2) 筋力低下防止と筋力アップのトレーニングをする』(43.3%)となっている。

(3) 介護や援護が必要となった場合に希望する暮らし方

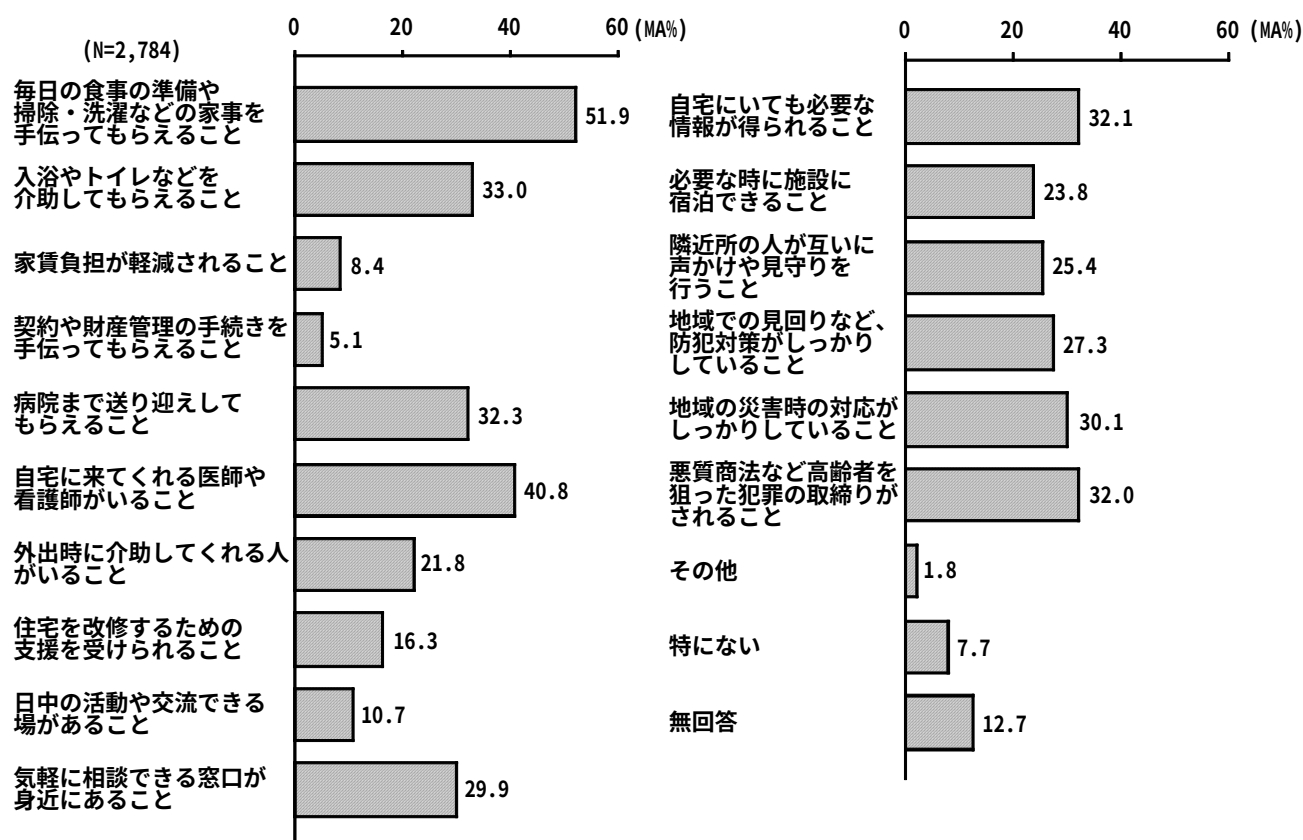
図 3-7 介護や援護が必要となった場合に希望する暮らし方



調査対象者本人に介護が必要となった場合に希望する暮らし方としては、「主に在宅福祉サービスを利用しながら、自宅で暮らしたい」が 41.5%、「主に家族に介護してもらいながら、自宅で暮らしたい」が 23.8%となっており、合計すると全体の 65.3%が自宅での生活を希望している。

(4) 在宅生活を続けていく上で必要な支援

図 3-8 在宅生活を続けていく上で必要な支援

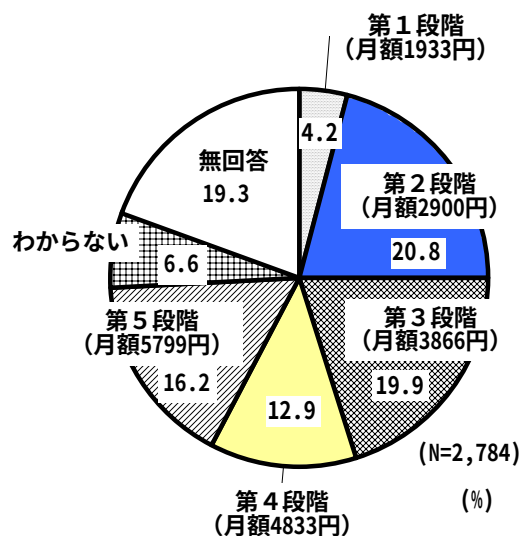


在宅生活を続けていく上で必要な支援としては、「毎日の食事の準備や掃除・洗濯などの家事を手伝ってもらえること」が51.9%と最も多く、次いで「自宅に来てくれる医師や看護師がいること」(40.8%)、「入浴やトイレなどを介助してもらえること」(33.0%)、「病院まで送り迎えしてもらえること」(32.3%)、「自宅にいても必要な情報が得られること」(32.1%)、「悪質商法など高齢者を狙った犯罪の取締りがされること」(32.0%) などとなっている。

4 介護保険制度について

(1) 第1号被保険者保険料の所得段階別区分

図 4-1 第1号被保険者保険料の所得段階別区分

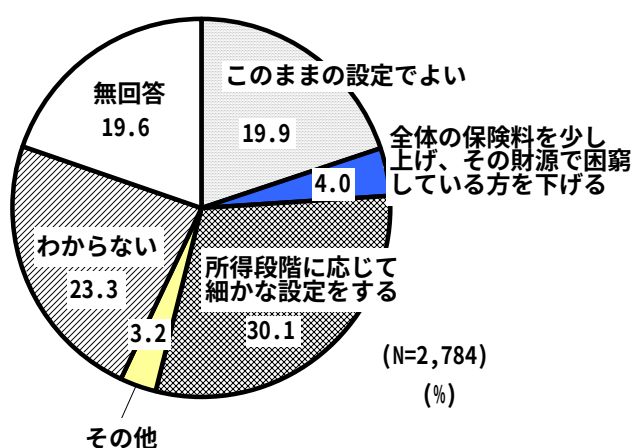


第1号被保険者保険料の所得段階別区分は、「第2段階」が20.8%、「第3段階」が19.9%と多くなっている。

(2) 保険料の設定および給付・負担のあり方についての意向

ア 介護保険料の設定方法について

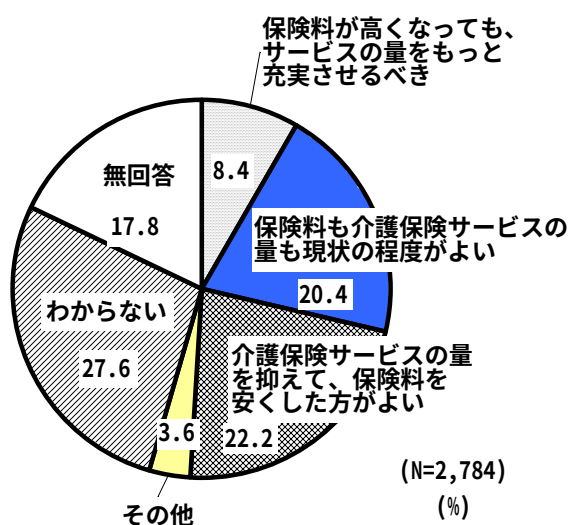
図 4-2 介護保険料の設定方法について



第1号被保険者の所得段階別保険料の設定方法については、「所得段階に応じて細かな設定をする」が30.1%と多く、「このままの設定でよい」は19.9%、「全体の保険料を少し上げ、その財源で困窮している方を下げる」は4.0%となっている。

イ 今後の保険料のあり方について

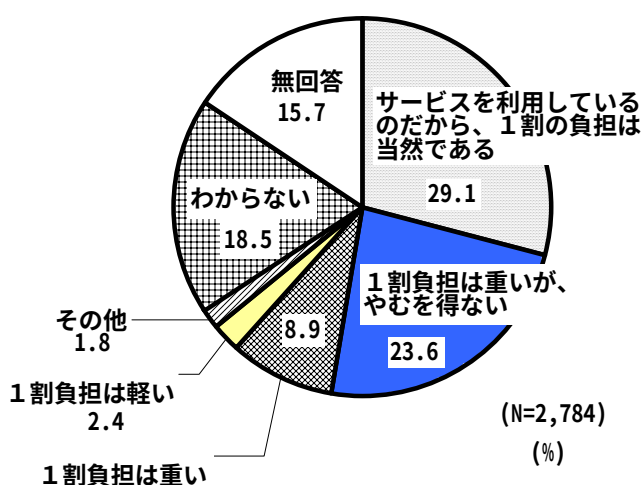
図 4-3 今後の保険料のあり方について



今後の保険料のあり方としては、「介護保険サービスの量を抑えて、保険料を安くした方がよい」「保険料も介護保険サービスの量も現状の程度がよい」がともに 20%強と多く、「保険料が高くなっても、サービスの量をもっと充実させるべき」は 8.4%となっている。

ウ 利用者負担について

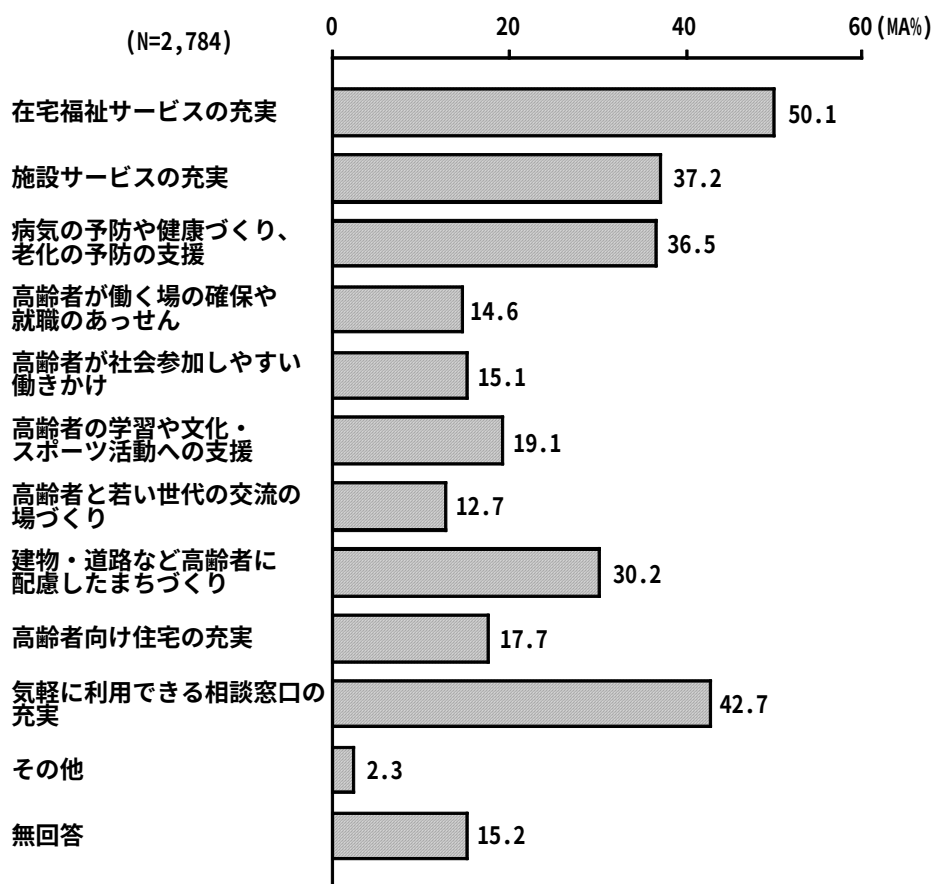
図 4-4 利用者負担について



介護サービス利用料の 1 割負担については、「サービスを利用しているのだから、1 割の負担は当然である」が 29.1%と最も多く、「1 割負担は重いが、やむを得ない」も 23.6%と多くなっている。

(3) 高齢者保健福祉施策に対する要望

図 4-5 高齢者保健福祉について充実を希望する施策



高齢者保健福祉について今後充実を望む施策としては、「在宅福祉サービスの充実」が 50.1%と最も多く、次いで「気軽に利用できる相談窓口の充実」(42.7%)、「施設サービスの充実」(37.2%)、「病気の予防や健康づくり、老化の防止の支援」(36.5%)、「建物・道路など高齢者に配慮したまちづくり」(30.2%)の順となっている。

1 対象者についての基本的事項

(1) 記入者

ア 記入者

表 1-1 記入者

調査数	宛名のご本人	ご家族	その他	無回答
1406 100.0	1308 93.0	55 3.9	1 0.1	42 3.0

アンケートの回答者は、「宛名のご本人」93.0%に対し、「ご家族」3.9%、「その他」0.1%となっている。

イ 本人が回答できない理由

表 1-2 本人が回答できない理由

調査数	病院に入院中	病气やけが	障害（身体障害、知的障害など）	別居・転居	答えたくない	その他	無回答
56 100.0	- -	3 5.4	12 21.4	3 5.4	10 17.9	27 48.2	1 1.8

本人が回答できない理由としては、「障害（身体障害、知的障害など）」が21.4%、「答えたくない」が17.9%などとなっている。

(2) 年齢別・性別構成

図 1-1 年齢構成

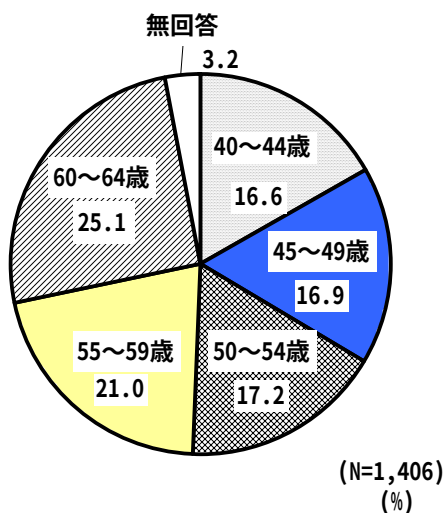
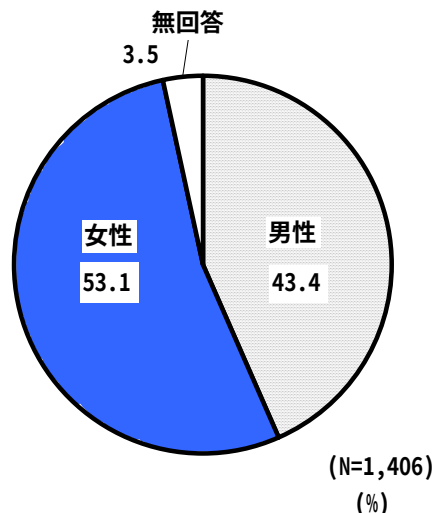


図 1-2 性別構成



調査対象者の年齢構成は、「60～64 歳」が 25.1%と最も多く、次いで「55～59 歳」21.0%と、年齢が下がるほど割合も低くなっている。

性別構成については、男性 43.4%、女性 53.1%と女性の方が多くなっている。

(3) 居住地域

ア 居住地区

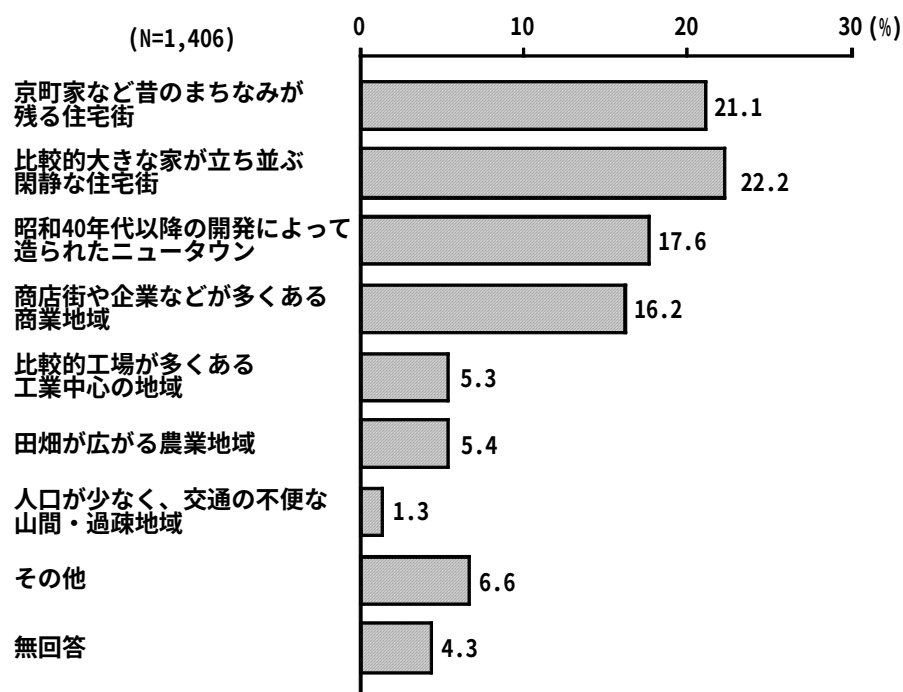
表 1-3 居住地区

調査数	北区	上京区	左京区	中京区	東山区	山科区	下京区	南区	右京区（京北町を含む）	西京区	洛西支所	伏見区	深草支所	醍醐支所	無回答
1406	106	69	146	102	51	116	67	82	188	142	18	241	16	23	39
100.0	7.5	4.9	10.4	7.3	3.6	8.3	4.8	5.8	13.4	10.1	1.3	17.1	1.1	1.6	2.8

居住地区をみると、「伏見区」が 17.1%と最も多く、「右京区（京北町を含む）」「左京区」「西京区」も 10%を超えている。

イ 地域の特徴

図 1-3 地域の特徴

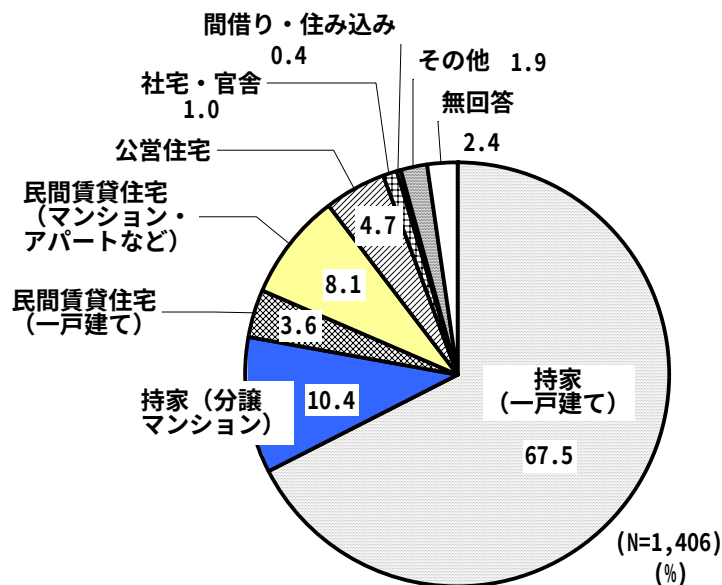


お住まいの地域については、「比較的大きな家が立ち並ぶ閑静な住宅街」「京町家など昔のまちなみが残る住宅街」がともに 20%強と多く、次いで「昭和 40 年代以降の開発によって造られたニュータウン」(17.6%)、「商店街や企業などが多くある商業地域」(16.2%) の順となっている。

(4) 住居形態

ア 住まいの形態

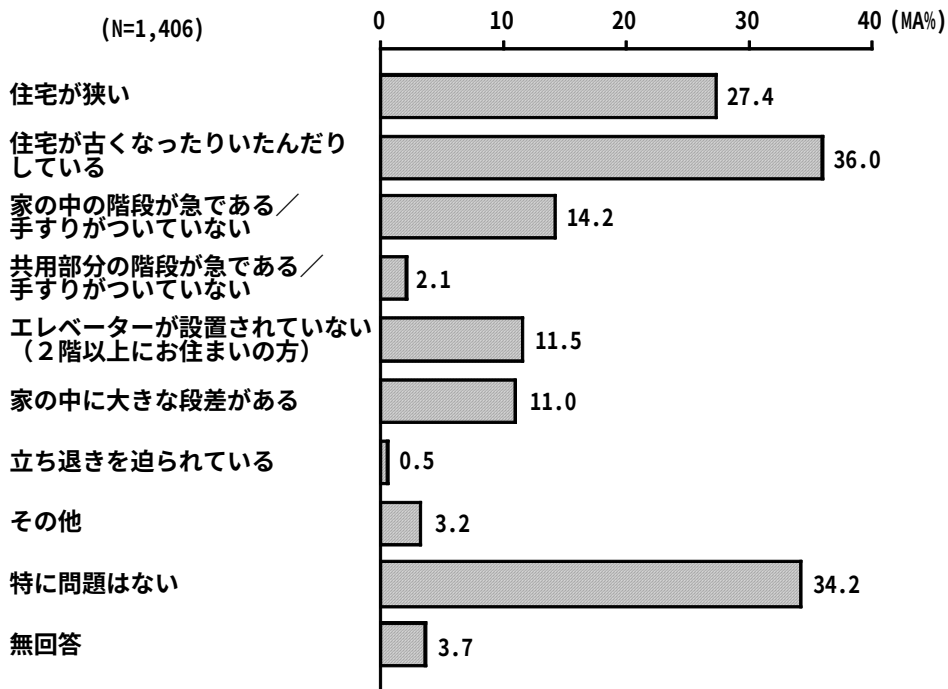
図 1-4 住まいの形態



住まいの形態をみると、「持家（一戸建て）」が 67.5%を占め、そのほかは「持家（分譲マンション）」が 10.4%、「民間賃貸住宅（マンション・アパートなど）」が 8.1%などとなっている。

イ 住まいの状況

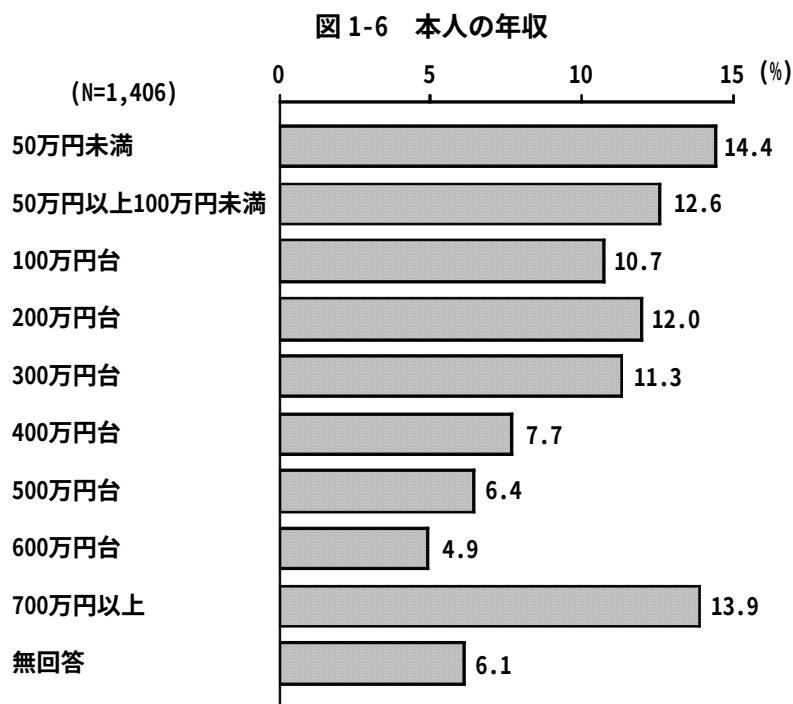
図 1-5 住まいの状況



住まいの状況については、「住宅が古くなったりいたんだりしている」が 36.0%と最も多く、次いで「住宅が狭い」（27.4%）、「家の中の階段が急である／手すりがついていない」（14.2%）となっている。

(5) 収入

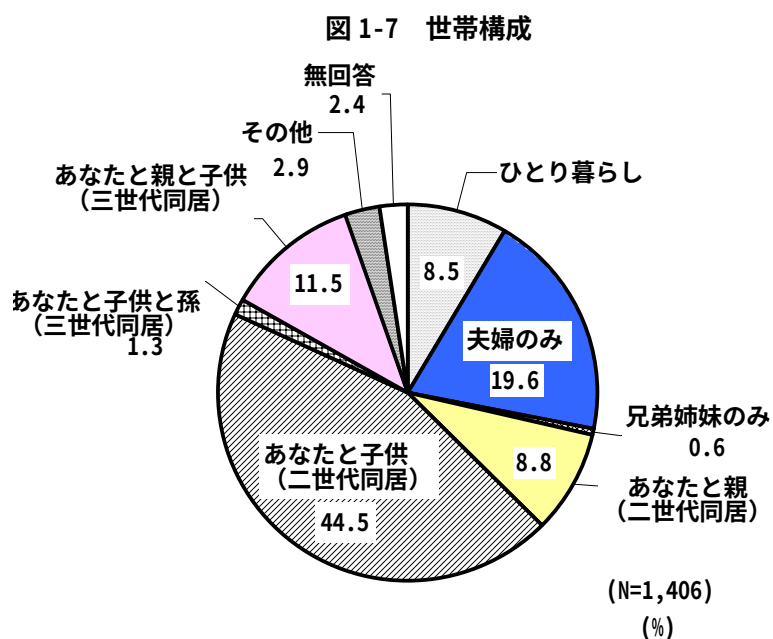
ア 本人の年収



調査対象者本人の年収は、「50 万円未満」(14.4%)、「700 万円以上」(13.9%)が多くなっている。

(6) 世帯の状況

ア 世帯構成



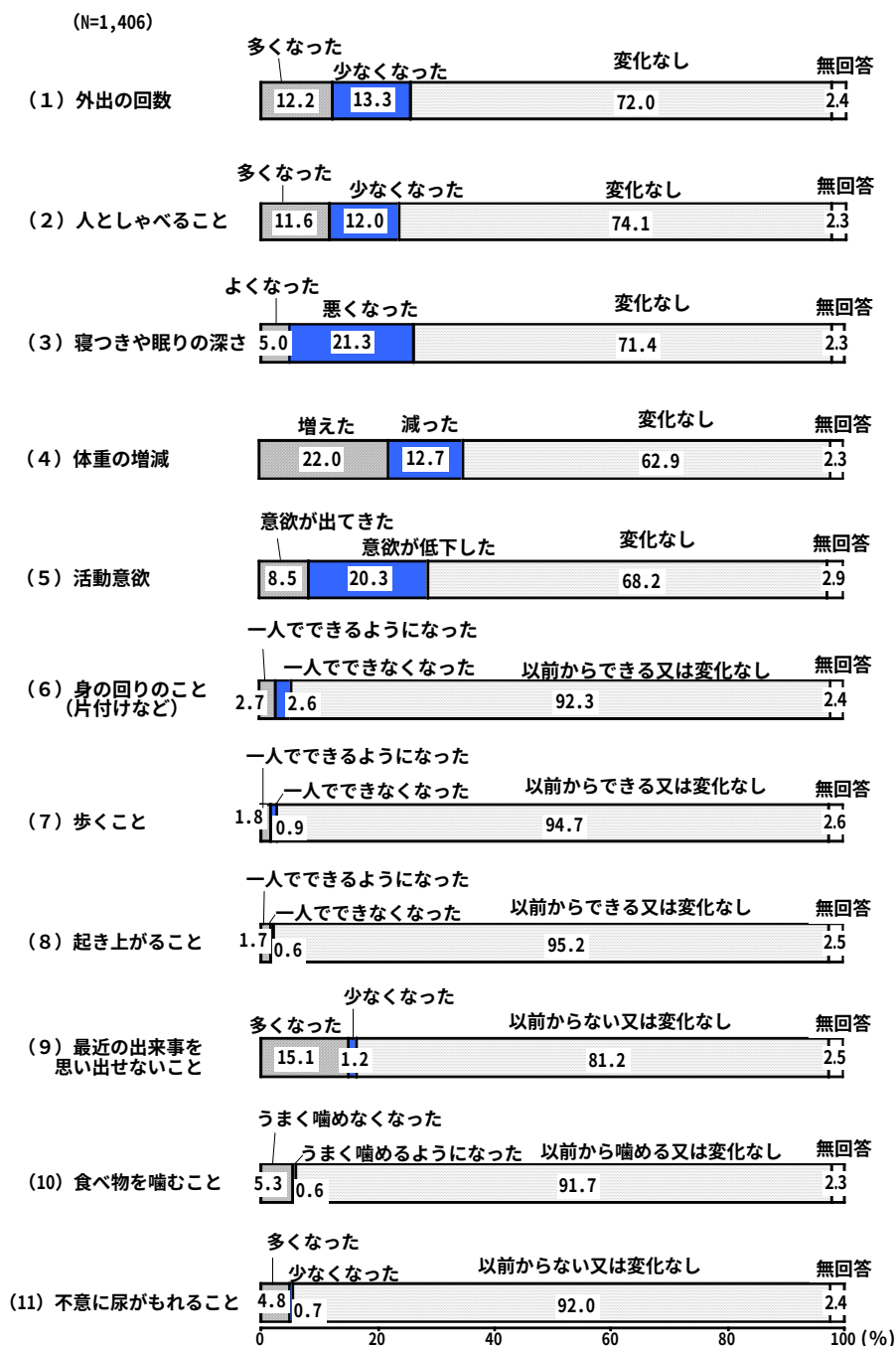
世帯構成は「あなたと子供(二世帯同居)」が 44.5%と多く、次いで「夫婦のみ」(19.6%)、「あなたと親と子供(三世帯同居)」(11.5%)、「あなたと親(二世帯同居)」(8.8%)、「ひとり暮らし」(8.5%)の順となっている。

2 身体・生活の状況について

(1) 最近半年間の心身の変化

ア 最近半年間の心身の変化

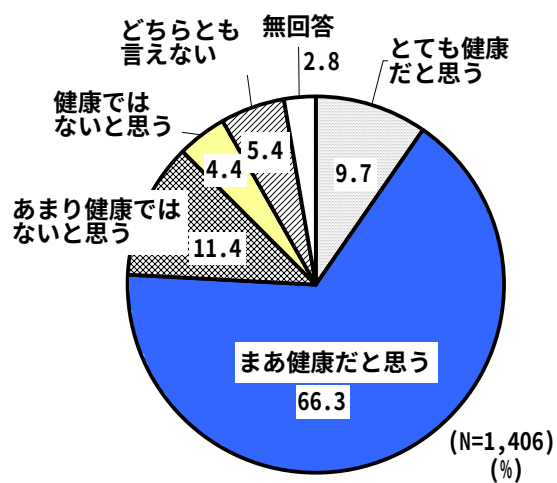
図 2-1 最近半年間の心身の変化



この半年間に心身状態に変化が見られたかたずねたところ、いずれの項目でも「変化なし」が60～90%台を占めるが、『(3) 寝つきや眠りの深さ』『(5) 活動意欲』の両項目では、悪化もしくは低下を表す回答が20%強と多くなっている。また、『(4) 体重の増減』については、「増えた」が22.0%、「減った」が12.7%となっている。

イ 日ごろの健康状態

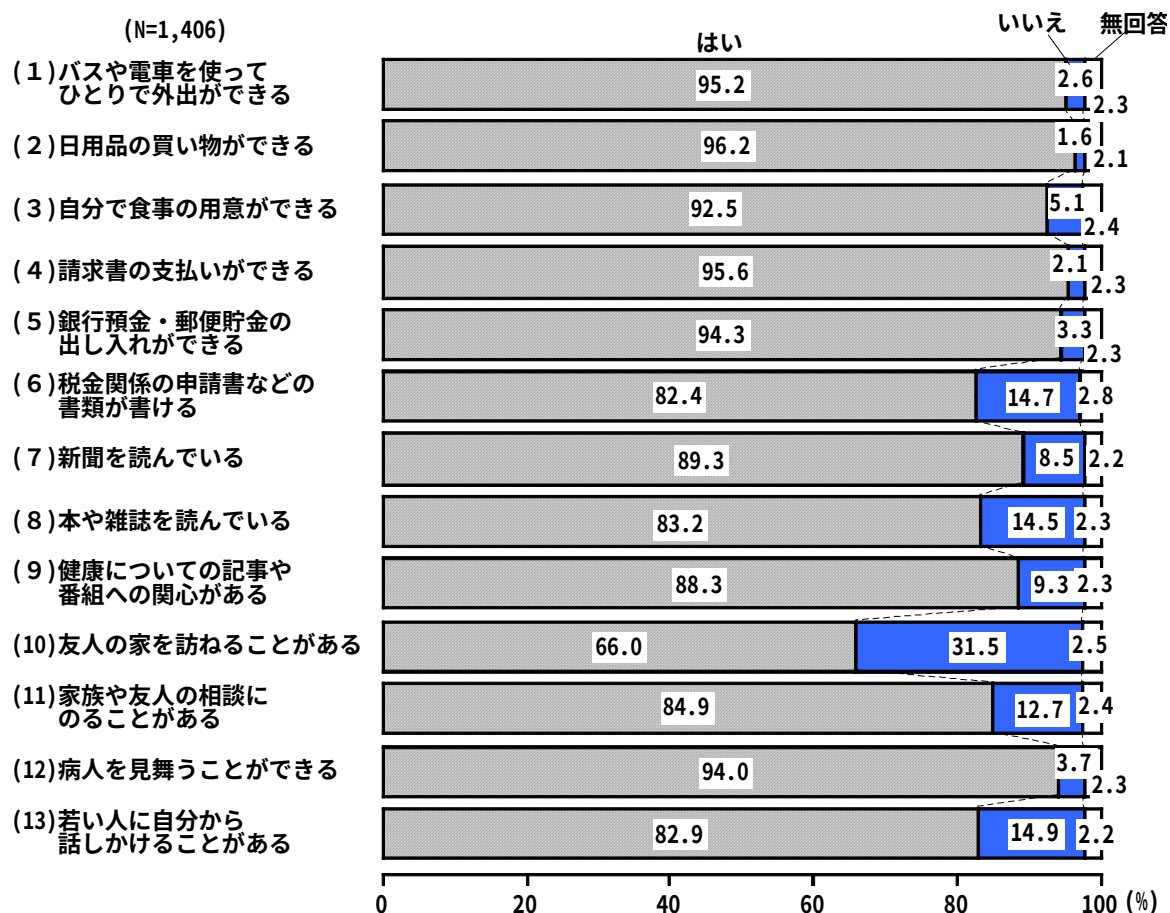
図 2-2 日ごろの健康状態



日ごろの健康状態については、『健康だと思う（計）』（「とても健康だと思う」に「まあ健康だと思う」を加えた割合）が 76.0%を占め、『健康ではないと思う（計）』（「健康ではないと思う」に「あまり健康ではないと思う」を加えた割合）は 15.8%となっている。

(2) 老研式活動能力指標（高次ADL）

図 2-3 老研式活動能力指標（高次ADL）

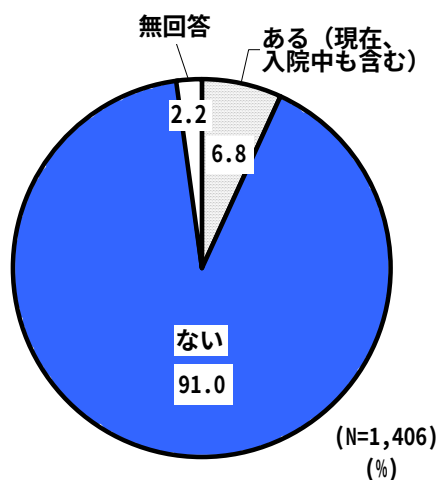


高次の日常生活動作についてみると、大部分の項目で「はい」が80%以上を占めるが、『(10) 友人の家を訪ねることがある』のみ66.0%と相対的に低くなっている。

(3) 入院経験と現在治療を受けている病気

ア この1年間に入院した経験

図 2-4 この1年間に入院した経験



この1年間に入院したことがある人は、現在入院中の人も含め 6.8%となっている。

イ 現在治療を受けている病気

表 2-1 現在治療を受けている病気

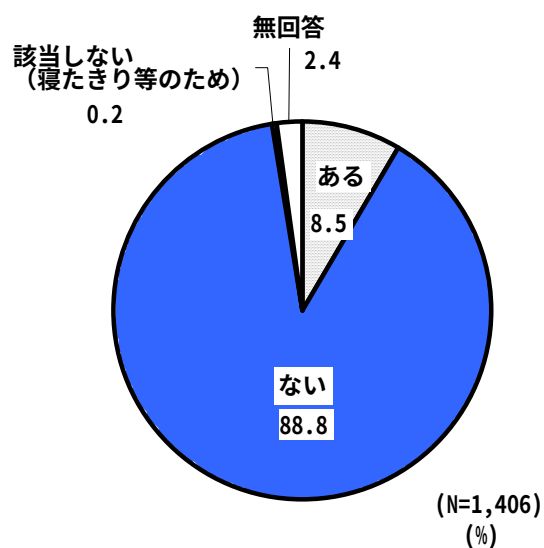
調査数	高血圧症	高脂血症	心臓病（心筋梗塞、狭心症など）	脳血管疾患（脳梗塞、脳出血など）	呼吸器疾患（喘息、肺炎など）	結核	消化器系疾患	泌尿器系疾患	腎臓病	肝臓病	糖尿病	腰痛、膝痛などの病気	眼の病気	耳、鼻の病気	精神疾患	歯の病気	その他	特になし	無回答
1406	188	87	43	17	21	-	61	15	12	30	77	152	61	53	37	161	129	632	76
100.0	13.4	6.2	3.1	1.2	1.5	-	4.3	1.1	0.9	2.1	5.5	10.8	4.3	3.8	2.6	11.5	9.2	44.6	5.4

現在治療を受けている病気としては、「高血圧症」13.4%、「歯の病気」11.5%、「腰痛、膝痛などの病気」10.8%などとなっている。

(4) 転倒経験

ア この1年間に転倒してケガをした経験

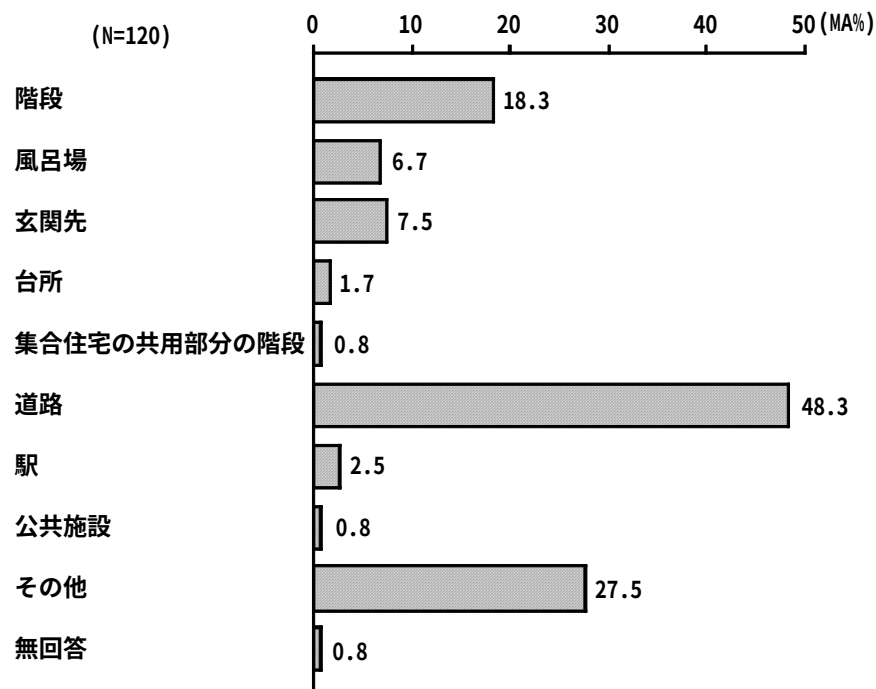
図 2-5 この1年間に転倒してケガをした経験



この1年間に転倒してケガをしたことがある人は、8.5%となっている。

イ 転倒した場所

図 2-6 転倒した場所

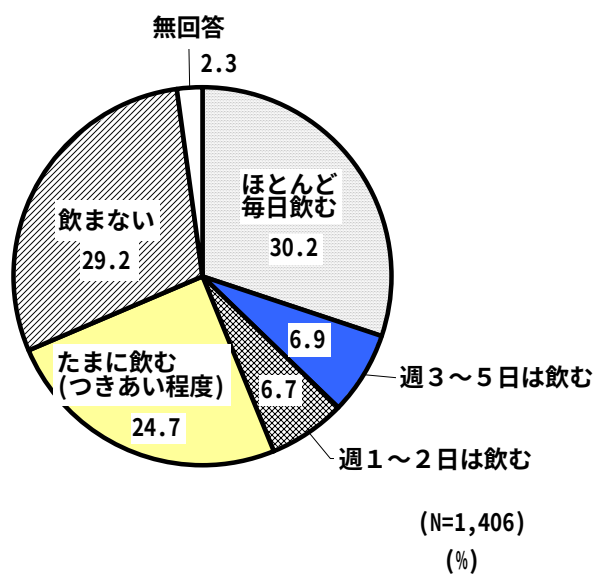


転倒した場所としては、「道路」が 48.3%と圧倒的に多く、「階段」も 18.3%とやや多くなっている。

(5) 飲酒・喫煙の習慣

ア 飲酒の状況

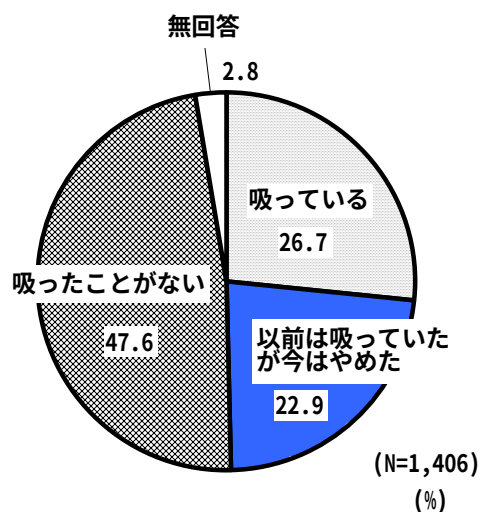
図 2-7 飲酒の状況



週1回以上の飲酒習慣のある人は43.8%であり、「ほとんど毎日飲む」が30.2%となっている。

イ 喫煙の状況

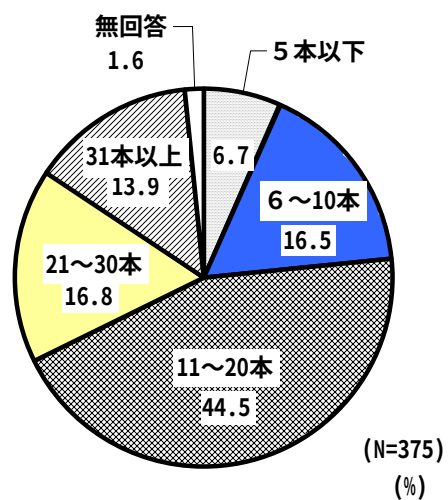
図 2-8 喫煙の状況



現在、喫煙の習慣がある人は全体の26.7%であり、「以前吸っていたが今はやめた」(22.9%)を含めると約半数を占めている。

ウ 1日の喫煙本数

図 2-9 1日の喫煙本数

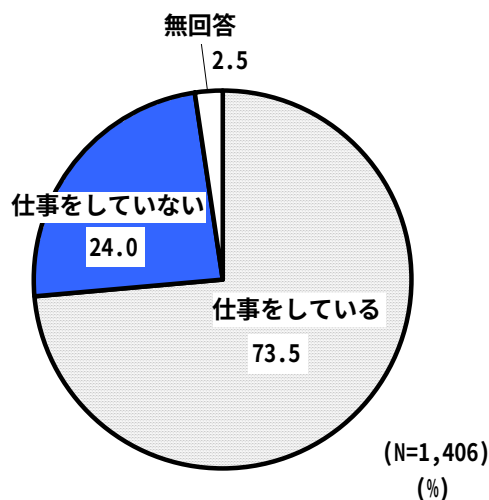


1日の喫煙本数をみると、「11~20本」が44.5%と多くなっている。

(6) 就労状況

ア 就労の有無

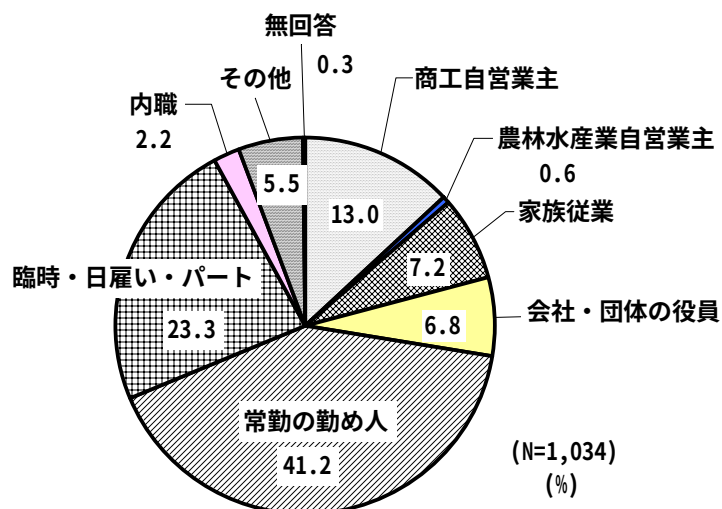
図 2-10 就労の有無



現在、就労している人は73.5%、就労していない人は24.0%となっている。

イ 就労形態

図 2-11 職種

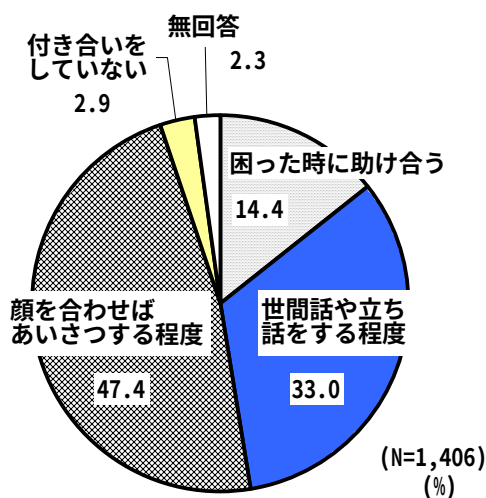


就労している場合の形態は、「常勤の勤め人」が41.2%と最も多く、次いで「臨時・日雇い・パート」(23.3%)、「商工自営業主」(13.0%)、「家族従業」(7.2%)、「会社・団体の役員」(6.8%)の順となっている。

(7) 近所付き合いと社会参加・生きがい活動の状況

ア 近所付き合いの程度

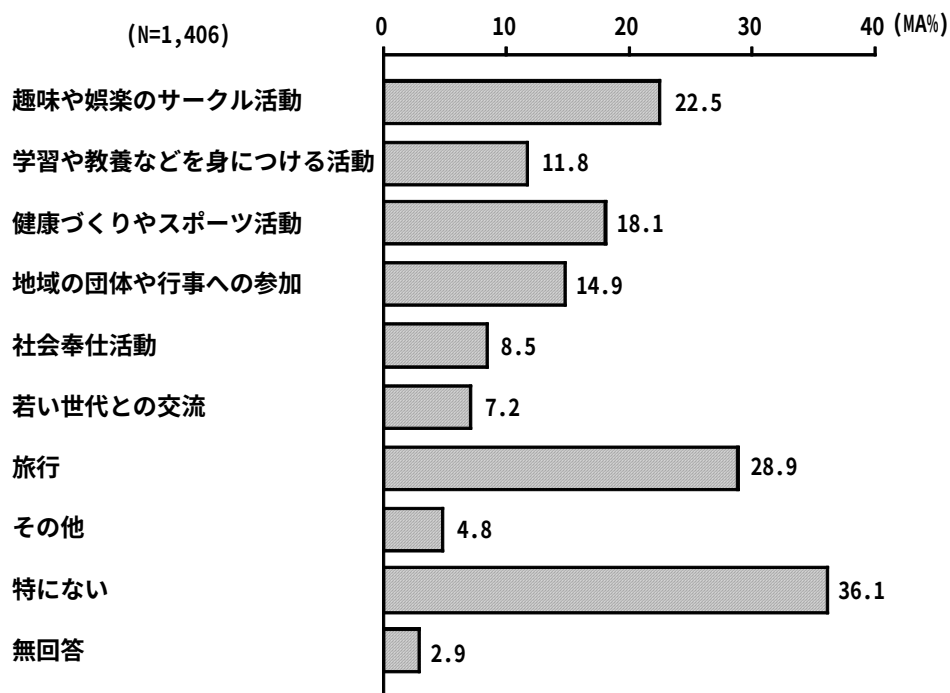
図 2-13 近所付き合いの程度



近所付き合いの程度をみると、「顔を合わせばあいさつする程度」が 47.4%と最も多く、次いで「世間話や立ち話をする程度」(33.0%)、「困った時に助け合う」(14.4%)の順となっている。

イ 生きがい活動への参加状況

図 2-14 生きがい活動への参加状況

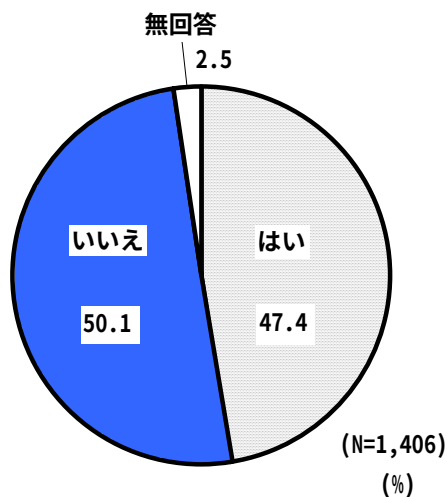


現在参加している生きがい活動は、「旅行」が 28.9%と最も多く、次いで「趣味や娯楽のサークル活動」(22.5%)、「健康づくりやスポーツ活動」(18.1%)、「地域の団体や行事への参加」(14.9%)などとなっている。

(8) 運動やスポーツの状況

ア 運動やスポーツの有無

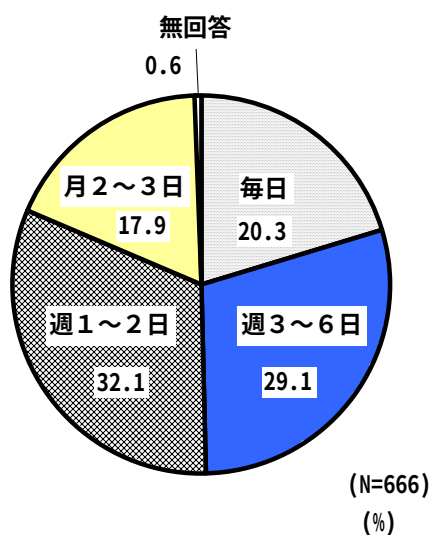
図 2-15 運動やスポーツの有無



日ごろから意識して運動やスポーツをしている人は、全体の 47.4%となっている。

イ 運動やスポーツを行う頻度

図 2-16 運動やスポーツを行う頻度

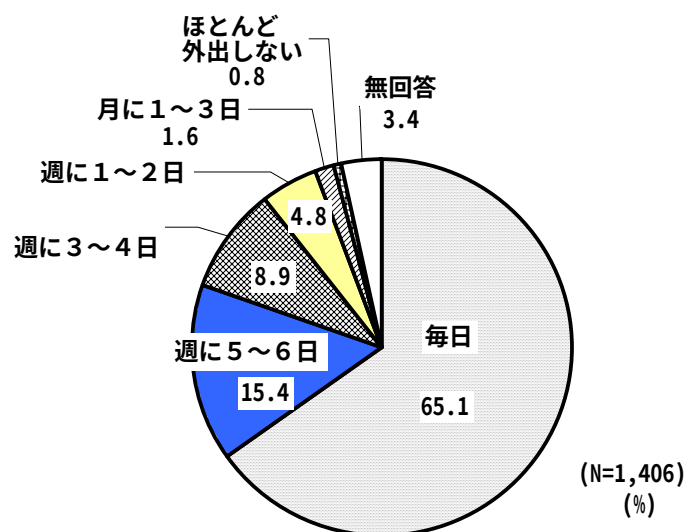


運動やスポーツをする頻度は、「週 1～2 日」が 32.1%と最も多く、次いで「週 3～6 日」(29.1%), 「毎日」(20.3%), 「月 2～3 日」(17.9%) の順となっている。

(9) 外出の状況

ア 外出の頻度

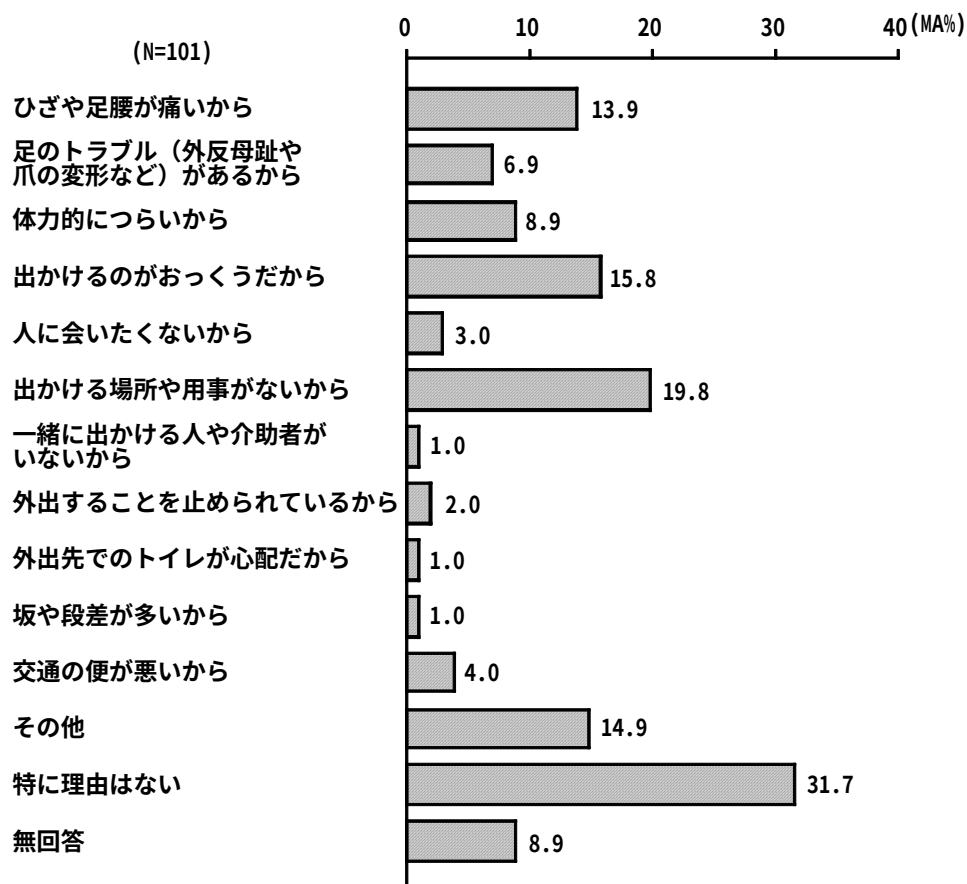
図 2-17 外出の頻度



外出する頻度をみると、「毎日」が 65.1%を占め、「週に5～6日」(15.4%)を合わせると 80%を超える。

イ 外出を控える理由

図 2-18 外出を控える理由



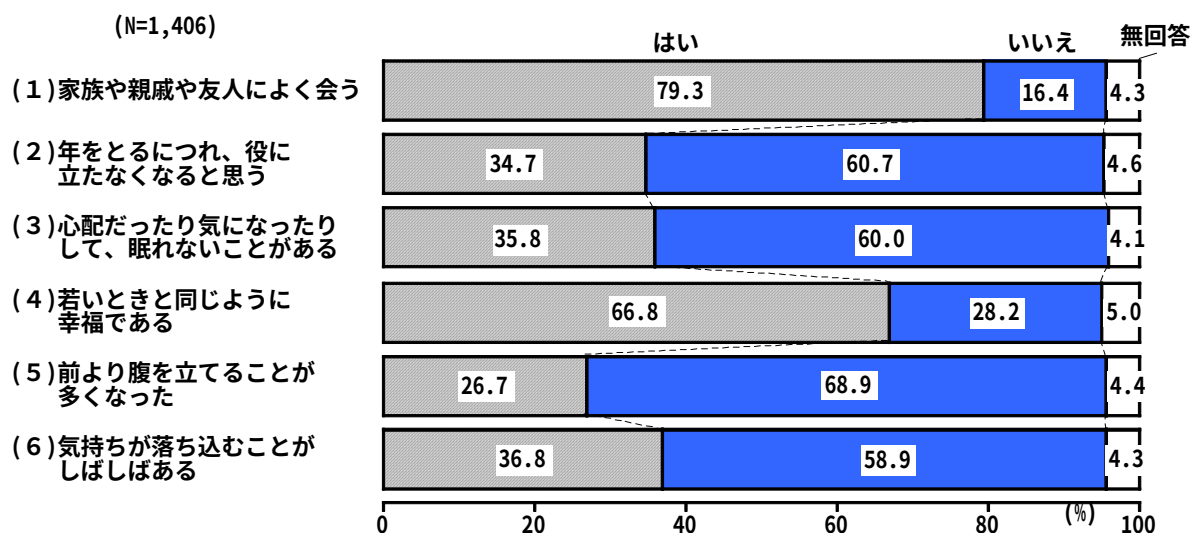
外出頻度が週に1～2日以下の人に外出を控える理由をたずねたところ、「出かける場所や用事がないから」が19.8%と最も多く、次いで「出かけるのがおっくうだから」（15.8%）、「ひざや足腰が痛いから」（13.9%）などとなっている。

3 介護予防と介護のあり方について

(1) 主観的幸福感と心身の変化に対する意識

ア 主観的幸福感（モラール・スケール）

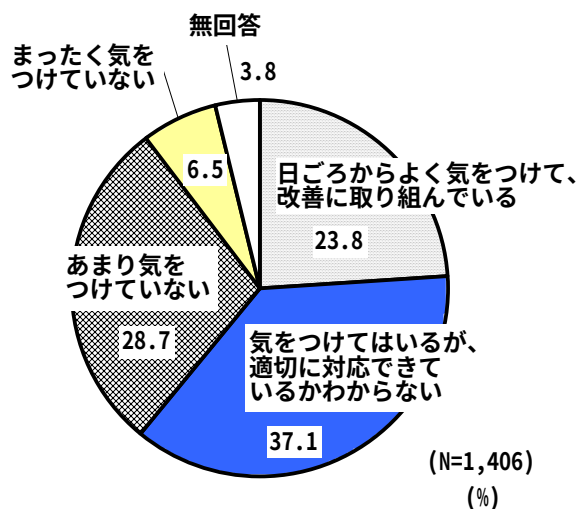
図 3-1 主観的幸福感（モラール・スケール）



『(1) 家族や親戚や友人によく会う』『(4) 若いときと同じように幸福である』について「はい」と答えた人は、順に 79.3%、66.8%を占める。それ以外の項目では「いいえ」が 50～60%台を占め、特に『(5) 前より腹を立てることが多くなった』では 68.9%となっている。

イ 心身の変化に対する意識

図 3-2 心身の変化への対応・改善の有無

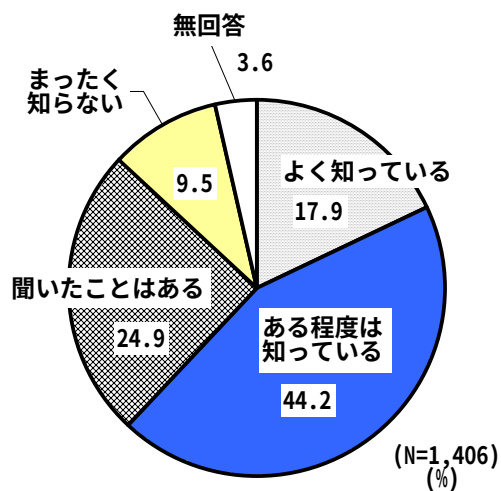


心身の変化に対して日ごろから配慮している人は全体の 60.9%であり、「改善に取り組んでいる」人は 23.8%となっている。

(2) 介護予防に関する知識と取り組み

ア 老化予防・介護予防に関する理解

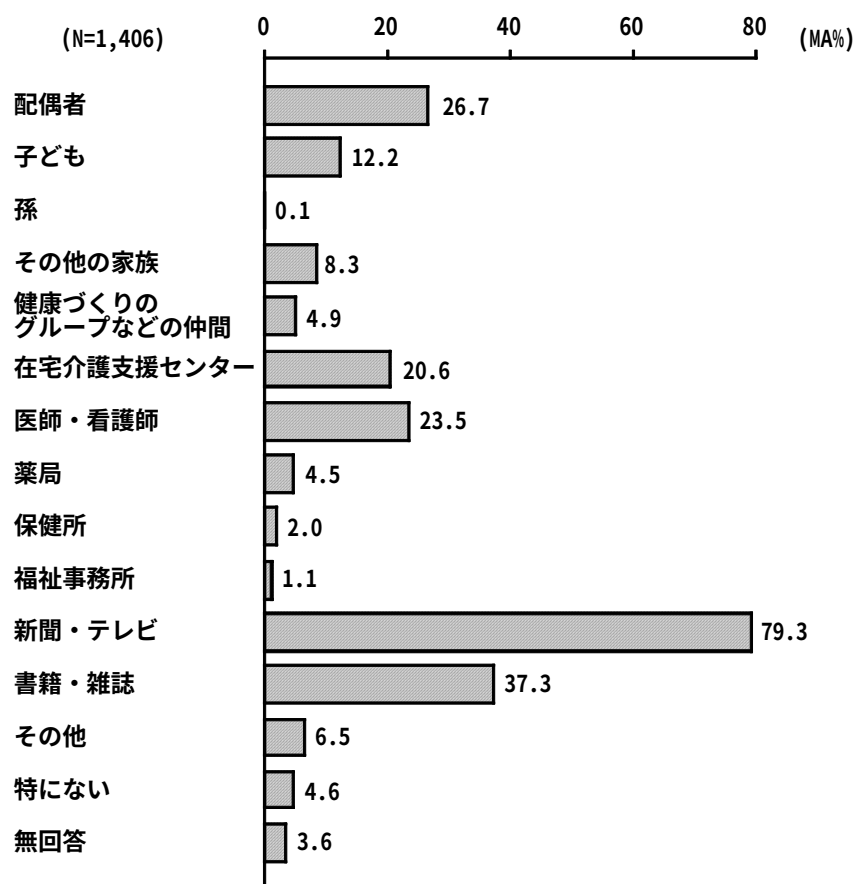
図 3-3 老化予防・介護予防に関する理解



介護予防や老化予防について「知っている」と答えた人は、「よく知っている」と「ある程度知っている」と合わせて 62.1%となっている。

イ 病気・老化の予防や健康づくりに関する情報源

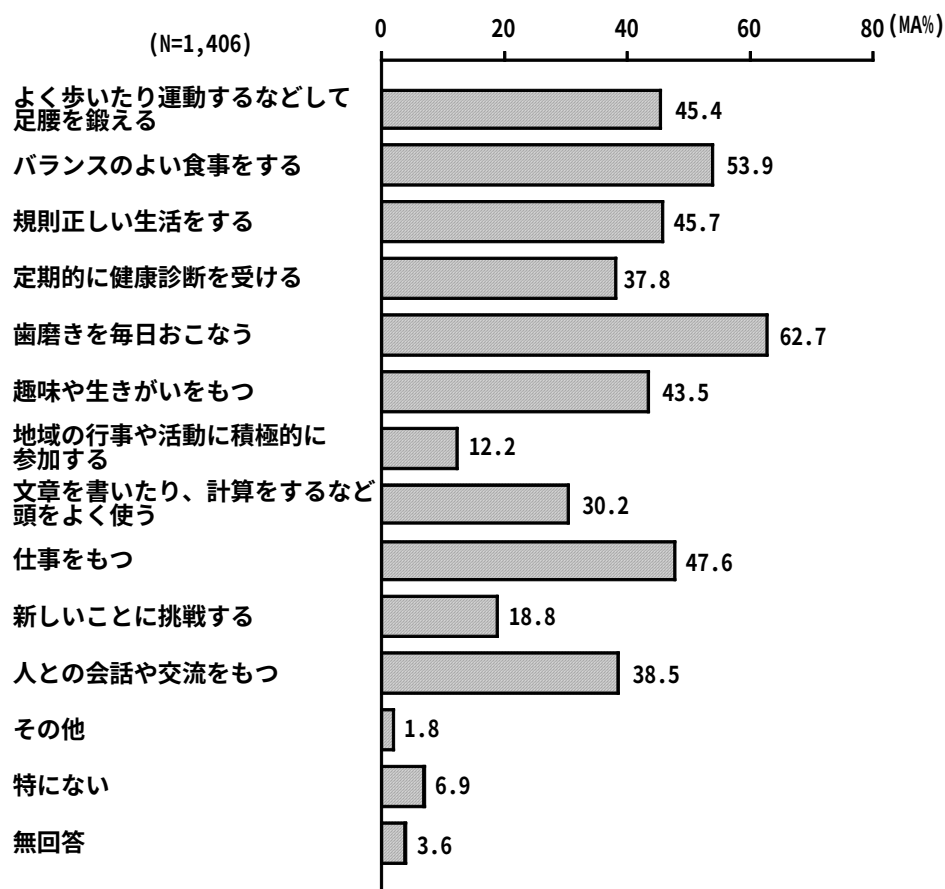
図 3-4 病気・老化の予防や健康づくりに関する情報源



病気・老化予防や健康づくりに関する情報源としては、「新聞・テレビ」が 79.3%と圧倒的に多く、次いで「書籍・雑誌」(37.3%)、「配偶者」(26.7%)、「医師・看護師」(23.5%)、「職場の仲間」(20.6%) の順で多くなっている。

ウ 病気・老化の予防のために取り組んでいること

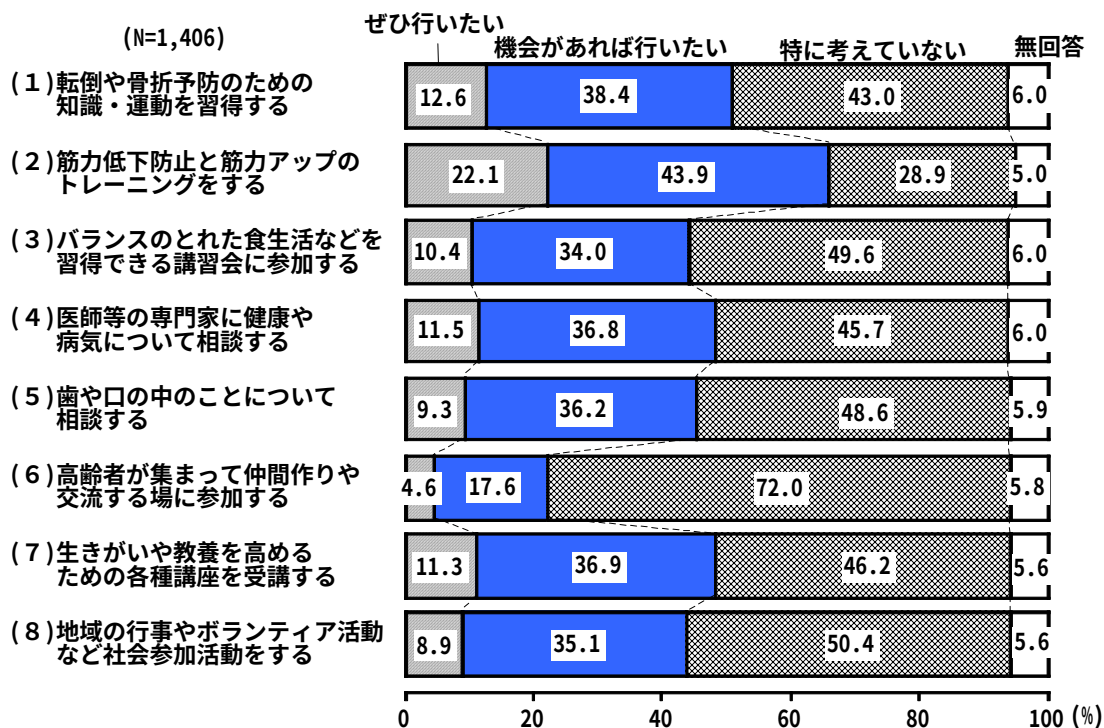
図 3-5 病気・老化の予防のために取り組んでいること



病気・老化予防のために取り組んでいることとしては、「歯磨きを毎日おこなう」が62.7%と最も多く、次いで「バランスのよい食事をする」(53.9%)、「仕事をもつ」(47.6%)、「規則正しい生活をする」(45.7%)、「よく歩いたり運動するなどして足腰を鍛える」(45.4%)、「趣味や生きがいをもつ」(43.5%) などとなっている。

エ 病気・老化の予防や健康づくりのために行いたいこと

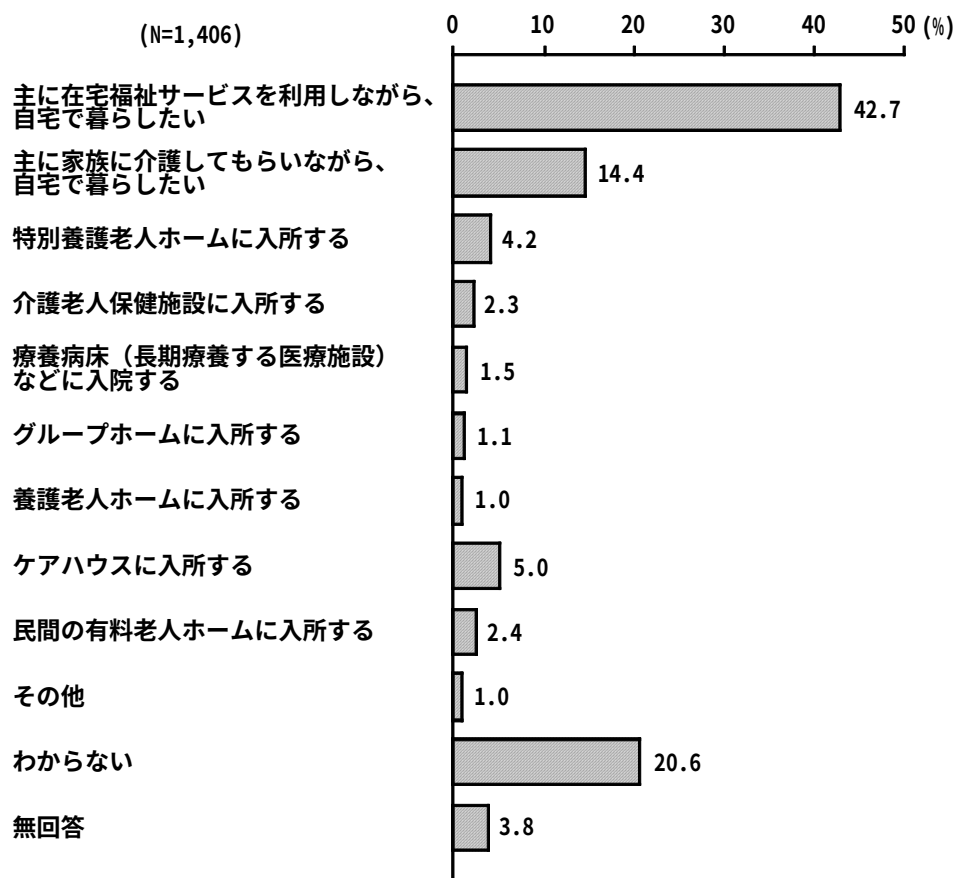
図 3-6 病気・老化の予防や健康づくりのために行いたいこと



病気・老化予防や健康づくりのために今後行いたいこと（「ぜひ行いたい」に「機会があれば行いたい」を加えた割合）としては、『(2) 筋力低下防止と筋力アップのトレーニングをする』が 66.0%と最も多く、次いで『(1) 転倒や骨折予防のための知識・運動を習得する』(51.0%)、『(4) 医師等の専門家に健康や病気について相談する』(48.3%)、『(7) 生きがいや教養を高めるための各種講座を受講する』(48.2%)となっている。

(3) 介護や援護が必要となった場合に希望する暮らし方

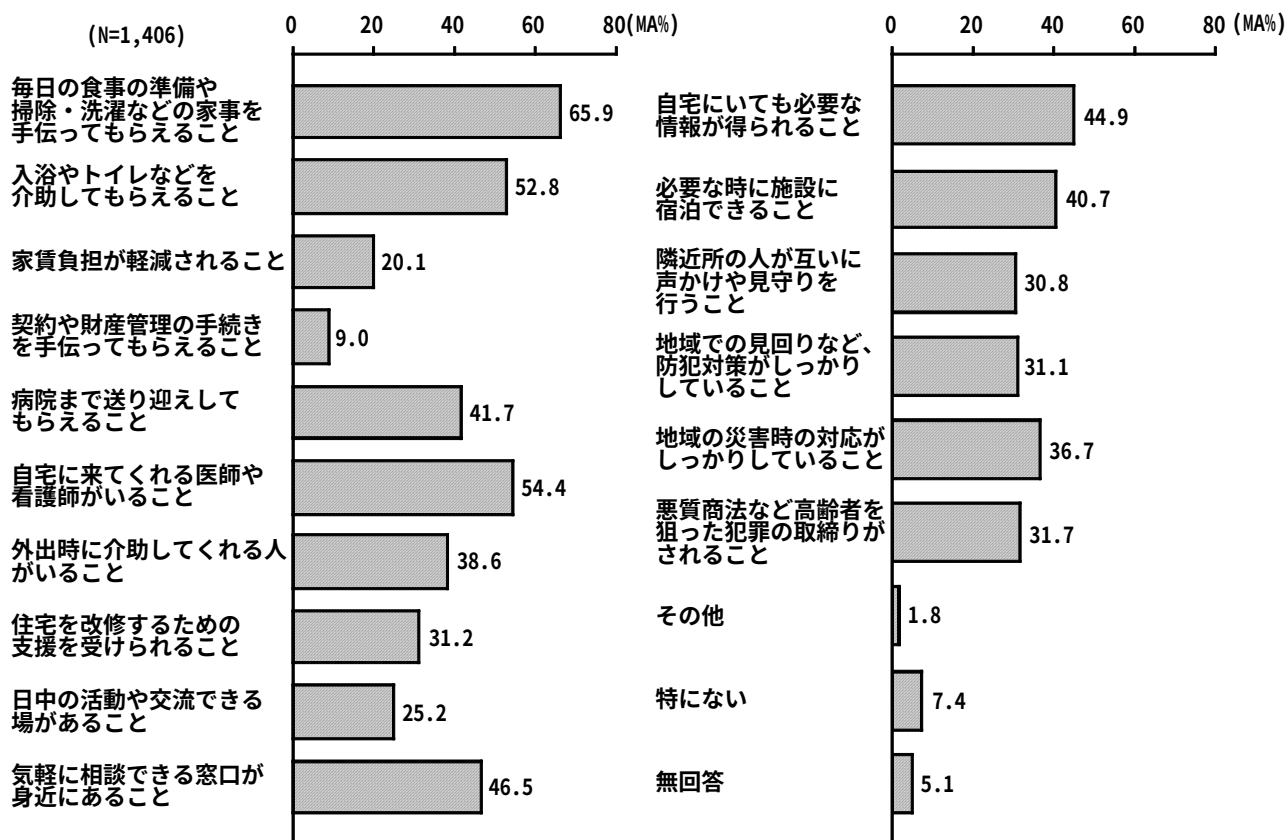
図 3-7 介護や援護が必要となった場合に希望する暮らし方



調査対象者本人に介護が必要となった場合に希望する暮らし方としては、「主に在宅福祉サービスを利用しながら、自宅で暮らしたい」が 42.7%、「主に家族に介護してもらいながら、自宅で暮らしたい」が 14.4%となっており、合計すると全体の 57.1%が自宅での生活を希望している。

(4) 在宅生活を続けていく上で必要な支援

図 3-8 在宅生活を続けていく上で必要な支援



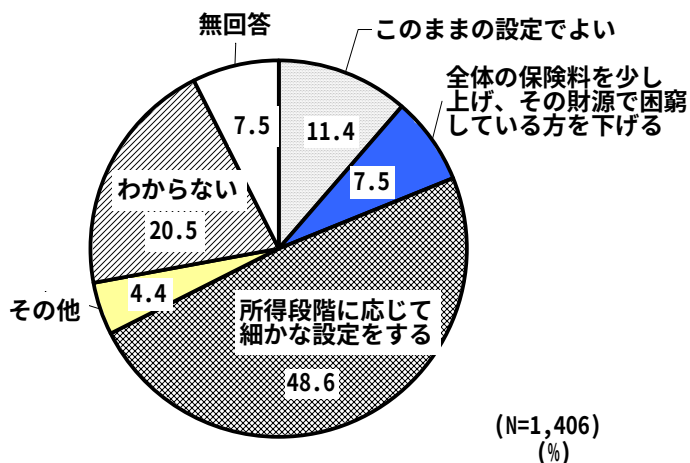
在宅生活を続けていく上で必要な支援としては、「毎日の食事の準備や掃除・洗濯などの家事を手伝ってもらえること」が65.9%と最も多く、次いで「自宅に来てくれる医師や看護師がいること」(54.4%)、「入浴やトイレなどを介助してもらえること」(52.8%)、「気軽に相談できる窓口が身近にあること」(46.5%)、「自宅にいても必要な情報が得られること」(44.9%)、「病院まで送り迎えしてもらえること」(41.7%) などとなっている。

4 介護保険制度について

(1) 保険料の設定および給付・負担のあり方についての意向

ア 介護保険料の設定方法について

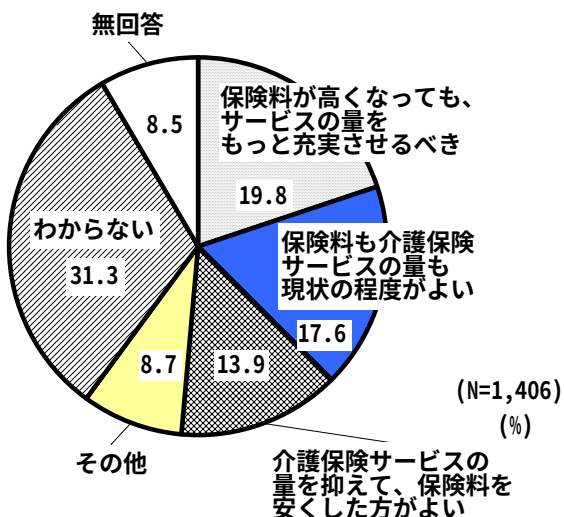
図 4-1 介護保険料の設定方法について



第1号被保険者の所得段階別保険料の設定方法については、「所得段階に応じて細かな設定をする」が48.6%と多く、「このままの設定でよい」は11.4%、「全体の保険料を少し上げ、その財源で困窮している方を下げる」は7.5%となっている。

イ 今後の保険料のあり方について

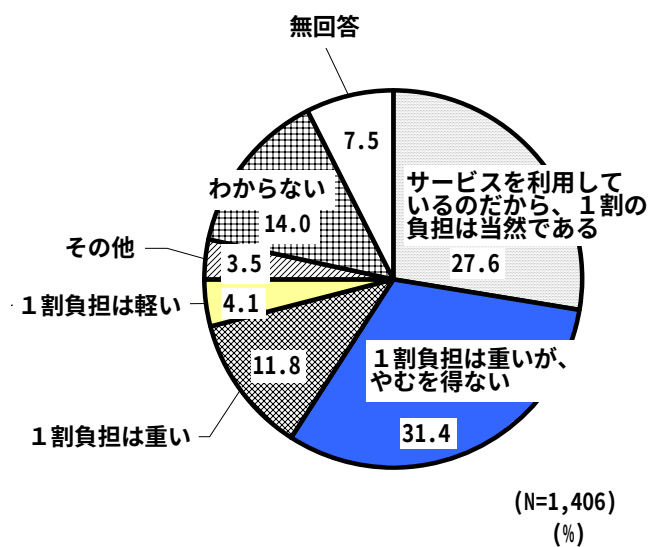
図 4-2 今後の保険料のあり方について



今後の保険料のあり方としては、「保険料が高くなっても、サービスの量をもっと充実させるべき」が19.8%、「保険料も介護保険サービスの量も現状の程度がよい」が17.6%、「介護保険サービスの量を抑えて、保険料を安くした方がよい」が13.9%となっている。

ウ 利用者負担について

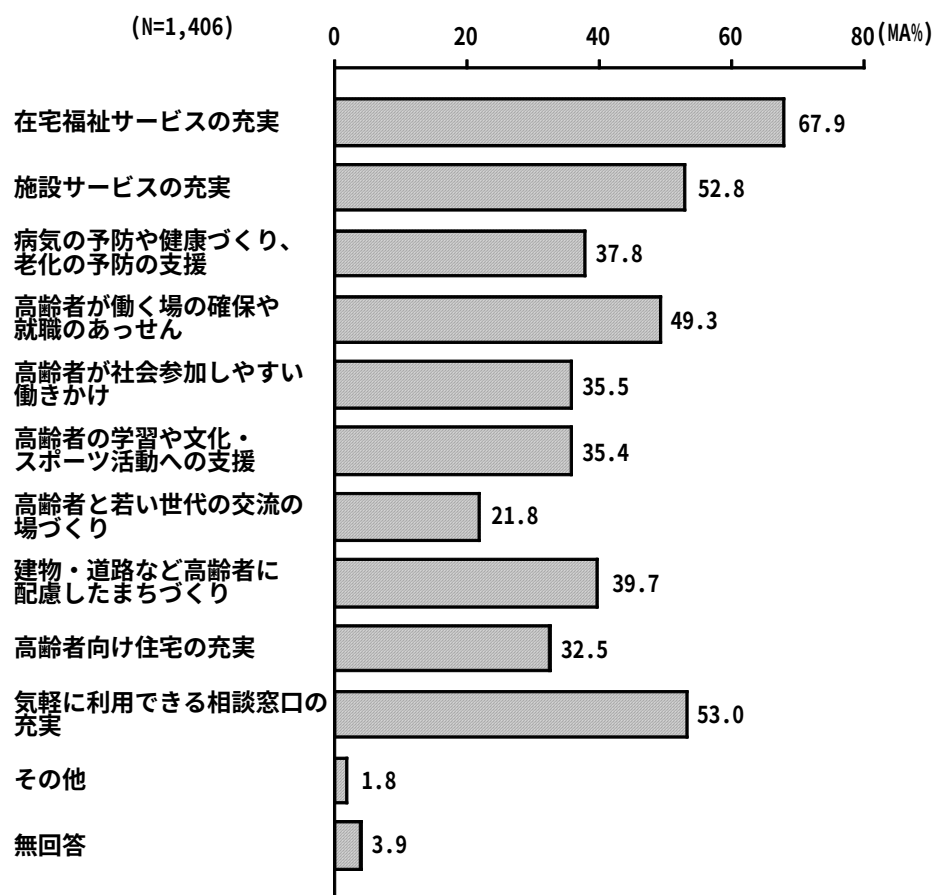
図 4-3 利用者負担について



介護サービス利用料の1割負担については、「1割負担は重い、やむを得ない」が31.4%と最も多く、次いで「サービスを利用しているのだから、1割の負担は当然である」(27.6%)、「1割負担は重い」(11.8%)となっている。

(2) 高齢者保健福祉施策に対する要望

図 4-4 高齢者保健福祉について充実を希望する施策



高齢者保健福祉について今後充実を望む施策としては、「在宅福祉サービスの充実」が 67.9%と最も多く、次いで「気軽に利用できる相談窓口の充実」(53.0%)、「施設サービスの充実」(52.8%)、「高齢者が働く場の確保や就職のあっせん」(49.3%)の順となっている。

1 対象者についての基本的事項

(1) 記入者

ア 記入者

表 1-1 記入者

調査数	宛名のご本人	ご家族	その他	無回答
1948 100.0	855 43.9	990 50.8	21 1.1	82 4.2

アンケートの回答者は、「宛名のご本人」43.9%に対し、「ご家族」が50.8%と多くなっている。

イ 本人が回答できない理由

表 1-2 本人が回答できない理由

調査数	病院に入院中	介護保険施設に入所 (入院)中	病気やけが	物が忘れがあり、 時々難しい、意志疎通	が痴ほうのため 意志疎通が難しい	障害(身体障害、知的 障害など)	別居・転居	答えたくない	その他	無回答
1011 100.0	118 11.7	81 8.0	43 4.3	202 20.0	205 20.3	220 21.8	2 0.2	15 1.5	87 8.6	38 3.8

本人が回答できない理由としては、「障害（身体障害、知的障害など）」「痴ほうのため意志疎通がいつも難しい」「物忘れがあり、意志疎通が時々難しい」の3項目が20%以上と多くなっている。

(2) 年齢別・性別構成

図 1-1 年齢構成

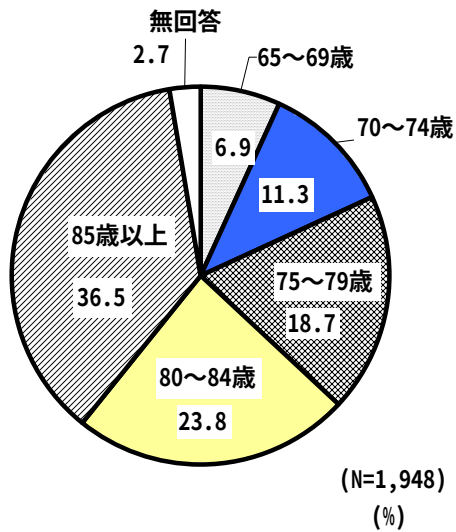
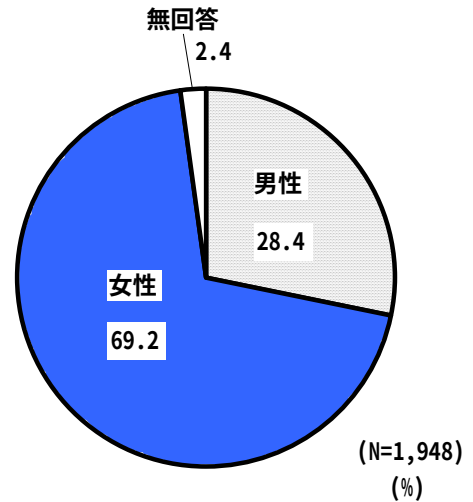


図 1-2 性別構成



調査対象者の年齢構成は、「85 歳以上」が 36.5%と最も多く、次いで「80～84 歳」(23.8%)、「75～79 歳」(18.7%)と、年齢が上がるほど割合も高くなっている。

性別構成については、男性 28.4%、女性 69.2%と、女性の方が 40%以上多くなっている。

(3) 居住地域

ア 居住地区

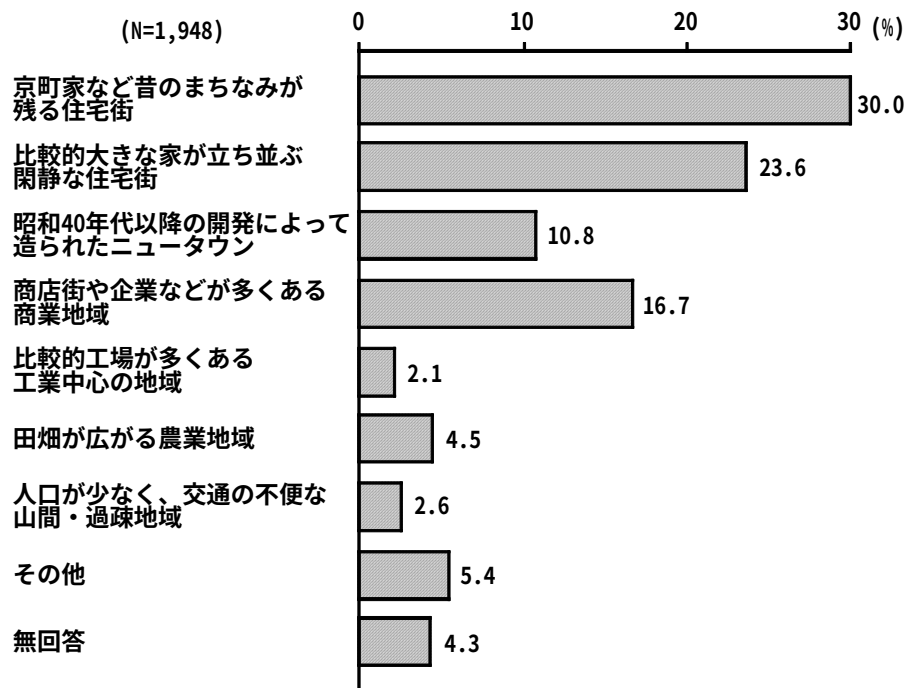
表 1-3 居住地区

調査数	北区	上京区	左京区	中京区	東山区	山科区	下京区	南区	右京区（京北町を含む）	西京区	洛西支所	伏見区	深草支所	醍醐支所	無回答
1948 100.0	183 9.4	173 8.9	265 13.6	145 7.4	90 4.6	127 6.5	130 6.7	118 6.1	235 12.1	135 6.9	11 0.6	254 13.0	29 1.5	23 1.2	30 1.5

居住地区は、「左京区」「右京区（京北町を含む）」「伏見区」の3区が10%を超えている。

イ 地域の特性

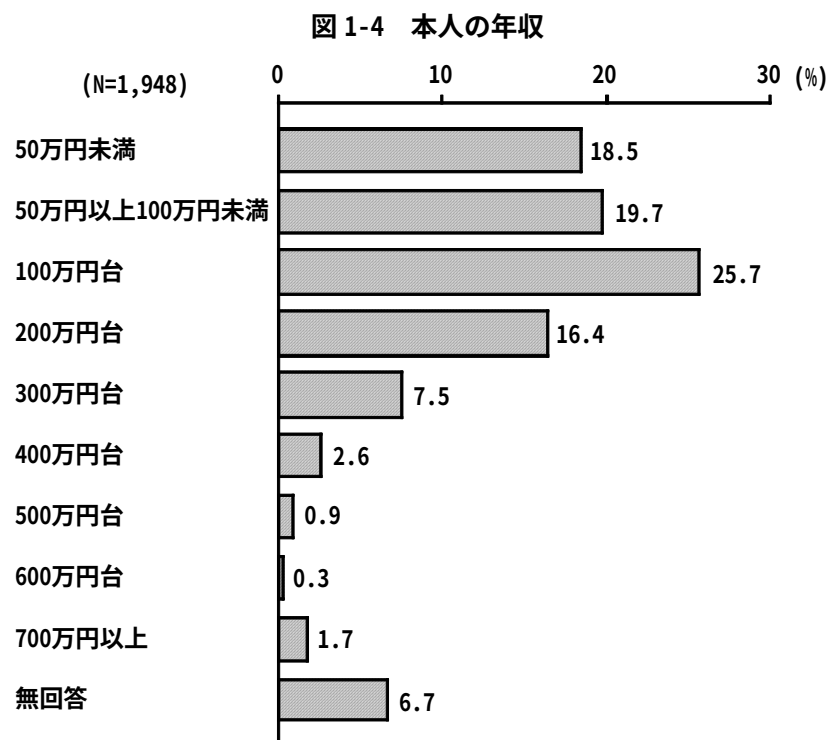
図 1-3 地域の特性



お住まいの地域については、「京町家など昔のまちなみが残る住宅街」が 30.0%と最も多く、次いで「比較的大きな家が立ち並ぶ閑静な住宅街」(23.6%)、「商店街や企業などが多くある商業地域」(16.7%)となっている。

(4) 収入

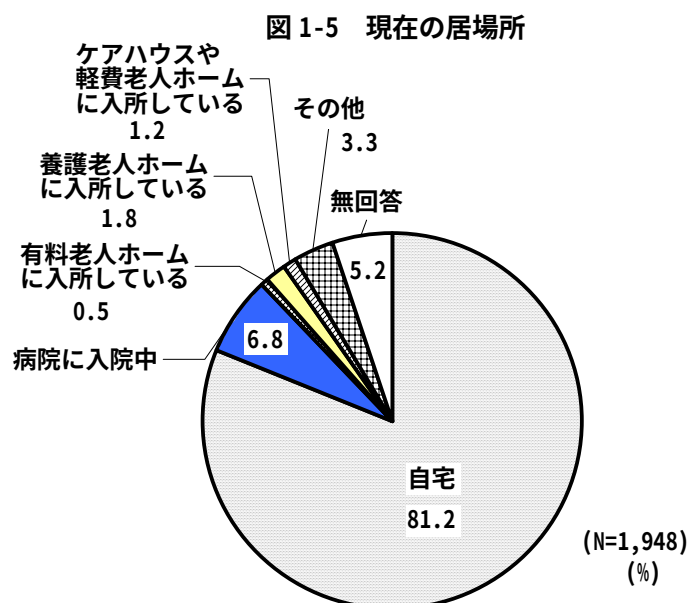
ア 本人の年収



調査対象者本人の年収は、「100 万円台」が 25.7%と最も多く、次いで「50 万円以上 100 万円未満」(19.7%)、「50 万円未満」(18.5%)となっている。

(5) 住居形態

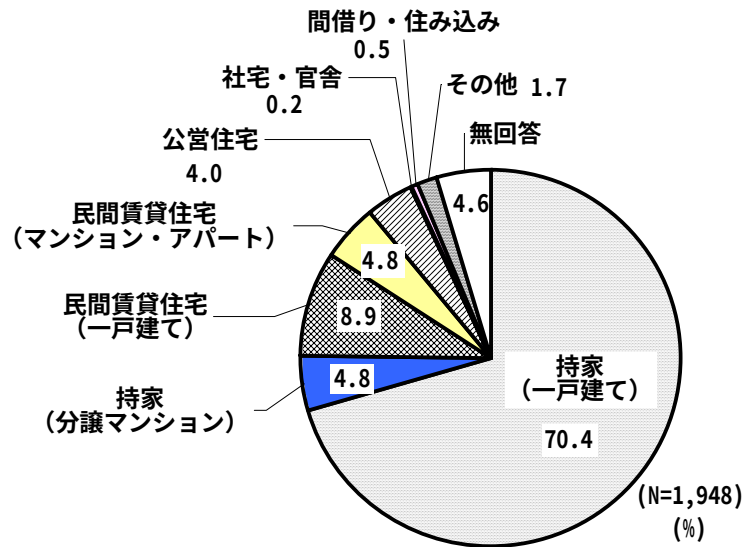
ア 現在の居場所



現在の居場所としては、「自宅」が 81.2%を占め、そのほかは「病院に入院中」(6.8%), 「養護老人ホームに入所している」(1.8%) などとなっている。

イ 住まいの形態

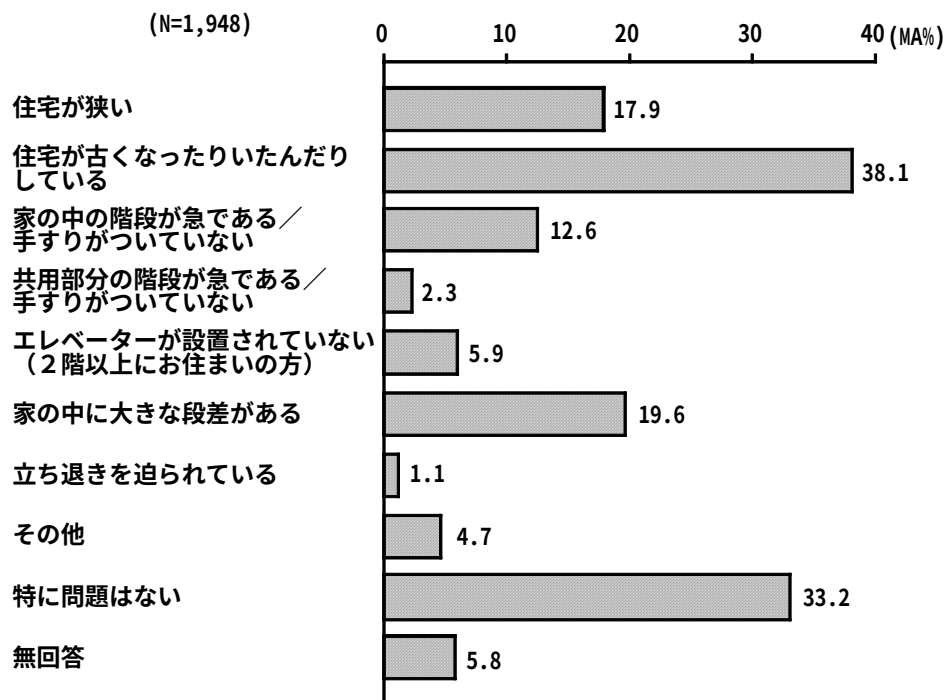
図 1-6 住まいの形態



自宅または入院中の人の住まいの形態は、「持家（一戸建て）」が70.4%と圧倒的に多く、そのほかは「民間賃貸住宅（一戸建て）」が8.9%、「持家（分譲マンション）」「民間賃貸住宅（マンション・アパート）」がともに4.8%となっている。

ウ 住まいの状況

図 1-7 住まいの状況

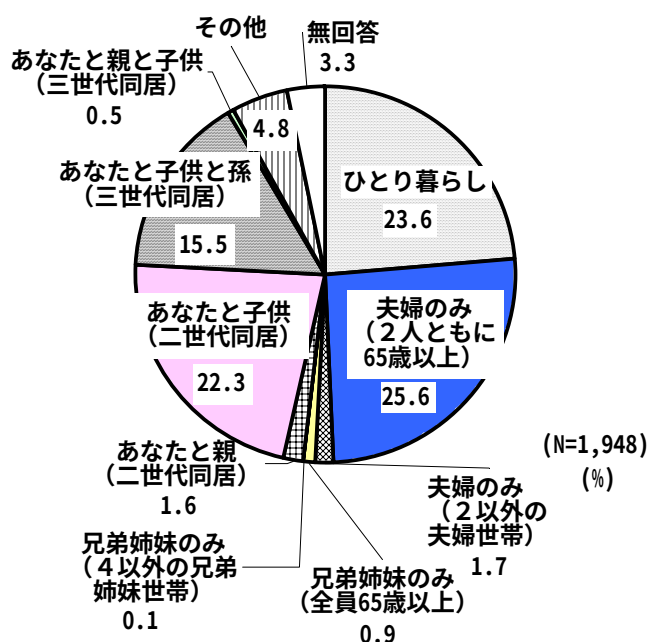


住まいの状況については、「住宅が古くなったりいたんだりしている」が38.1%と最も多く、次いで「家の中に大きな段差がある」（19.6%）、「住宅が狭い」（17.9%）となっている。

(6) 世帯の状況

ア 世帯構成

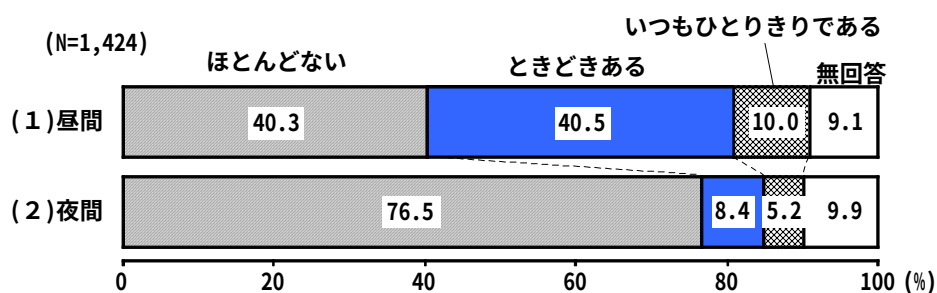
図 1-8 世帯構成



世帯構成は、「夫婦のみ（2人とも 65 歳以上）」「ひとり暮らし」「あなたと子供（二世帯同居）」がいずれも 20% 台と多く、次いで「あなたと子供と孫（三世帯同居）」(15.5%) となっている。

イ 昼間独居等の状況

図 1-9 昼間独居等の状況



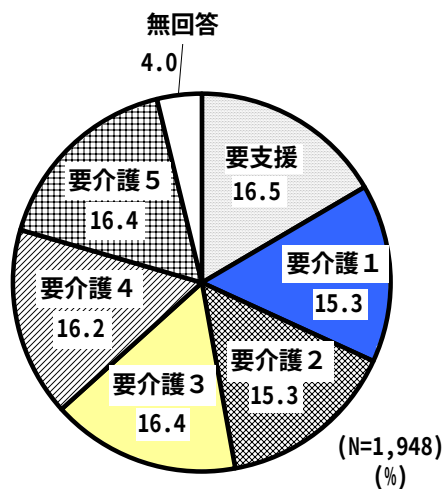
家族と同居している高齢者のうち、昼間、ひとりきりになることがある人は 50.5% を占め、「いつもひとりきりである」は 10.0% となっている。

同様に、夜間、ひとりきりになることがある人は 13.6% であり、「いつもひとりきりである」は 5.2% となっている。

(7) 要介護度とその変化

ア 要介護度

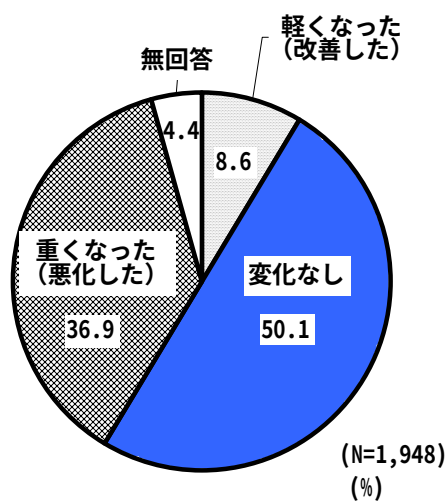
図 1-10 要介護度



調査対象者の要介護度は、「要支援」を含め、いずれの段階とも約 15～16%となっている。

イ 要介護度の変化

図 1-11 要介護度の変化



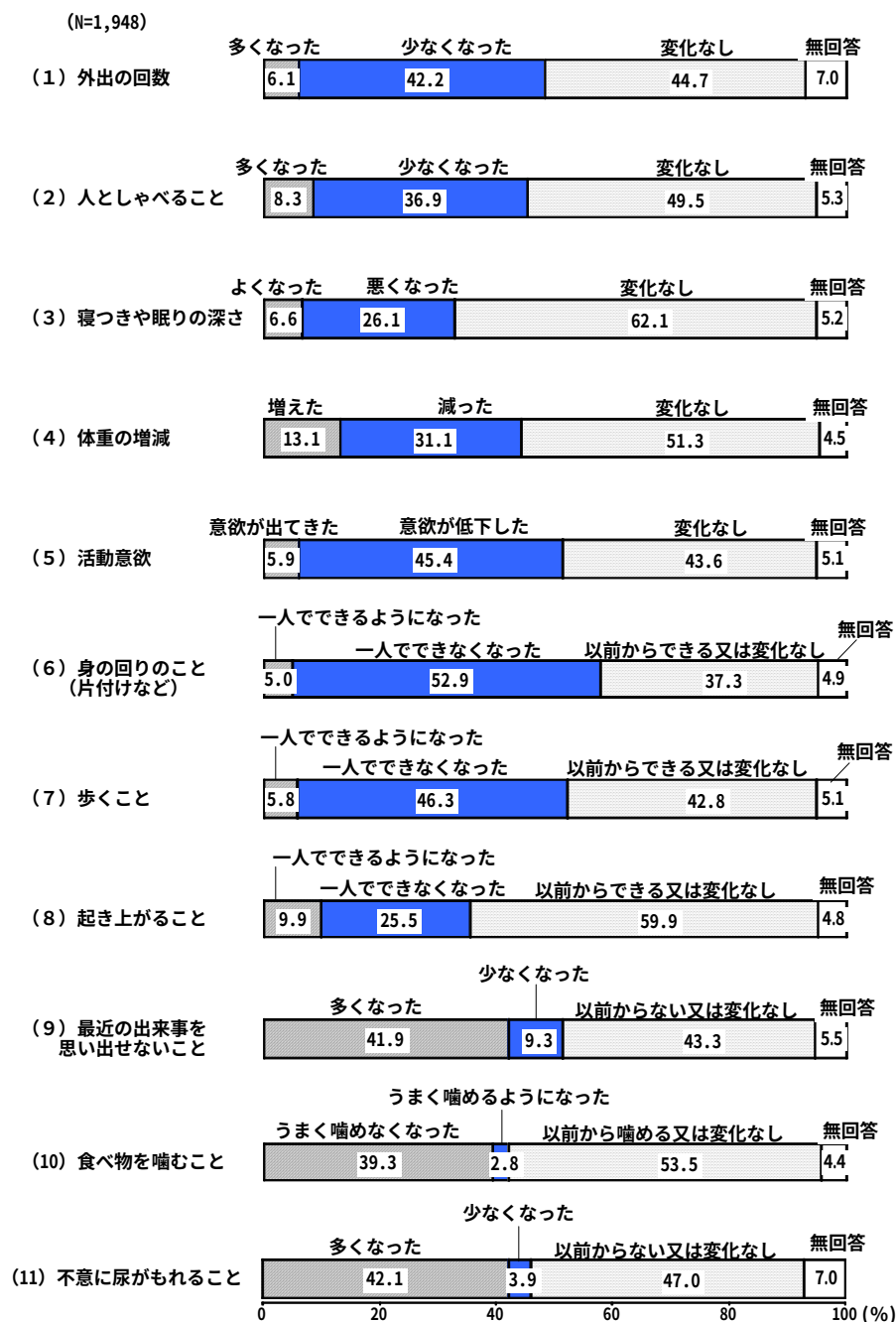
要介護度が以前に比べて「軽くなった (改善した)」は 8.6%, それに対して「重くなった (悪化した)」は 36.9%と多くなっている。

2 身体・生活の状況について

(1) 最近半年間の心身の変化

ア 最近半年間の心身の変化

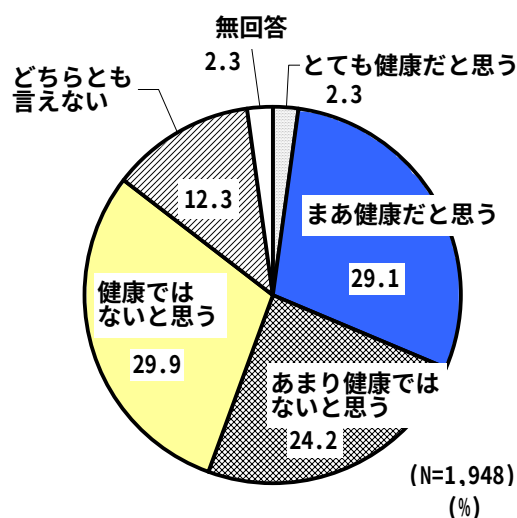
図 2-1 最近半年間の心身の変化



この半年間に心身の状態に変化が見られたかたずねたところ、『(3) 寝つきや眠りの深さ』『(8) 起き上がること』『(10) 食べ物を噛むこと』では「変化なし」が過半数を占めたが、『(6) 身の回りのこと (片付けなど)』をはじめ、『(7) 歩くこと』『(5) 活動意欲』などでは、低下や悪化を表す回答が 40～50%台と多くなっている。

イ 日ごろの健康状態

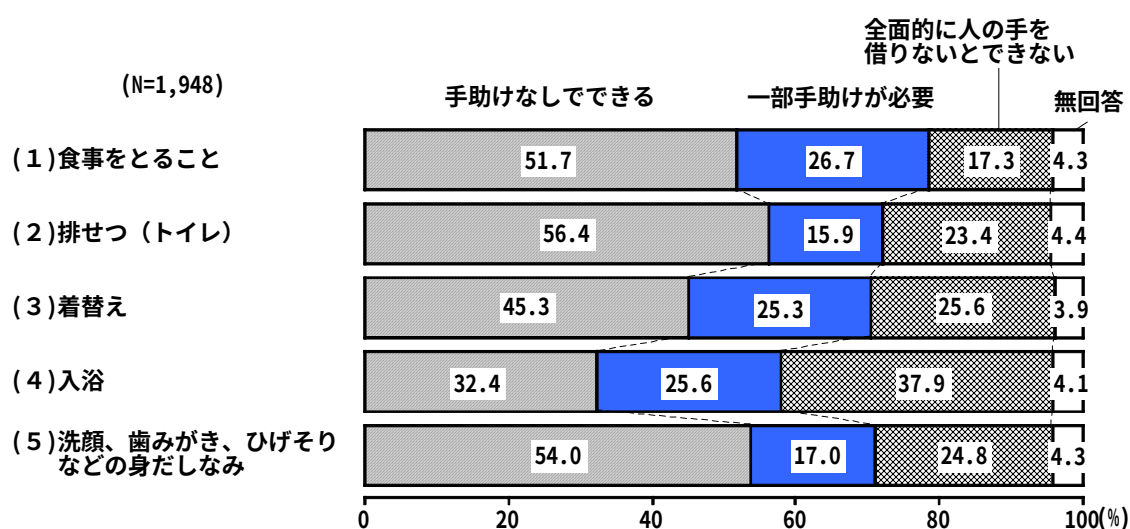
図 2-2 日ごろの健康状態



日ごろの健康状態については、『健康だと思う（計）』（「とても健康だと思う」に「まあ健康だと思う」を加えた割合）の31.4%に対し、『健康ではないと思う（計）』（「健康ではないと思う」に「あまり健康ではないと思う」を加えた割合）が54.1%と多くなっている。

(2) 日常生活動作（基本的ADL）

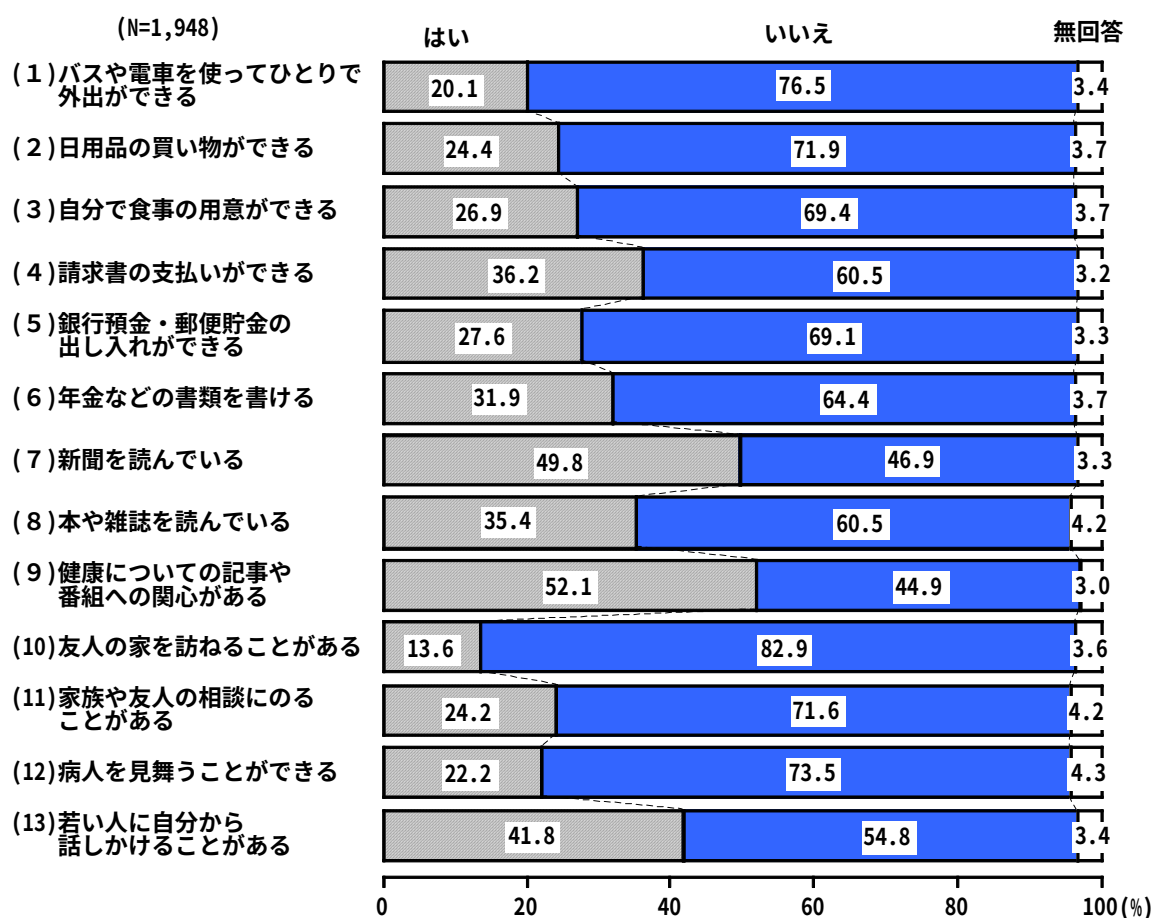
図 2-3 日常生活動作（基本的ADL）



基本的な日常基本動作のうち、『(4) 入浴』については「全面的に人の手を借りないといけない」が37.9%と多く、「一部手助けが必要」（25.6%）を合わせると、6割を超える人が介助を必要としているのがわかる。

(3) 老研式活動能力指標（高次ADL）

図 2-4 老研式活動能力指標（高次ADL）

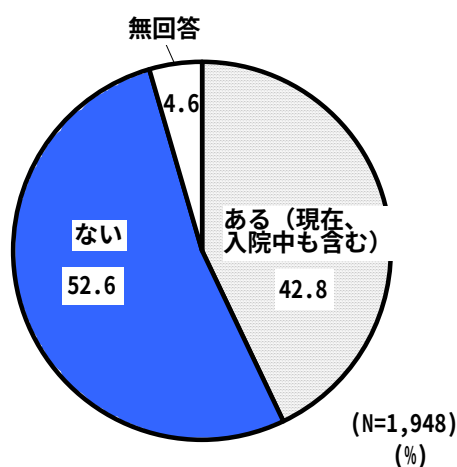


高次の日常生活動作のうち、『(7) 新聞を読んでいる』『(9) 健康についての記事や番組への関心がある』では「はい」が50%前後を占めるが、『(10) 友人の家を訪ねることがある』(82.9%)をはじめとして、『(1) バスや電車を使ってひとりで外出ができる』(76.5%), 『(12) 病人を見舞うことができる』(73.5%) などでは「いいえ」の割合が高くなっている。

(4) 入院経験と現在治療を受けている病気

ア この1年間に入院した経験

図 2-5 この1年間に入院した経験



この1年間に入院したことがある人は、現在入院中の人も含め 42.8%となっている。

イ 現在治療を受けている病気

表 2-1 現在治療を受けている病気

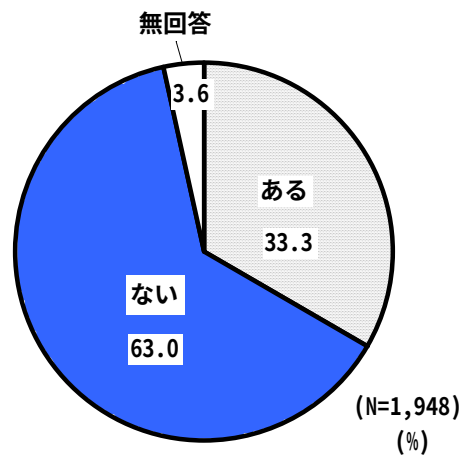
調査数	高血圧症	高脂血症	心臓病（心筋梗塞、狭心症など）	脳血管疾患（脳梗塞、脳出血など）	肺呼吸器系疾患（喘息、肺炎など）	結核	消化器系疾患	泌尿器系疾患	腎臓病	肝臓病	糖尿病	腰痛、膝痛などの病気	眼の病気	耳、鼻の病気	精神疾患	歯の病気	その他	特にない	無回答
1948	684	121	491	402	211	3	265	262	119	67	259	630	532	154	145	275	351	109	74
100.0	35.1	6.2	25.2	20.6	10.8	0.2	13.6	13.4	6.1	3.4	13.3	32.3	27.3	7.9	7.4	14.1	18.0	4.7	3.8

現在治療を受けている病気としては、「高血圧症」が 35.1%と最も多く、次いで「腰痛、膝痛などの病気」(32.3%)、「眼の病気」(27.3%)、「心臓病（心筋梗塞，狭心症など）」(25.2%)，「脳血管疾患（脳梗塞，脳出血など）」(20.6%) などとなっている。

(5) 転倒経験

ア この1年間に転倒してケガをした経験

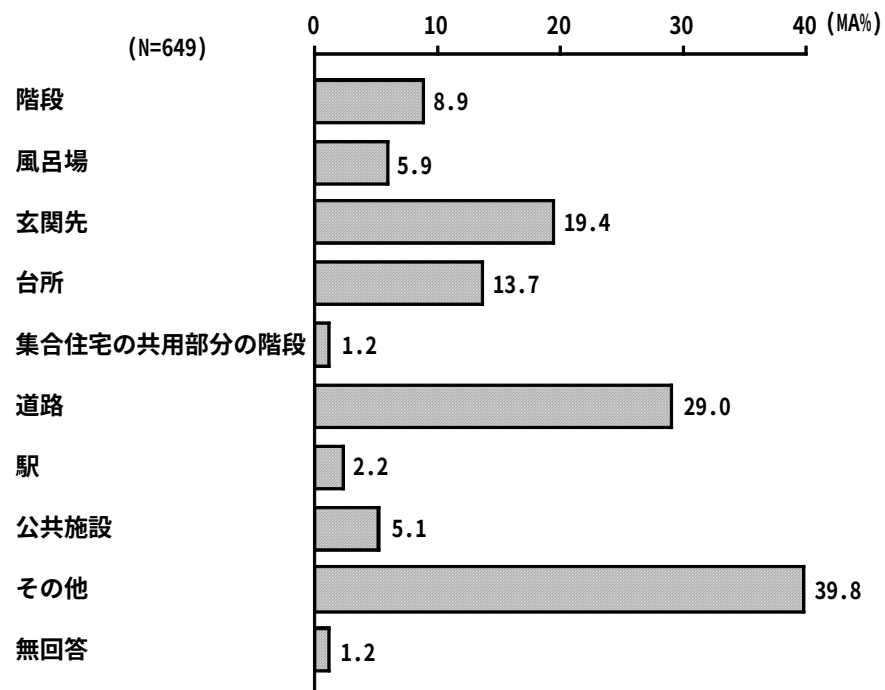
図 2-6 この1年間に転倒してケガをした経験



この1年間に転倒してケガをしたことがある人は、33.3%となっている。

イ 転倒した場所

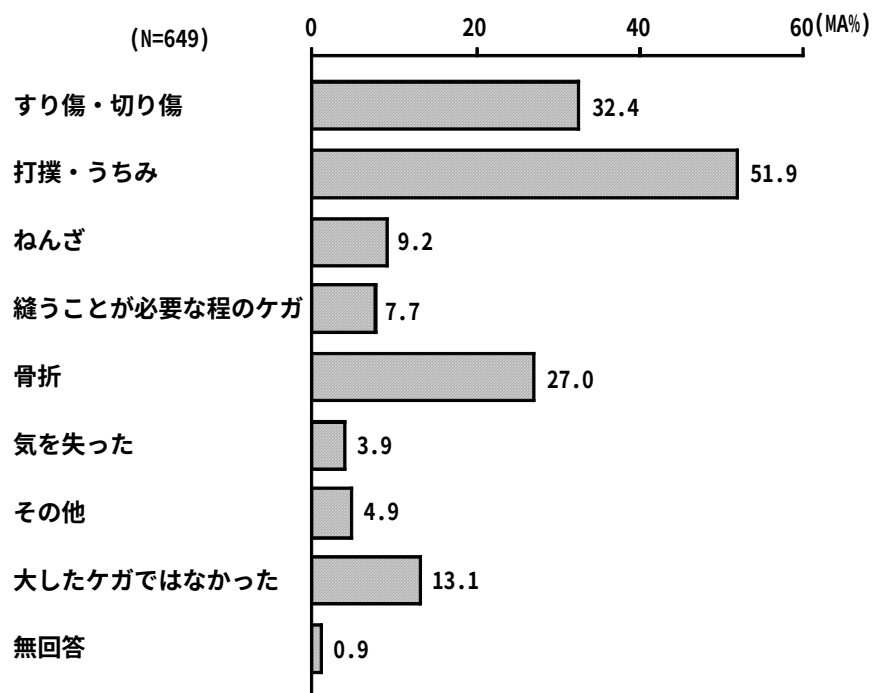
図 2-7 転倒した場所



転倒した場所としては、「道路」が 29.0%と最も多く、次いで「玄関先」(19.4%)、「台所」(13.7%) などとなっている。

ウ 転倒したときのケガの程度

図 2-8 転んだときのケガの程度

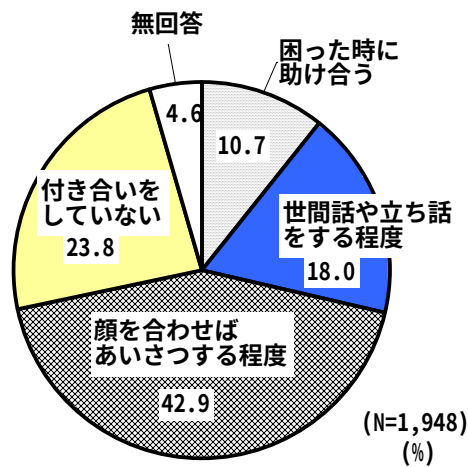


転倒したときのケガの程度をみると、「打撲・うちみ」が 51.9%と最も多く、次いで「すり傷・切り傷」(32.4%)、「骨折」(27.0%)となっている。

(6) 近所付き合いと社会参加・生きがい活動の状況

ア 近所付き合いの程度

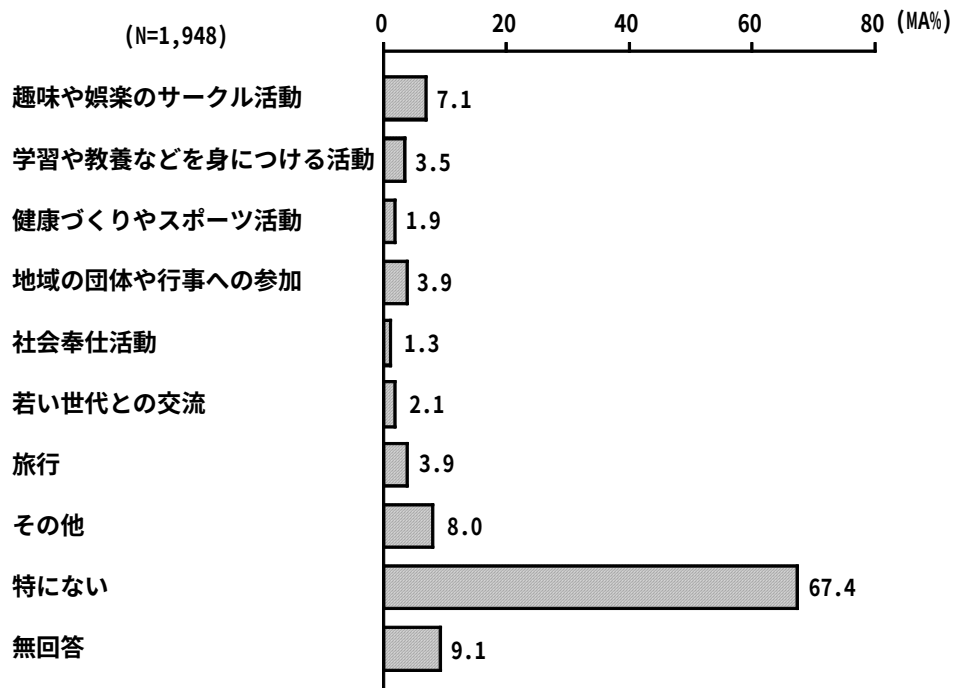
図 2-9 近所付き合いの程度



近所付き合いの程度は、「顔を合わせばあいさつする程度」が 42.9%と最も多く、次いで「付き合いをしていない」(23.8%)であり、「困った時に助け合う」は 10.7%となっている。

イ 生きがい活動への参加状況

図 2-10 生きがい活動への参加状況

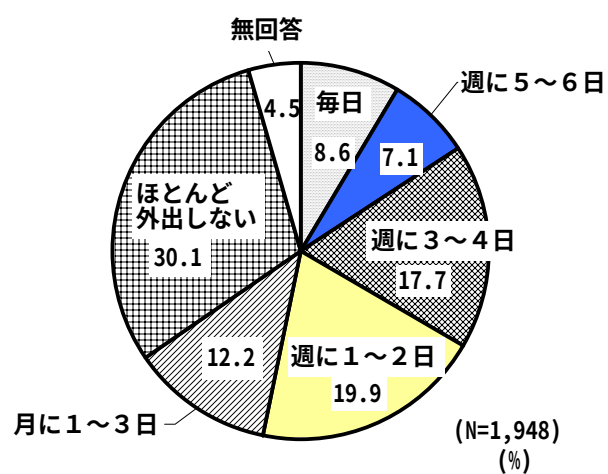


現在参加している生きがい活動については、「特にない」が 67.4%を占めている。参加している活動としては、「趣味や娯楽のサークル活動」が 7.1%、「地域の団体や行事への参加」「旅行」がともに 3.9%などとなっている。

(7) 外出の状況

ア 外出の頻度

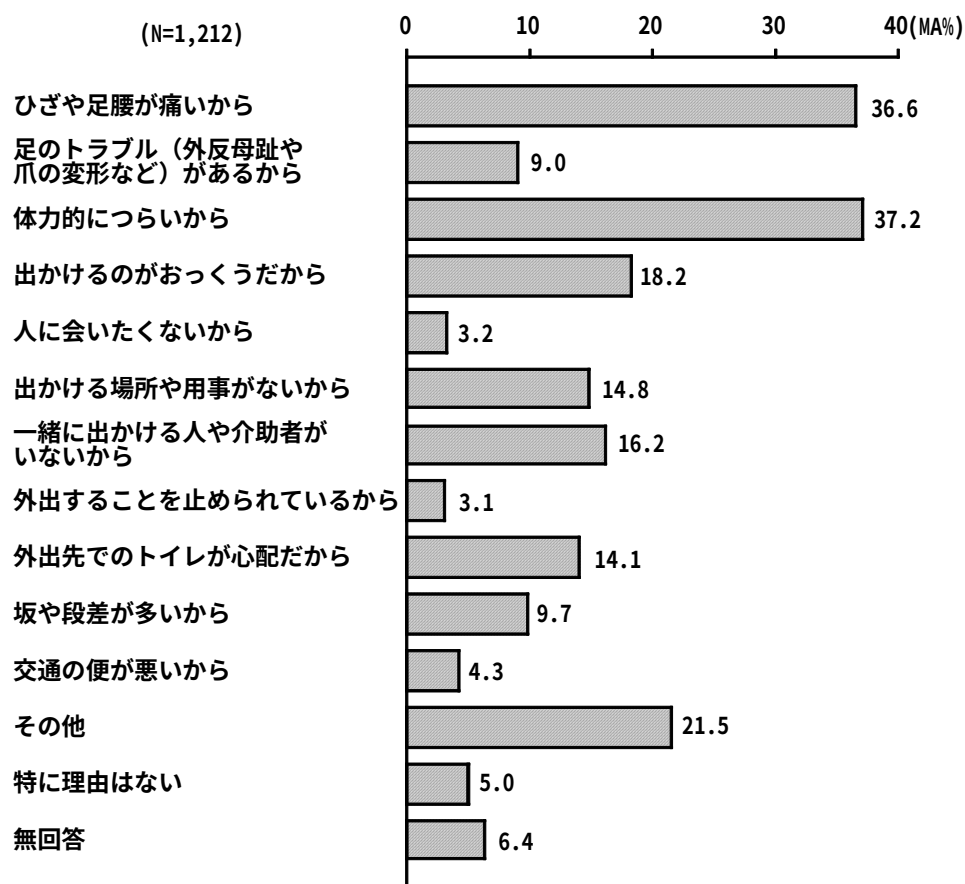
図 2-11 外出の頻度



外出する頻度をみると、「ほとんど外出しない」が 30.1%と最も多く、次いで「週に1～2日」(19.9%)、「週に3～4日」(17.7%)となっている。

イ 外出を控える理由

図 2-12 外出を控える理由

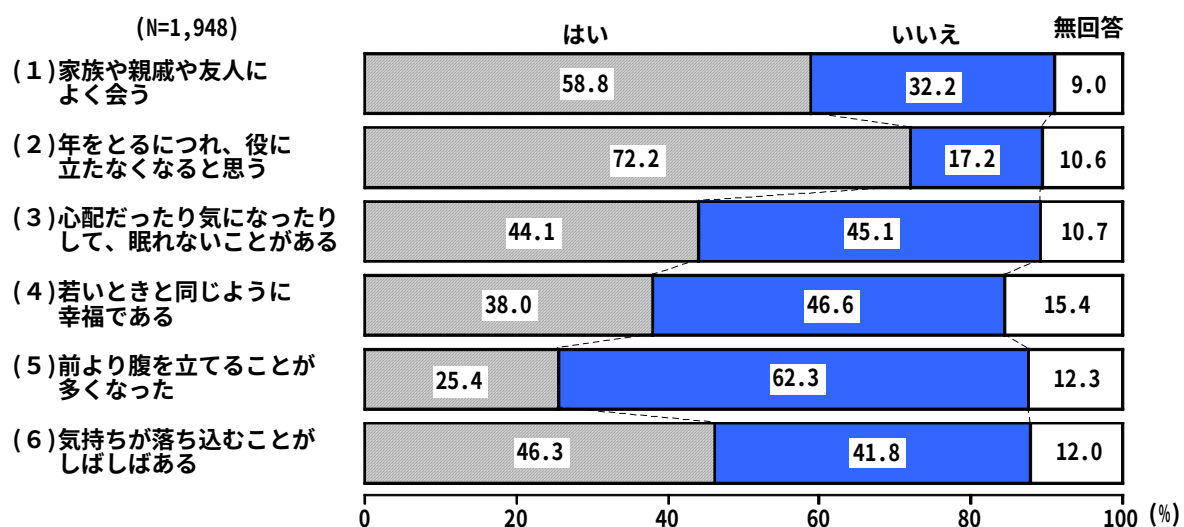


外出頻度が週に1～2日以下の人に外出を控える理由をたずねたところ、「ひざや足腰が痛いから」「体力的につらいから」がともに30%台後半と多く、次いで「出かけるのがおっくうだから」(18.2%)、「一緒に出かける人や介助者がいないから」(16.2%)などとなっている。

(8) 主観的幸福感

ア 主観的幸福感（モラル・スケール）

図 2-13 主観的幸福感（モラルスケール）



『(1) 家族や親戚や友人によく会う』では「はい」が 58.8%と過半数を占めるが、
『(4) 若いときと同じように幸福である』については 38.0%と少なくなっている。

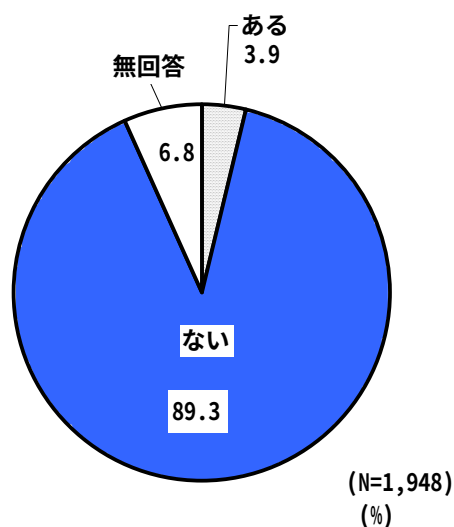
また、『(5) 前より腹を立てることが多くなった』では「いいえ」が 62.3%を占める
一方、『(2) 年をとるにつれ、役に立たなくなると思う』については 17.2%と非常に少
なくなっている。

3 介護保険サービスの利用状況

(1) 障害や疾患等を理由にサービス利用を断られた経験

ア 障害や疾患等を理由に利用を断られた経験の有無

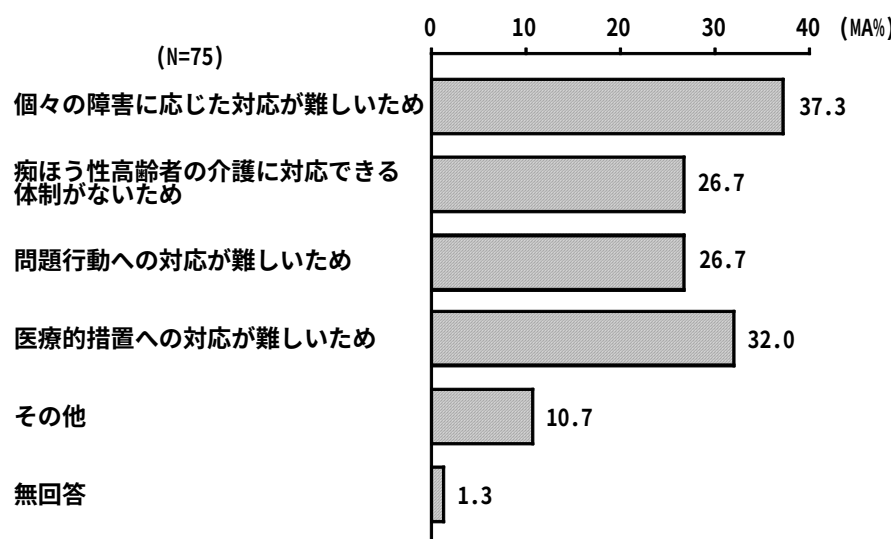
図 3-1 障害や疾患等を理由に利用を断られた経験の有無



障害や疾患等を理由に事業者から介護保険サービスの利用を断られたことがある人は、3.9%となっている。

イ 利用を断られた主な理由

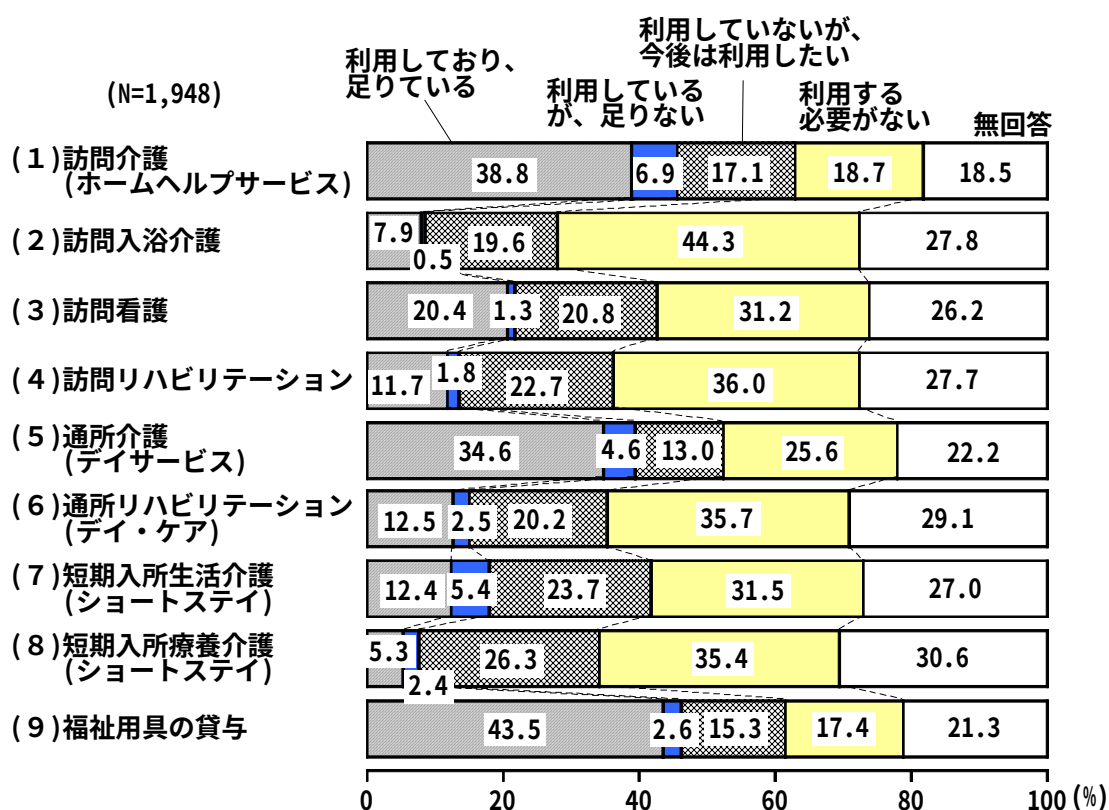
図 3-2 利用を断られた主な理由



サービスの利用を断られた主な理由としては、「個々の障害に応じた対応が難しいため」が 37.3%、「医療的措置への対応が難しいため」が 32.0%、「痴ほう性高齢者の介護に対応できる体制がないため」「問題行動への対応が難しいため」がともに 26.7%となっている。

(2) 居宅サービスの利用状況・利用意向

図 3-3 居宅サービスの利用状況・利用意向



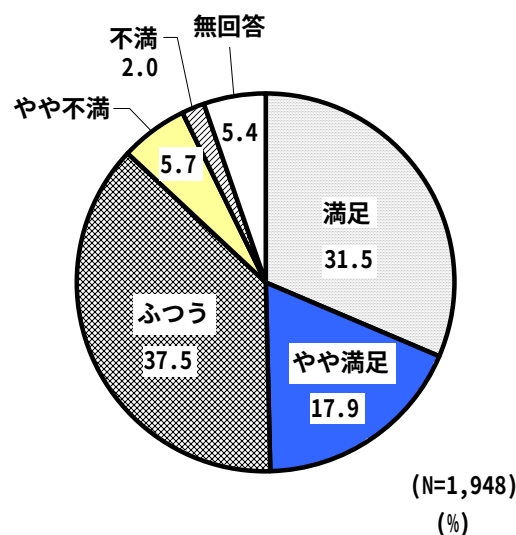
居宅サービスの利用度（「利用しており、足りている」に「利用しているが、足りない」を加えた割合）をみると、『(1) 訪問介護（ホームヘルプサービス）』『(5) 通所介護（デイサービス）』『(9) 福祉用具の貸与』が30～40%台と高くなっている。

今後の利用希望については、『(8) 短期入所療養介護（ショートステイ）』が26.3%と最も高く、『(4) 訪問リハビリテーション』『(7) 短期入所生活介護（ショートステイ）』も20%を超えている。

(3) 事業者やサービス内容に関する情報への希望

ア 事業者やサービス内容に関する情報への満足度

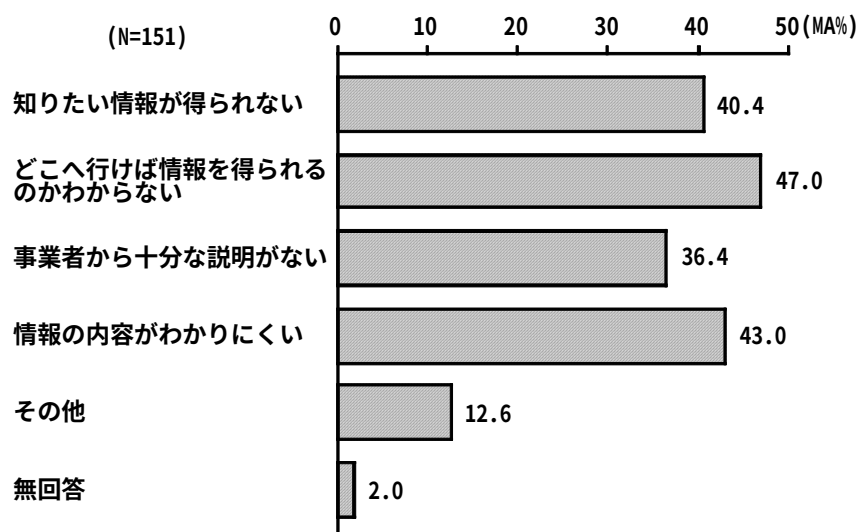
図 3-4 事業者やサービス内容に関する情報への満足度



事業者やサービス内容に関する情報入手について満足している人は、「やや満足」を合わせて全体の 49.4% となっている。

イ 不満を感じている点

図 3-5 不満を感じている点

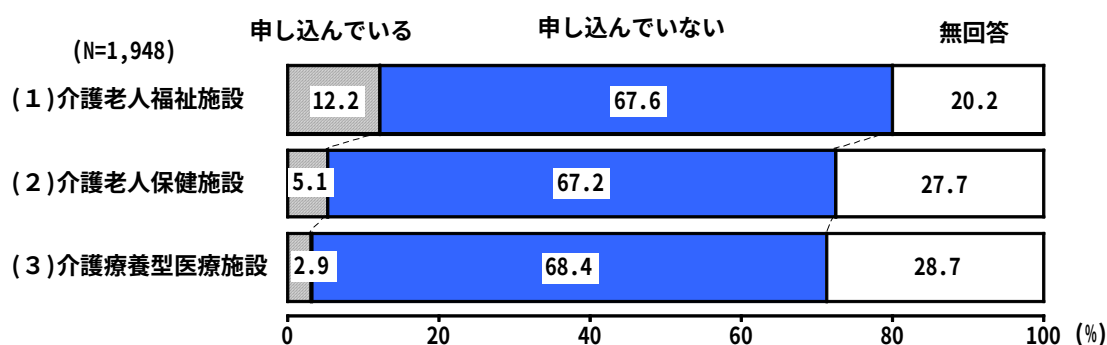


不満を感じている点としては、「どこへ行けば情報を得られるかわからない」が 47.0% と最も多く、次いで「情報の内容がわかりにくい」(43.0%)、「知りたい情報が得られない」(40.4%)、「事業者から十分な説明がない」(36.4%) の順で多くなっている。

(4) 介護保険施設への入所申込状況

ア 施設への申込みの有無

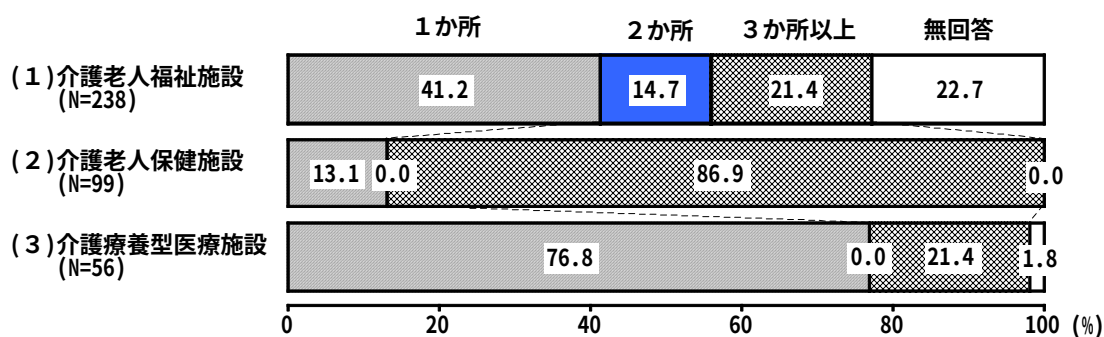
図 3-6 施設への申込みの有無



介護保険施設への申込み状況をみると、「申し込んでいる」は、介護老人福祉施設が12.2%、介護老人保健施設が5.1%、介護療養型医療施設が2.9%となっている。

イ 申込み施設数

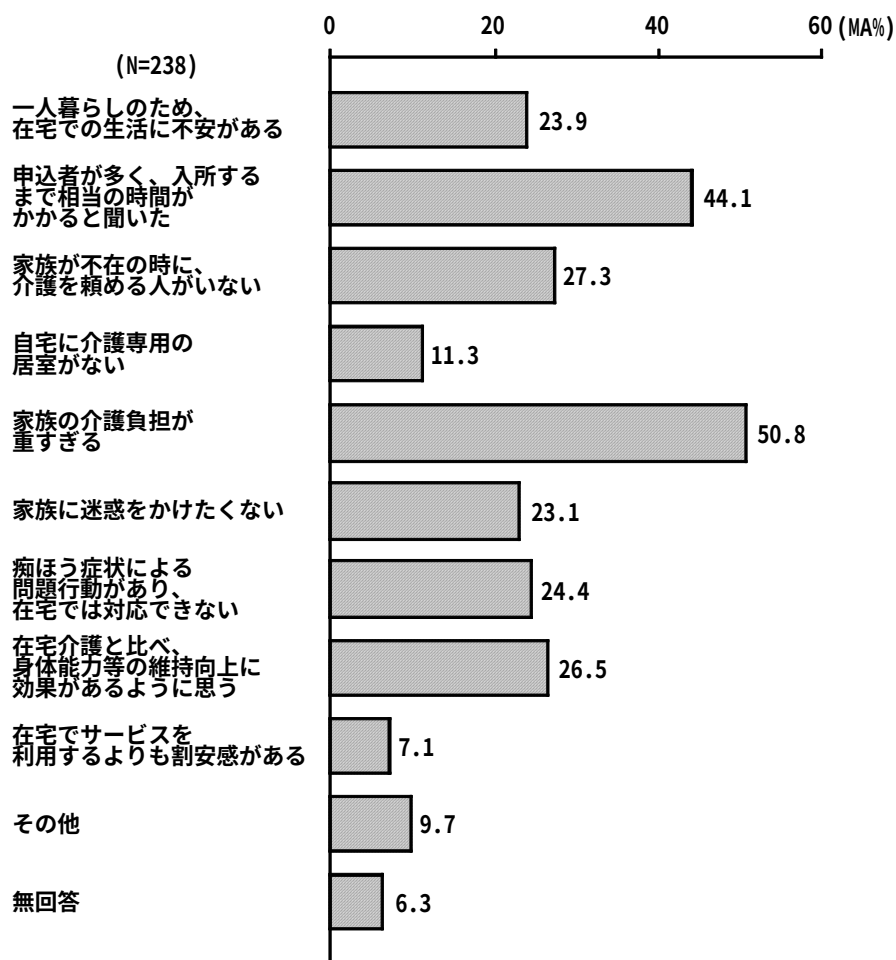
図 3-7 申込み施設数



申込み施設数については、介護老人福祉施設は「1 か所」が41.2%と最も多く、次いで「3 か所以上」(21.4%)であり、介護老人保健施設は「3 か所以上」、介護療養型医療施設は「1 か所」が最も多くなっている。

ウ 入所申込みをした理由

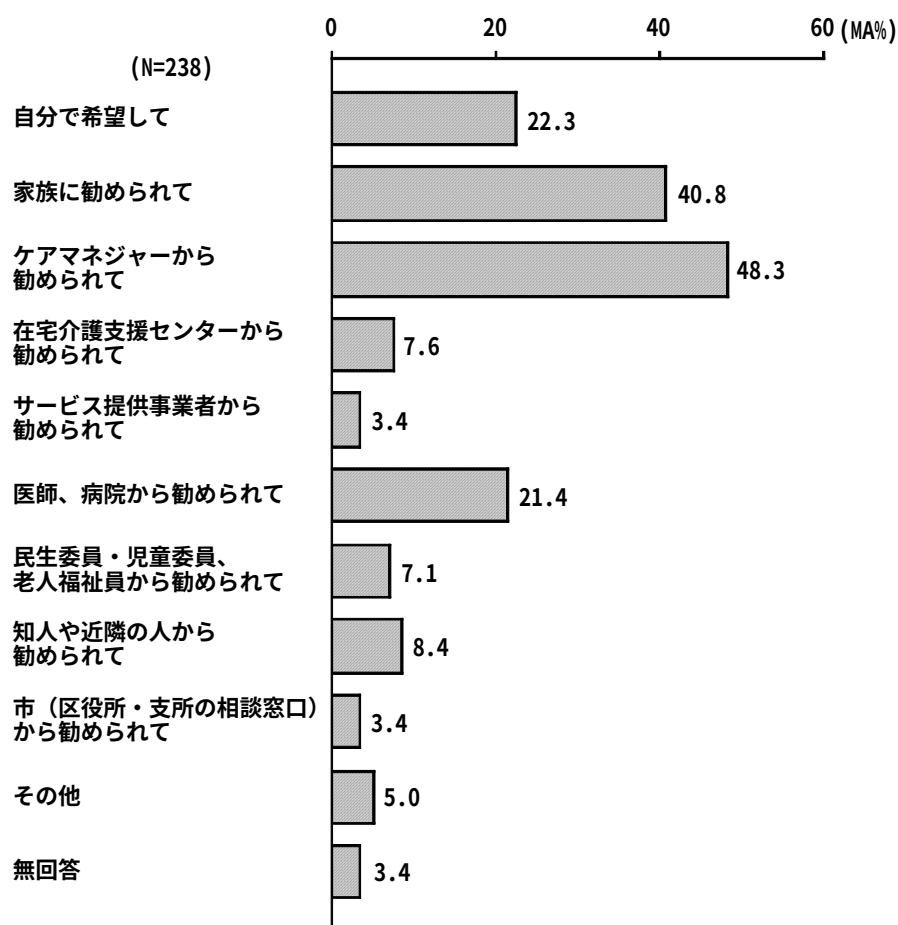
図 3-8 入所申込みをした理由



施設に入所申込みをした理由としては、「家族の介護負担が重すぎる」が 50.8%と最も多く、次いで「申込者が多く、入所するまで相当の時間がかかると聞いた」(44.1%)、「家族が不在の時に、介護を頼める人がいない」(27.3%)、「在宅介護と比べ、身体能力等の維持向上に効果があるように思う」(26.5%) などとなっている。

エ 入所申込みをしたきっかけ

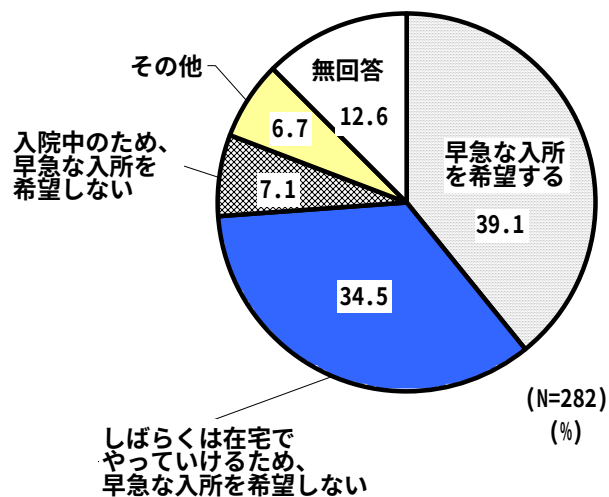
図 3-9 入所申込みをしたきっかけ



入所申込みをしたきっかけについては、「ケアマネジャーから勧められて」が 48.3%と最も多く、次いで「家族に勧められて」（40.8%）が多くなっている。

オ 早急な入所希望の有無

図 3-10 早急な入所希望の有無

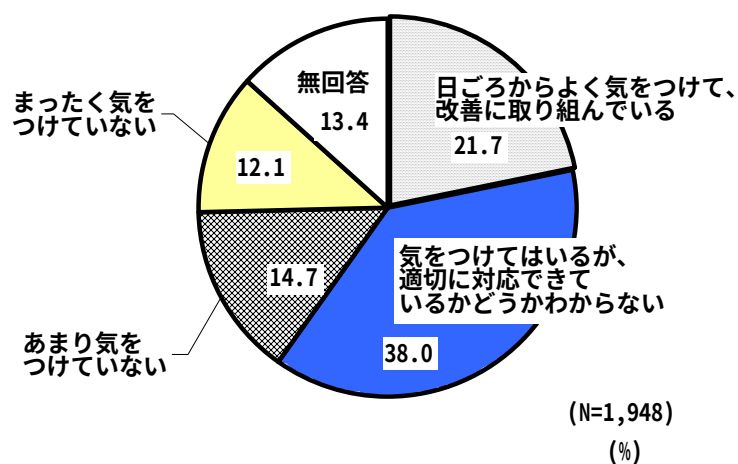


早急な入所を希望している人は 39.1%であり、「しばらくは在宅でやっていけるため早急な入所を希望しない」が 34.5%となっている。

4 介護予防と介護のあり方について

(1) 心身の変化に対する意識

図 4-1 心身の変化への対応・改善の有無

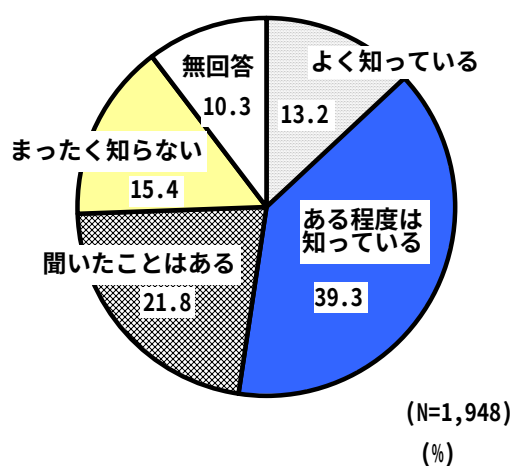


心身の変化に対して日ごろから配慮している人は全体の約 60%を占め、「改善に取り組んでいる」人は 21.7%となっている。

(2) 介護予防に関する知識と取り組み

ア 老化予防・介護予防に関する理解

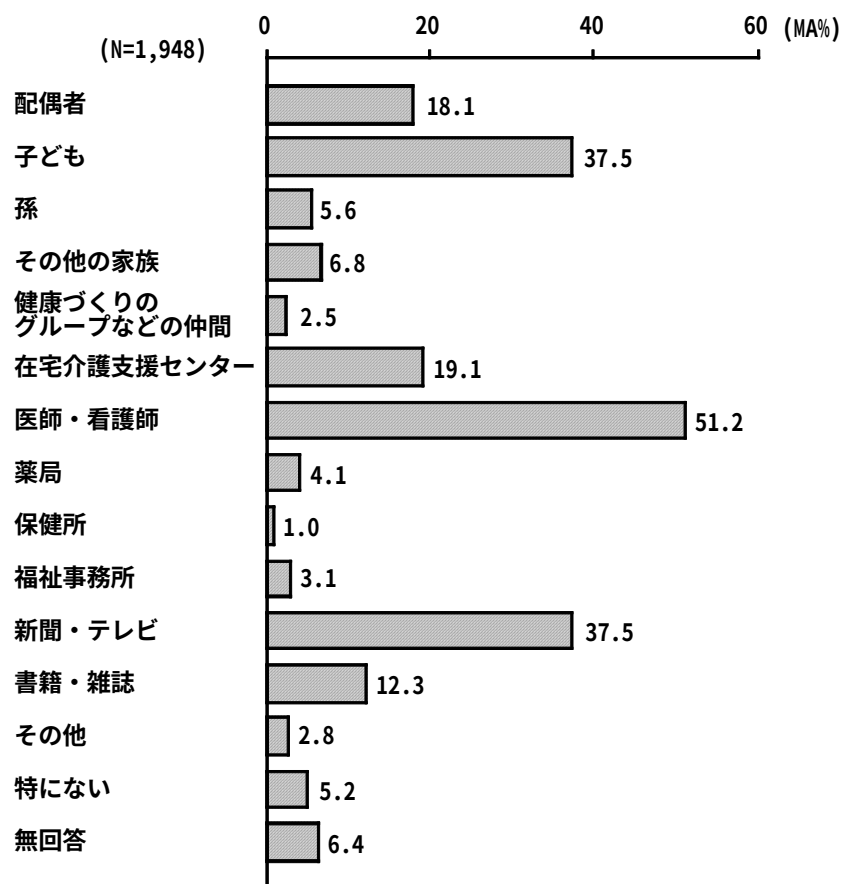
図 4-2 老化予防・介護予防に関する理解



介護予防や老化予防について「知っている」（「よく知っている」に「ある程度は知っている」を加えた割合）と答えた人は 52.5%となっている。

イ 病気・老化の予防や健康づくりに関する情報源

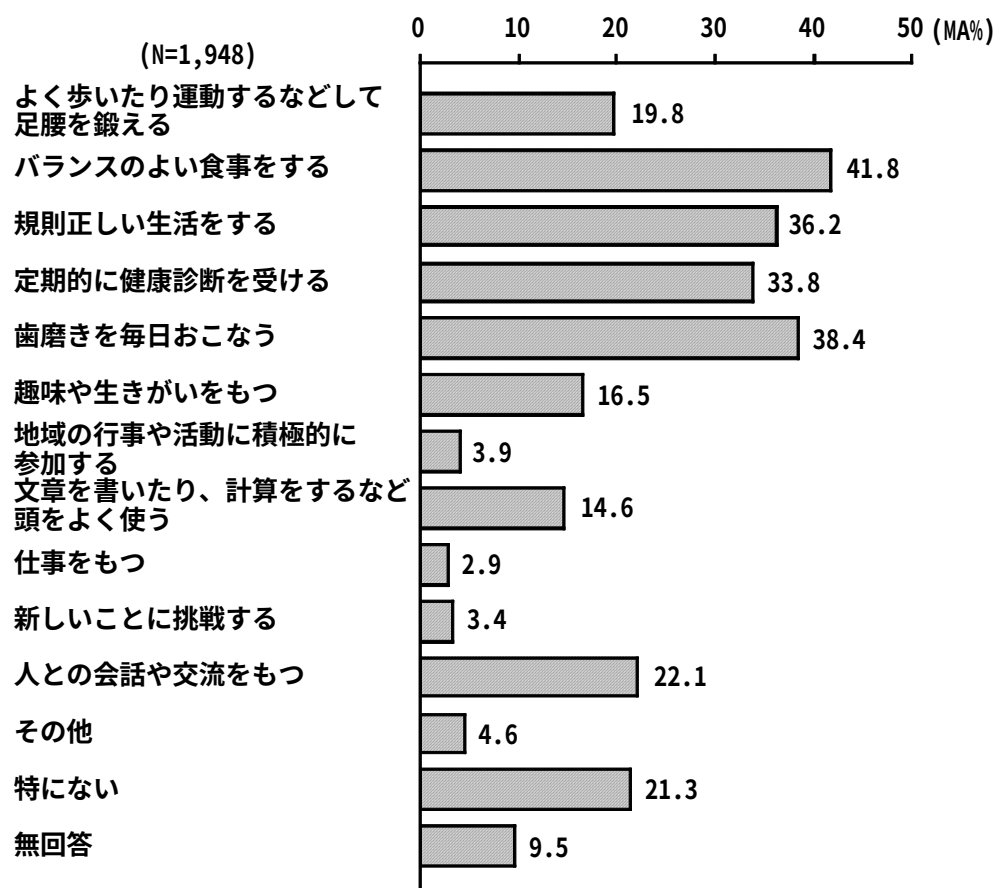
図 4-3 病気・老化の予防や健康づくりに関する情報源



病気・老化予防や健康づくりに関する情報源としては、「医師・看護師」が 51.2%と最も多く、次いで「子ども」「新聞・テレビ」がともに 37.5%となっている。

ウ 病気・老化の予防のため取り組んでいること

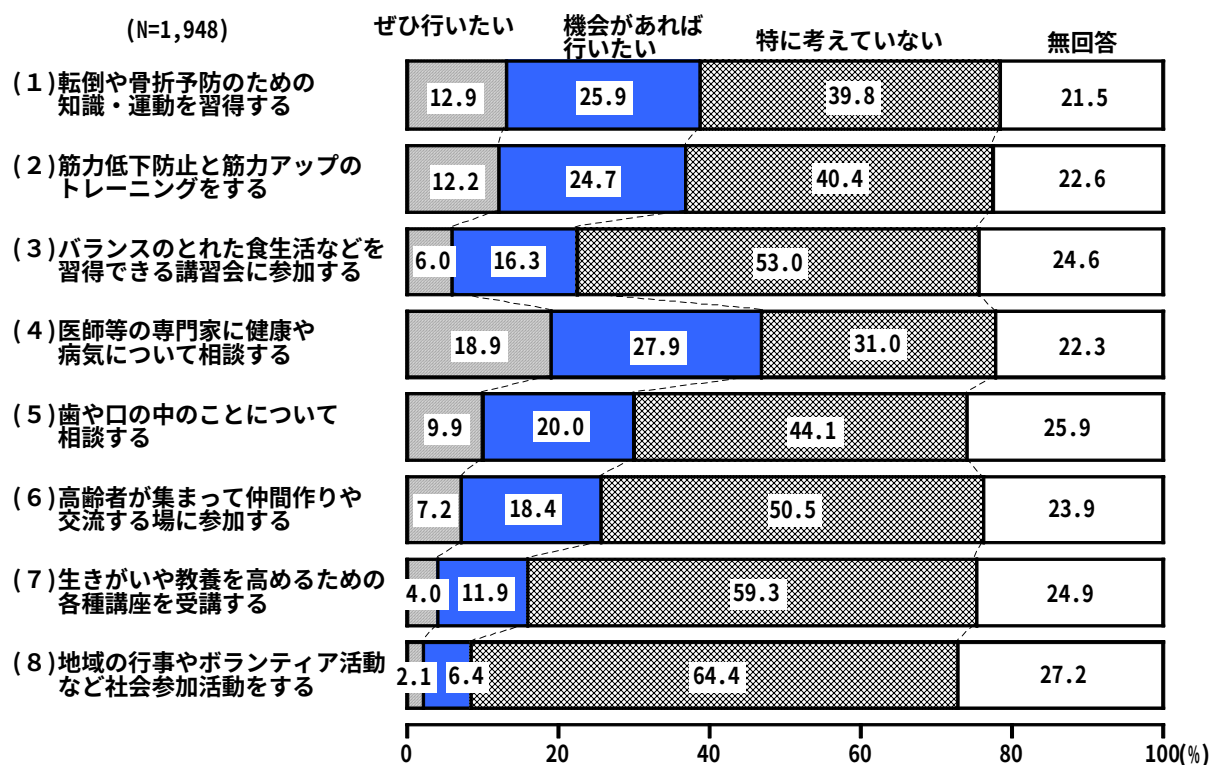
図 4-4 病気・老化の予防のため取り組んでいること



病気・老化予防のために取り組んでいることとしては、「バランスのよい食事をする」が 41.8%と最も多く、次いで「歯磨きを毎日おこなう」(38.4%)、「規則正しい生活をする」(36.2%)、「定期的に健康診断を受ける」(33.8%)となっている。

エ 病気・老化の予防や健康づくりのために行いたいこと

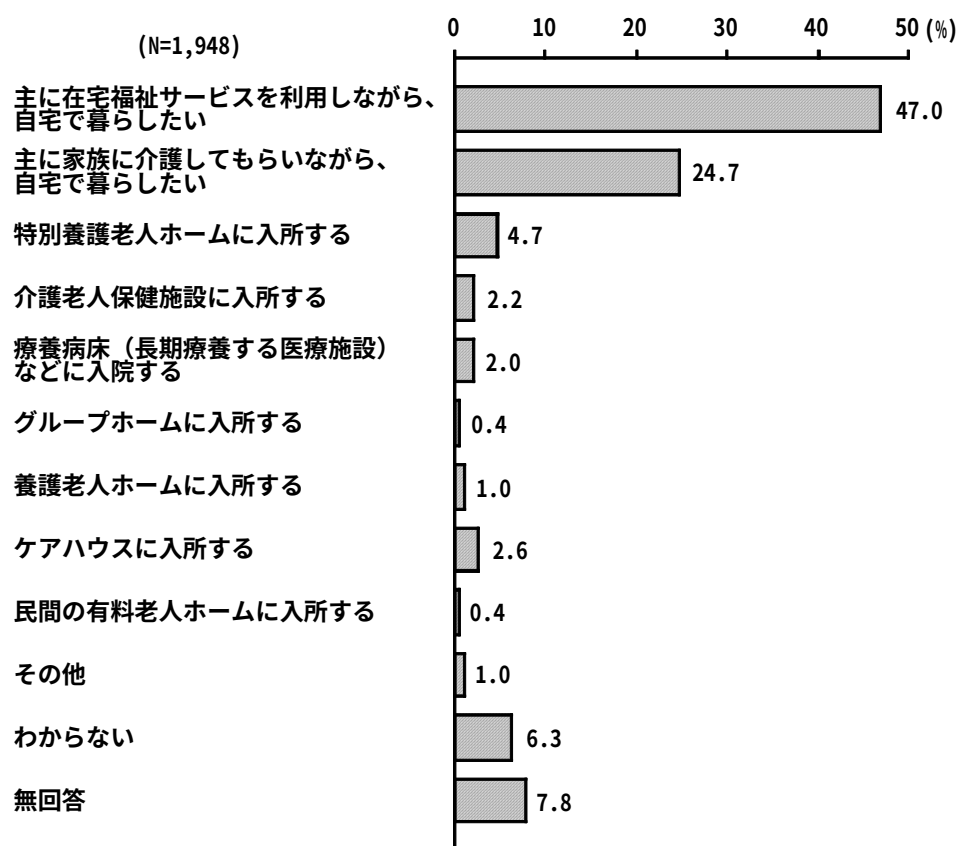
図 4-5 病気・老化の予防や健康づくりのために行いたいこと



病気・老化予防や健康づくりのために今後行いたいこと（「ぜひ行いたい」に「機会があれば行いたい」を加えた割合）としては、『(4) 医師等の専門家に健康や病気について相談する』が 46.8%と最も多く、次いで『(1) 転倒や骨折予防のための知識・運動を習得する』（38.8%）、『(2) 筋力低下防止と筋力アップのトレーニングをする』（36.9%）などとなっている。

(3) 住まいと介護について希望する暮らし方

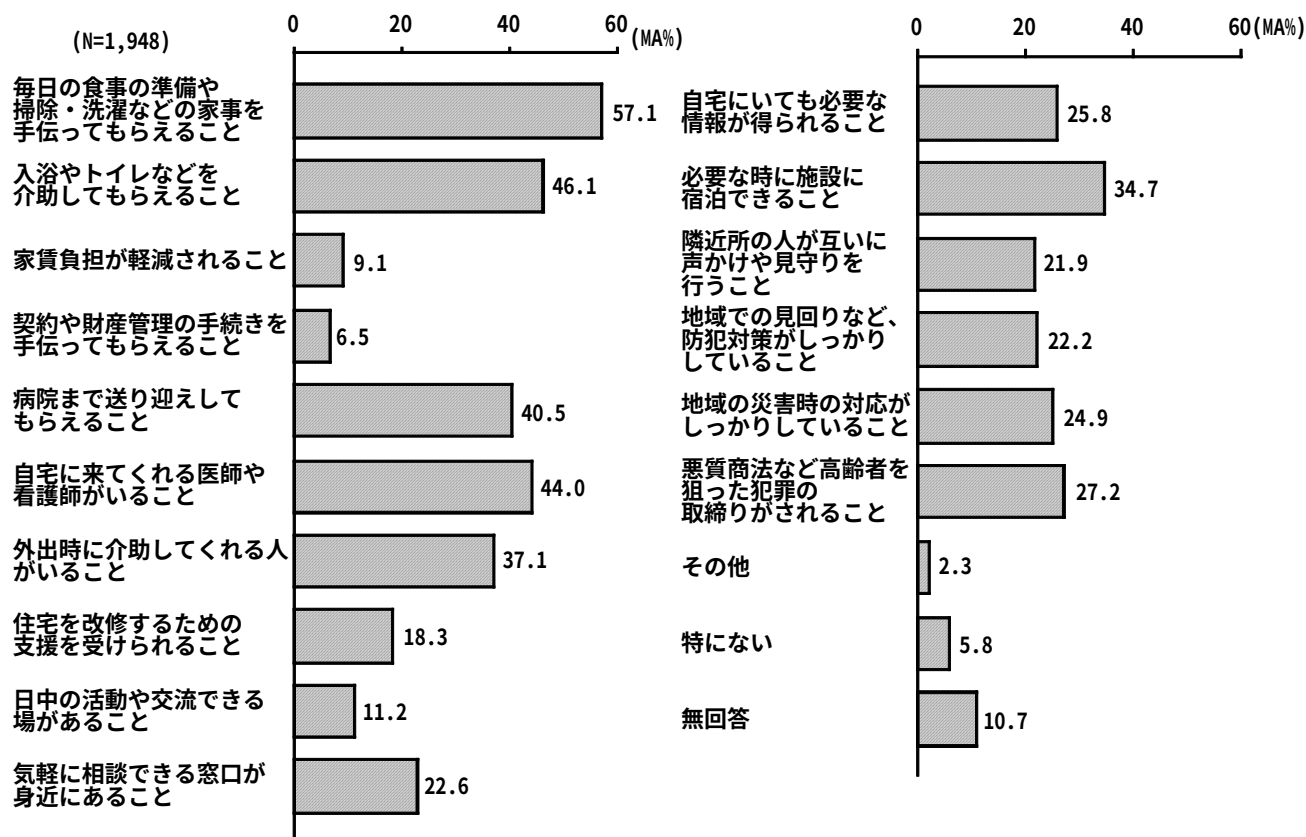
図 4-6 住まいと介護について希望する暮らし方



住まいと介護について希望する暮らし方としては、「主に在宅福祉サービスを利用しながら、自宅で暮らしたい」が 47.0%、「主に家族に介護してもらいながら、自宅で暮らしたい」が 24.7%となっており、合計すると全体の 71.7%が自宅での生活を希望している。

(4) 在宅生活を続けていく上で必要な支援

図 4-7 在宅生活を続けていく上で必要な支援

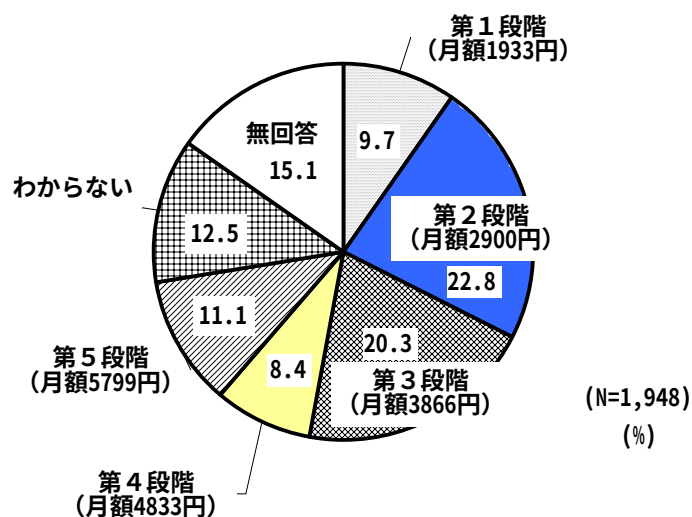


在宅生活を続けていく上で必要な支援としては、「毎日の食事の準備や掃除・洗濯などの家事を手伝ってもらえること」が57.1%と最も多く、次いで「入浴やトイレなどを介助してもらえること」(46.1%)、「自宅に来てくれる医師や看護師がいること」(44.0%)、「病院まで送り迎えしてもらえること」(40.5%)、「外出時に介助してくれる人がいること」(37.1%) などとなっている。

5 介護保険制度について

(1) 第1号被保険者保険料の所得段階別区分

図 5-1 介護保険料の段階

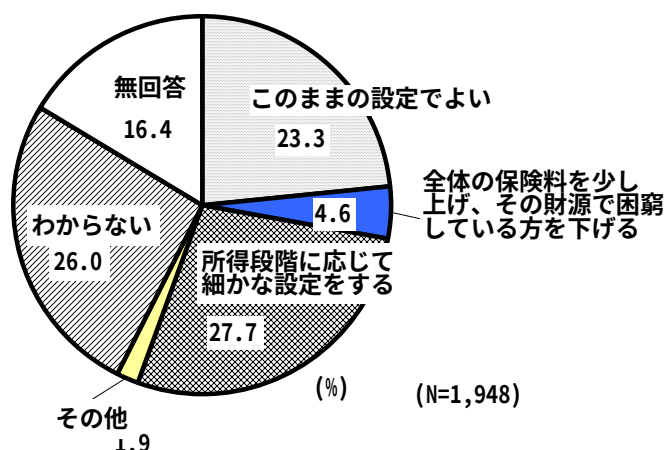


第1号被保険者保険料の所得段階別区分は、「第2段階」が22.8%、「第3段階」が20.3%と多くなっている。

(2) 保険料の設定および給付と負担のあり方についての意向

ア 介護保険料の設定について

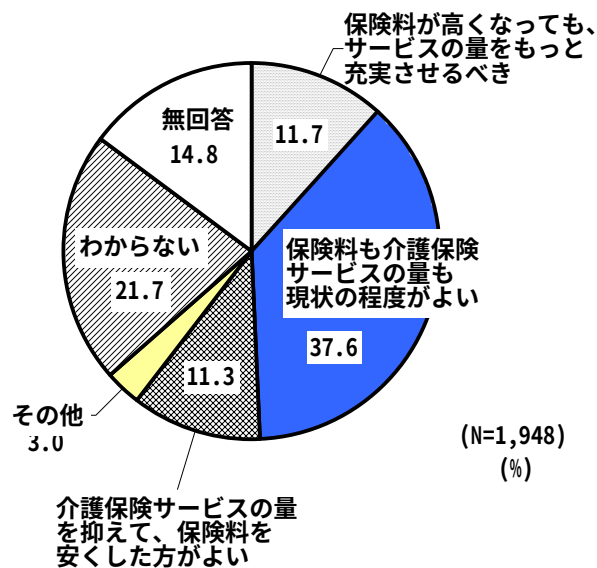
図 5-2 介護保険料の設定について



第1号被保険者の所得段階別保険料の設定方法については、「所得段階に応じて細かな設定をする」(27.7%)、および「このままの設定でよい」(23.3%)が多く、「全体の保険料を少し上げ、その財源で困窮している方を下げる」は4.6%となっている。

イ 今後の保険料のあり方について

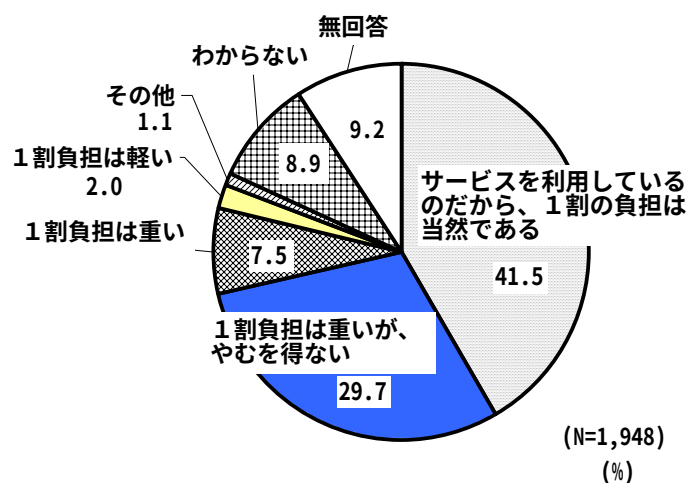
図 5-3 今後の保険料のあり方について



今後の保険料のあり方としては、「保険料も介護保険サービスの量も現状の程度がよい」が 37.6%と多く、「保険料が高くなっても、サービスの量をもっと充実させるべき」「介護保険サービスの量を抑えて、保険料を安くした方がよい」はともに 10%強となっている。

ウ 利用者負担について

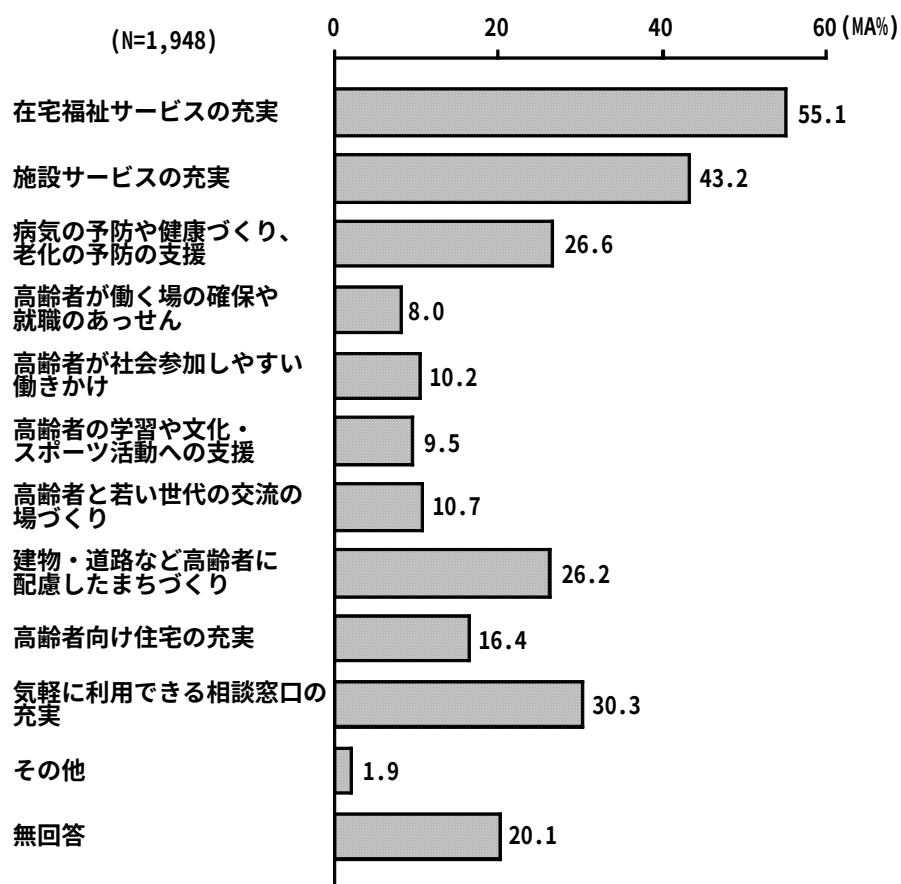
図 5-4 利用者負担について



介護サービス利用料の 1 割負担については、「サービスを利用しているのだから、1 割の負担は当然である」が 41.5%と最も多く、「1 割負担は重い、やむを得ない」も 29.7%と多くなっている。

(3) 高齢者保健福祉施策に対する要望

図 5-5 高齢者保健福祉について充実を希望する施策



高齢者保健福祉について今後充実を望む施策としては、「在宅福祉サービスの充実」が 55.1%と最も多く、次いで「施設サービスの充実」(43.2%)、「気軽に利用できる相談窓口の充実」(30.3%)、「病気の予防や健康づくり、老化の防止の支援」(26.6%)、「建物・道路など高齢者に配慮したまちづくり」(26.2%)の順となっている。

6 在宅介護の状況について

(1) 介護者の続柄・年代

図 6-1 介護者の続柄

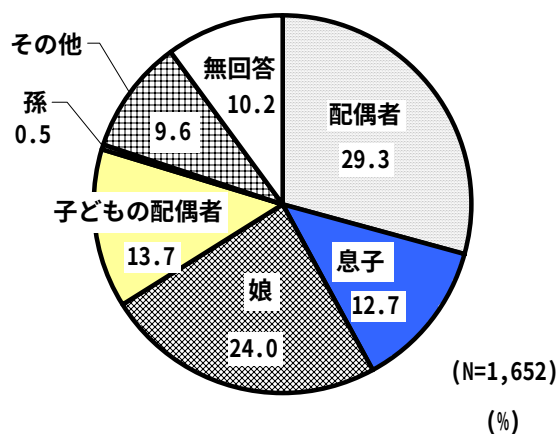
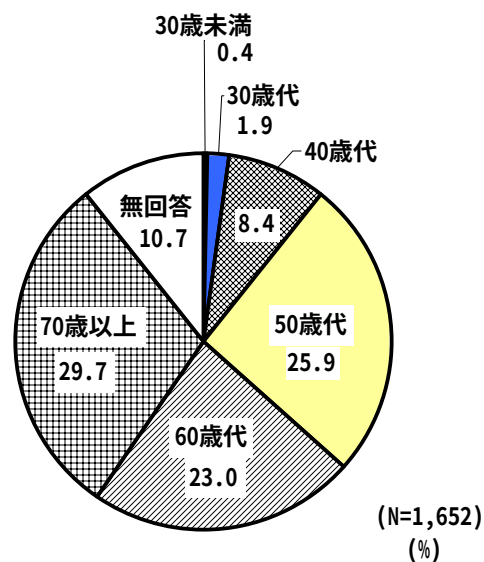


図 6-2 介護者の年代



調査対象者からみた介護者の続柄は、「配偶者」が 29.3%と最も多く、次いで「娘」(24.0%)が多くなっている。

介護者の年代は、「70 歳以上」が 29.7%と最も多く、次いで「50 歳代」(25.9%)、「60 歳代」(23.0%)と、50 歳以上が全体の 80%弱を占める。

(2) 介護サービスの利用等にかかる意思決定者

図 6-3 介護サービスの利用等にかかる意思決定者

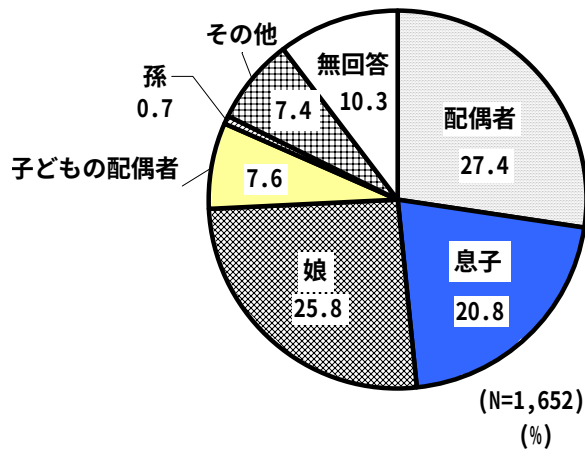
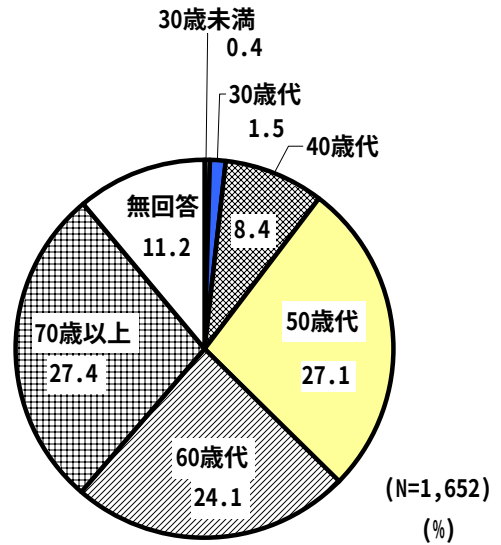


図 6-4 意思決定者の年代

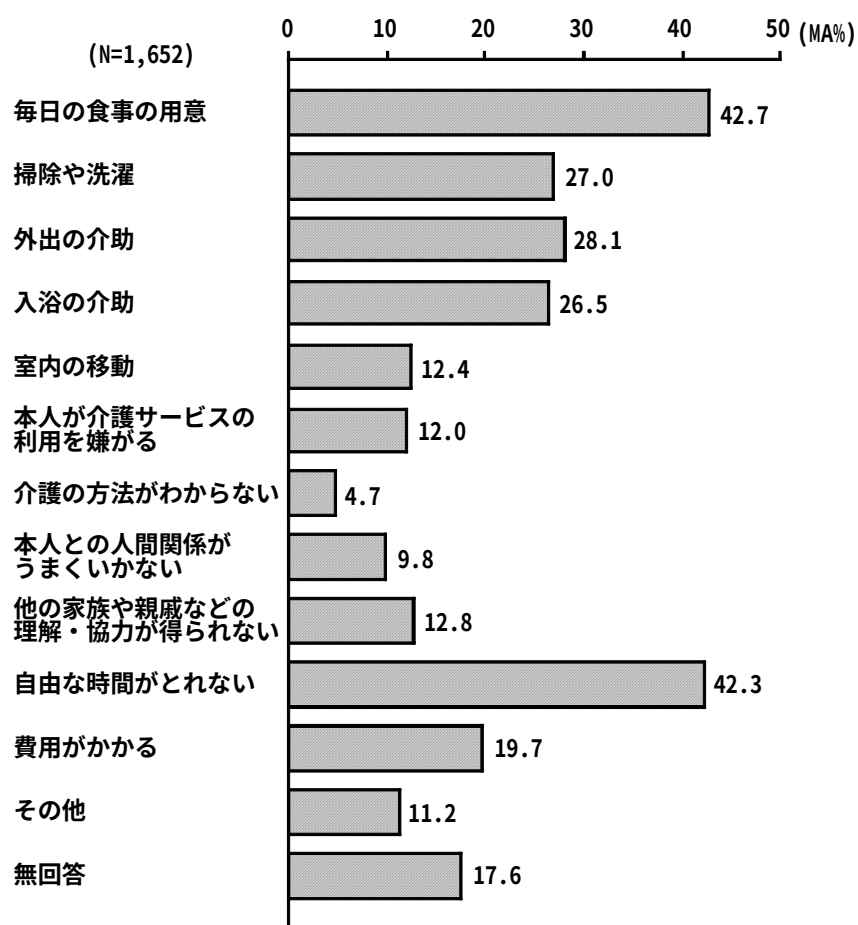


調査対象者がサービス利用する場合などの意思決定に最も関わっている人は、「配偶者」(27.4%)、「娘」(25.8%)、「息子」(20.8%)の三者が多くなっている。

この意思決定者の年代は、「70歳以上」が27.4%と最も多く、次いで「50歳代」(27.1%)、「60歳代」(24.1%)と、50歳以上が全体の80%弱を占める。

(3) 在宅介護の負担について

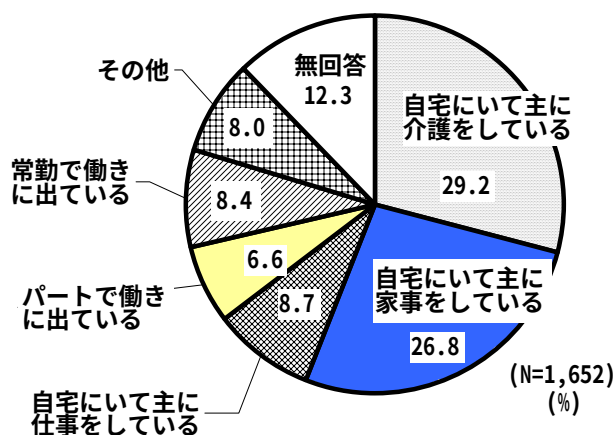
図 6-5 家庭における介護で負担が大きいと感じること



家庭における介護で負担が大きいと感じる介護内容は、「毎日の食事の用意」「自由な時間がとれない」がともに 40%強と多く、「掃除や洗濯」「外出の介助」「入浴の介助」の各項目についても 20%台と多くなっている。

(4) 介護者の昼間の生活状況

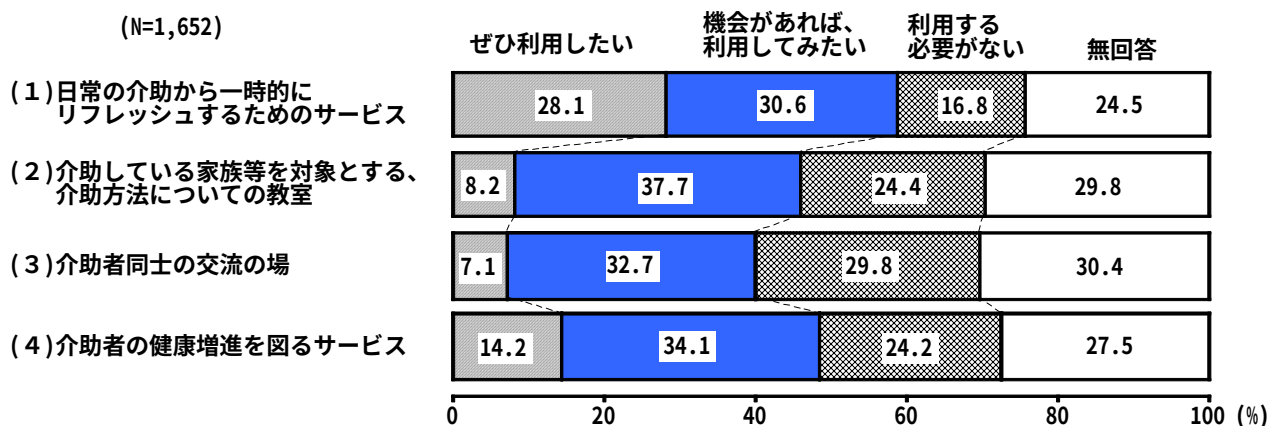
図 6-6 介護者の昼間の生活状況



介護者の昼間の生活状況を見ると、「自宅にいて主に介護をしている」(29.2%) および「自宅にいて主に家事をしている」(26.8%) が多くなっている。

(5) 介護者支援施策に対する意向

図 6-7 介護者が利用したいサービス



介護者が利用したいと思うサービス（「ぜひ利用したい」に「機会があれば、利用してみたい」を加えた割合）としては、『(1) 日常の介助から一時的にリフレッシュするためのサービス』が 58.7% と最も多くなっている。

1 対象者についての基本的事項

(1) 記入者

ア 記入者

表 1-1 記入者

調査数	宛名のご本人	ご家族	その他	無回答
601 100.0	281 46.8	271 45.1	10 1.7	39 6.5

アンケートの回答者は、「宛名のご本人」46.8%に対し、「ご家族」が45.1%となっている。

イ 本人が回答できない理由

表 1-2 本人が回答できない理由

調査数	病院に入院中	介護保険施設に入所 (入院)中	病气やけが	物が忘れがあり、 意志疎通が時々難しい	が痴ほうのため意志疎通 がいつも難しい	障害(身体障害、知的 障害など)	別居・転居	答えたくない	その他	無回答
281 100.0	121 43.1	17 6.0	9 3.2	38 13.5	29 10.3	39 13.9	2 0.7	7 2.5	13 4.6	6 2.1

本人が回答できない理由としては、「病院に入院中」が43.1%と多く、そのほかは「障害(身体障害、知的障害など)」13.9%、「物が忘れがあり、意志疎通が時々難しい」13.5%、「痴ほうのため意志疎通がいつも難しい」10.3%となっている。

(2) 年齢別・性別構成

図 1-1 年齢構成

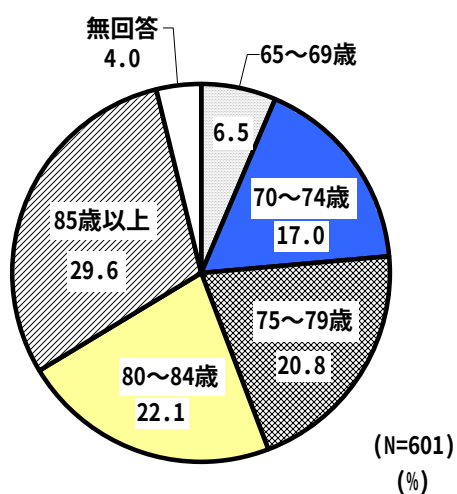
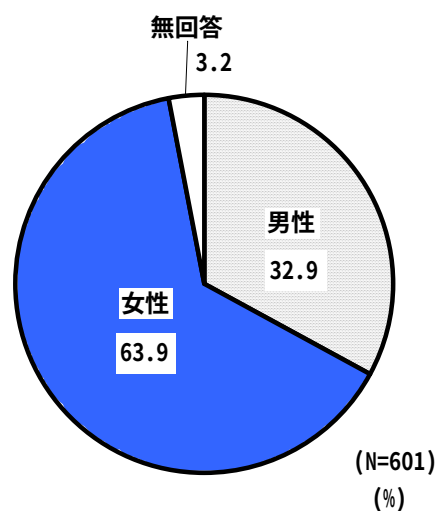


図 1-2 性別構成



調査対象者の年齢構成は、「85 歳以上」が 29.6%と最も多く、次いで「80～84 歳」(22.1%)、「75～79 歳」(20.8%)と、年齢が上がるほど割合も高くなっている。

性別構成については、男性 32.9%、女性 63.9%と、女性の方が 30%以上多くなっている。

(3) 居住地域

ア 居住地区

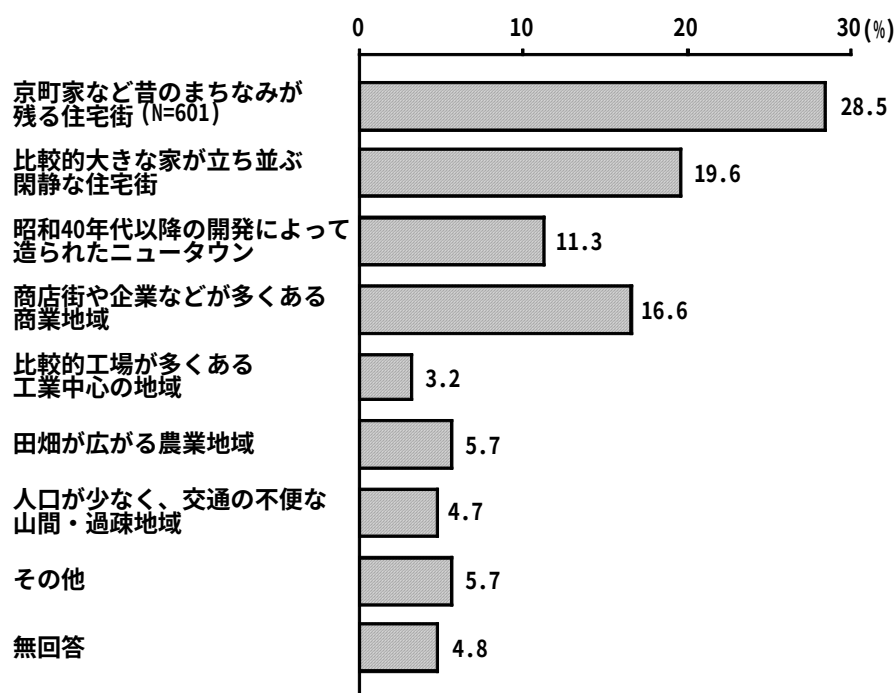
表 1-3 居住地区

調査数	北区	上京区	左京区	中京区	東山区	山科区	下京区	南区	右京区（京北町を含む）	西京区	洛西支所	伏見区	深草支所	醍醐支所	無回答
601 100.0	56 9.3	53 8.8	81 13.5	43 7.2	30 5.0	48 8.0	32 5.3	38 6.3	71 11.8	39 6.5	3 0.5	82 13.6	5 0.8	9 1.5	11 1.8

居住地区は、「左京区」「右京区（京北町を含む）」「伏見区」の3区が10%を超えている。

イ 地域の特性

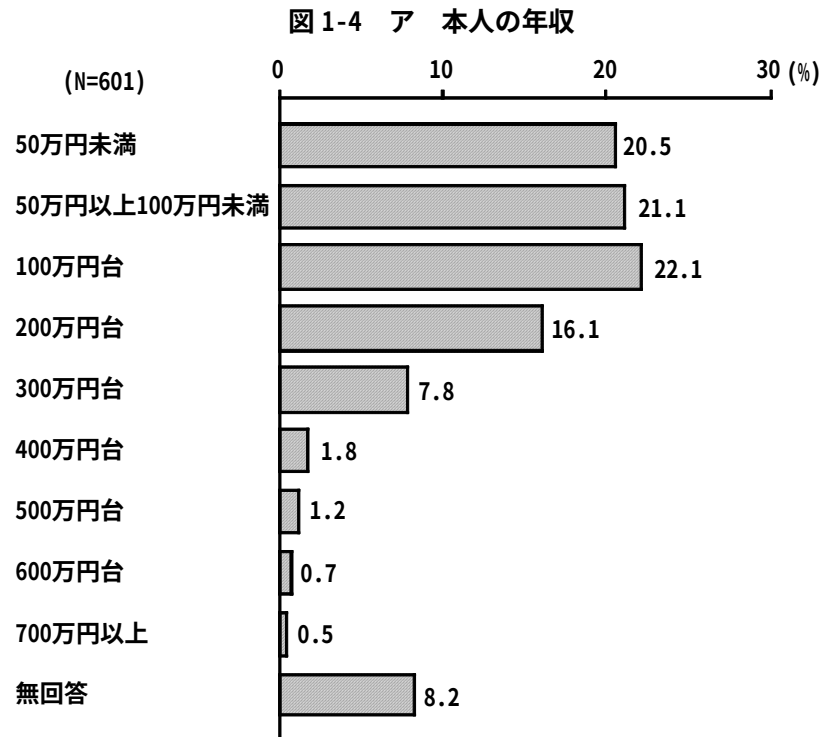
図 1-3 地域の特性



お住まいの地域については、「京町家など昔のまちなみが残る住宅街」が 28.5%と最も多く、次いで「比較的大きな家が立ち並ぶ閑静な住宅街」(19.6%)、「商店街や企業などがある商業地域」(16.6%)となっている。

(4) 収入

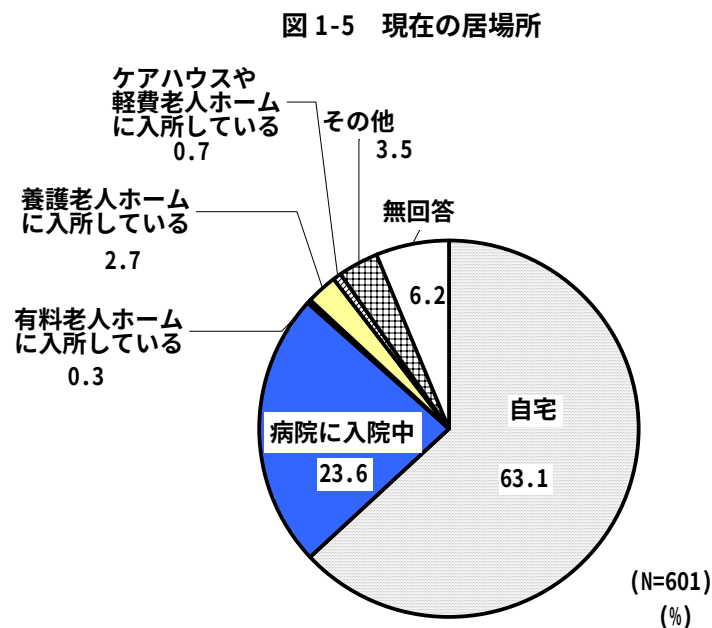
ア ア 本人の年収



調査対象者本人の年収は、「100 万円台」が 22.1%と最も多く、次いで「50 万円以上 100 万円未満」(21.1%)、「50 万円未満」(20.5%)となっている。

(5) 住居形態

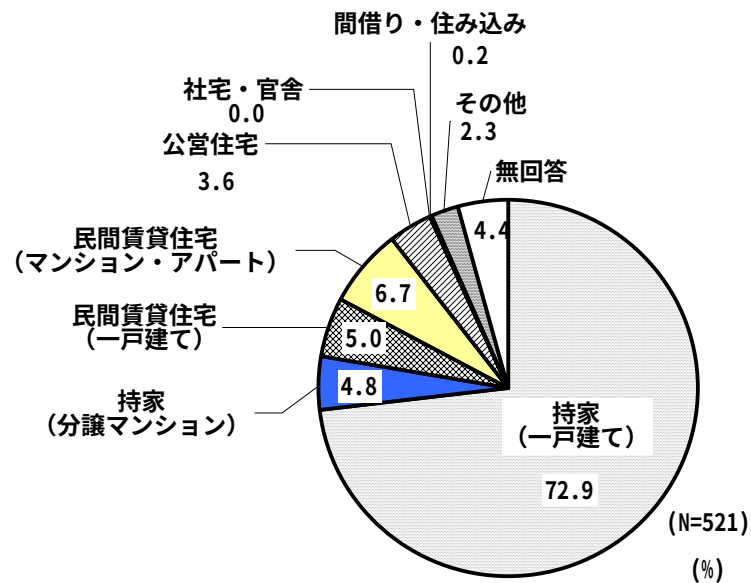
ア 現在の居場所



現在の居場所としては、「自宅」が 63.1%と圧倒的に多く、「病院に入院中」についても 23.6%と多くなっている。

イ 住まいの形態

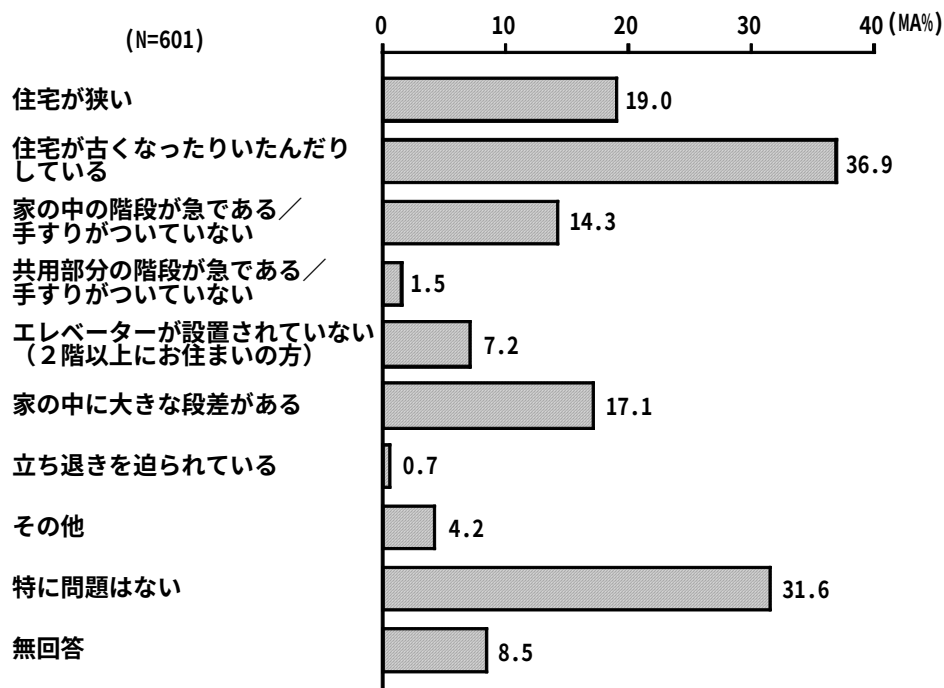
図 1-6 住まいの形態



自宅または入院中の人の住まいの形態は、「持家（一戸建て）」が72.9%と圧倒的に多く、そのほかは「民間賃貸住宅（マンション・アパート）」が6.7%、「民間賃貸住宅（一戸建て）」が5.0%などとなっている。

ウ 住まいの状況

図 1-7 住まいの状況

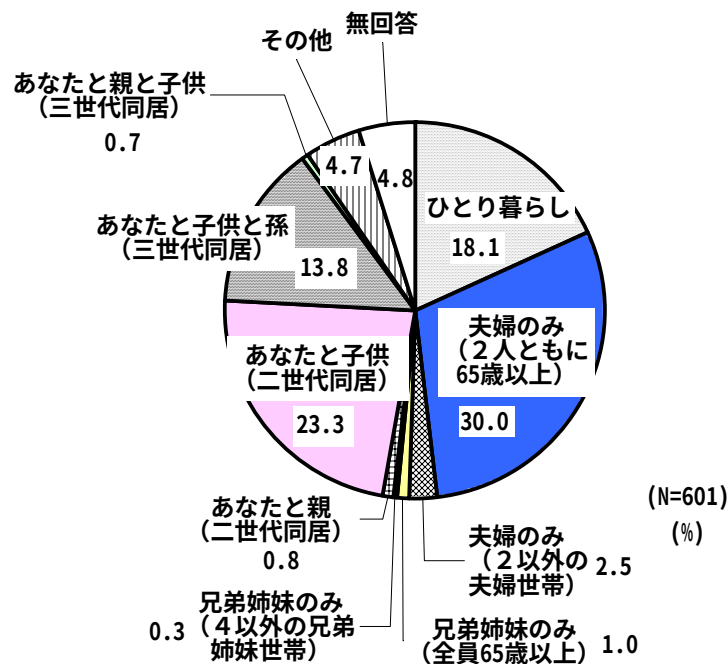


住まいの状況については、「住宅が古くなったりいたんだりしている」が36.9%と最も多く、次いで「住宅が狭い」（19.0%）、「家の中に大きな段差がある」（17.1%）となっている。

(6) 世帯の状況

ア 世帯構成

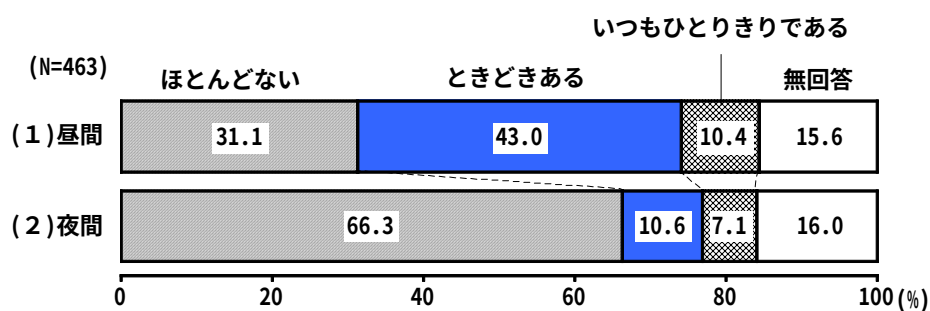
図 1-8 世帯構成



世帯構成は、「夫婦のみ（2人とも 65 歳以上）」が 30.0%と最も多く、次いで「あなたと子供（二世世代同居）」(23.3%)、「ひとり暮らし」(18.1%)、「あなたと子供と孫（三世世代同居）」(13.8%)となっている。

イ 昼間独居等の状況

図 1-9 昼間独居等の状況



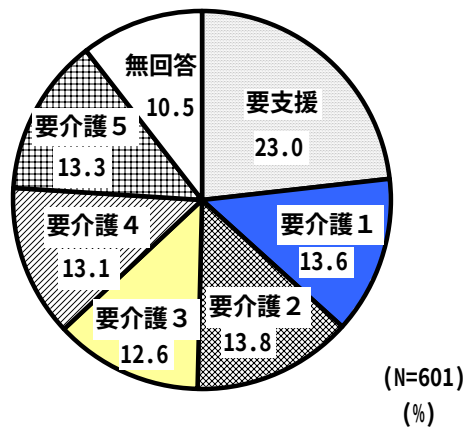
家族と同居している高齢者のうち、昼間、ひとりきりになることがある人は 53.4%を占め、「いつもひとりきりである」は 10.4%となっている。

同様に、夜間、ひとりきりになることがある人は 17.7%であり、「いつもひとりきりである」は 7.1%となっている。

(7) 要介護度とその変化

ア 要介護度

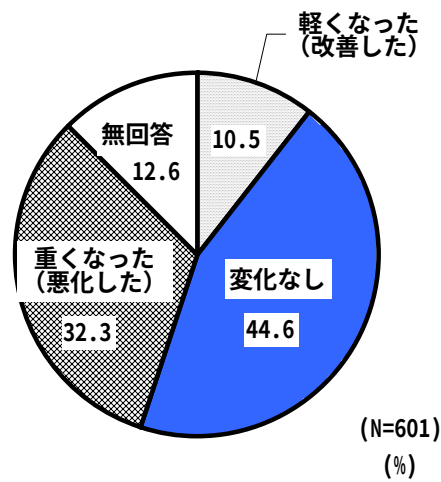
図 1-10 要介護度



調査対象者の要介護度は、「要支援」が23.0%と最も多く、そのほかはいずれも約13～14%となっている。

イ 要介護度の変化

図 1-11 要介護度の変化



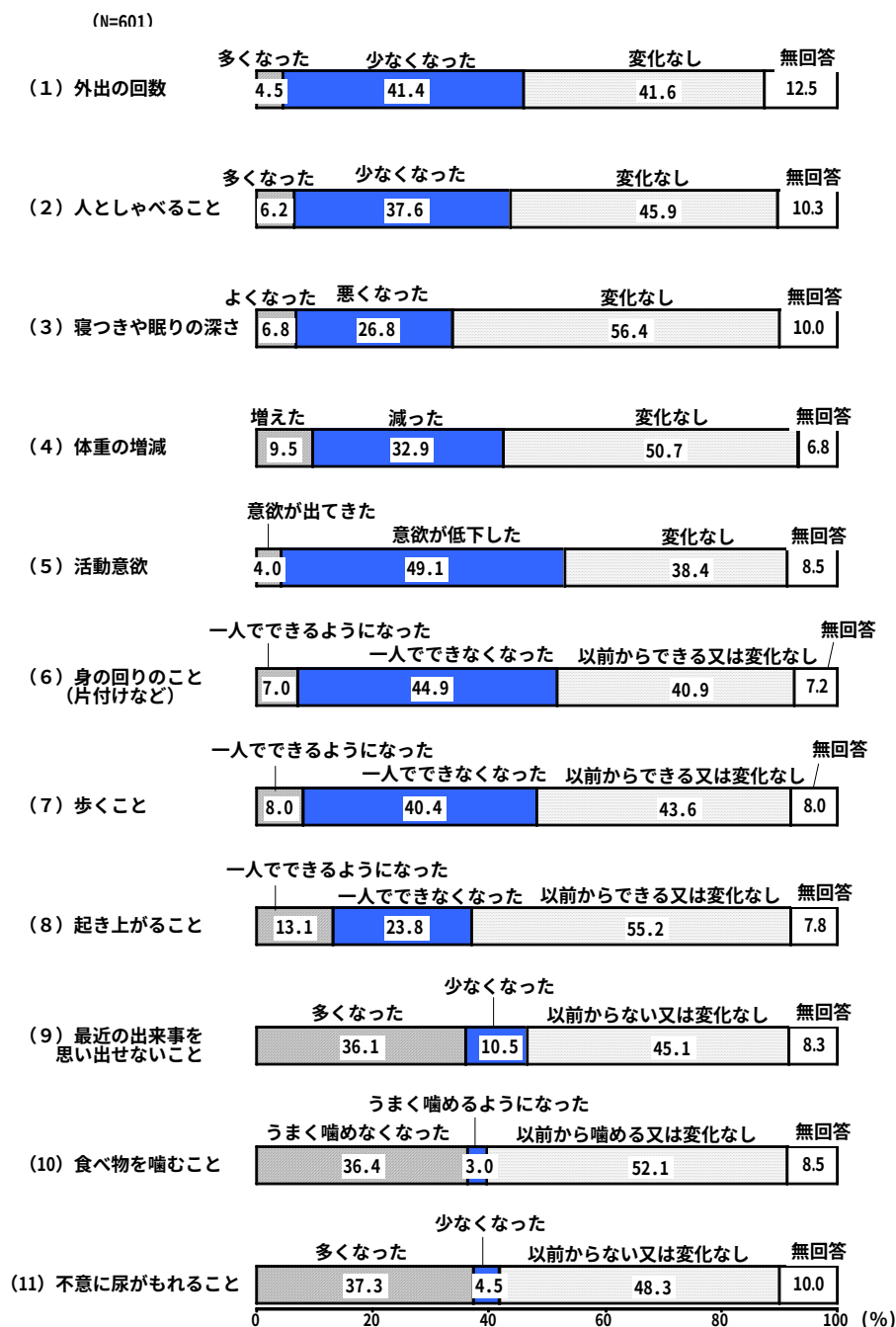
要介護度が以前に比べて「軽くなった（改善した）」は10.5%、それに対して「重くなった（悪化した）」は32.3%と多くなっている。

2 身体・生活の状況について

(1) 最近半年間の心身の変化

ア 最近半年間の心身の変化

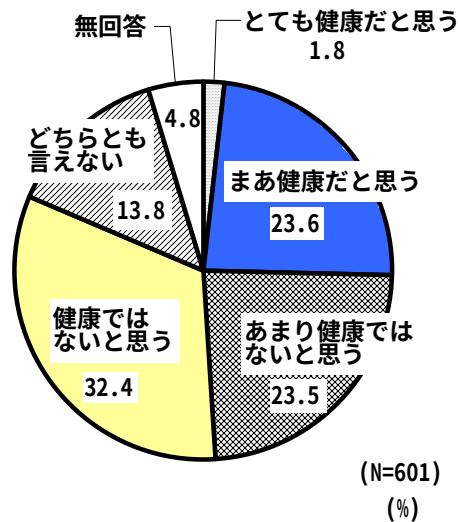
図 2-1 最近半年間の心身の変化



この半年間に心身の状態に変化が見られたかたずねたところ、『(3) 寝つきや眠りの深さ』『(8) 起き上がること』『(10) 食べ物を噛むこと』などでは「変化なし」が過半数を占めたが、『(5) 活動意欲』をはじめ、『(1) 外出の回数』『(6) 身の回りのこと (片付けなど)』などでは、低下や悪化を表す回答が 40% 台と多くなっている。

イ 日ごろの健康状態

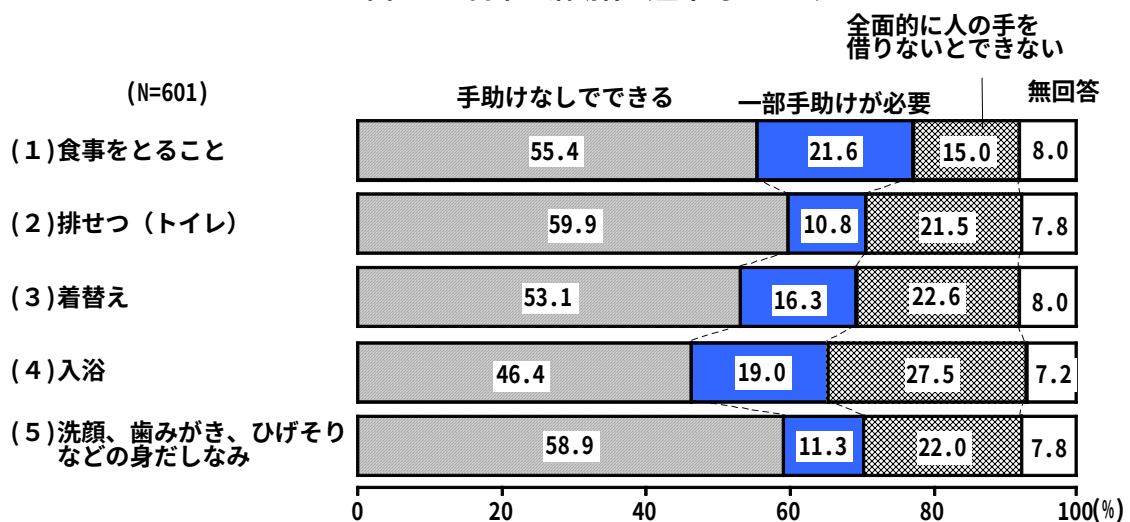
図 2-2 日ごろの健康状態



日ごろの健康状態については、『健康だと思う（計）』（「とても健康だと思う」に「まあ健康だと思う」を加えた割合）の 25.4%に対し、『健康ではないと思う（計）』（「健康ではないと思う」に「あまり健康ではないと思う」を加えた割合）が 55.9%と多くなっている。

(2) 日常生活動作（基本的ADL）

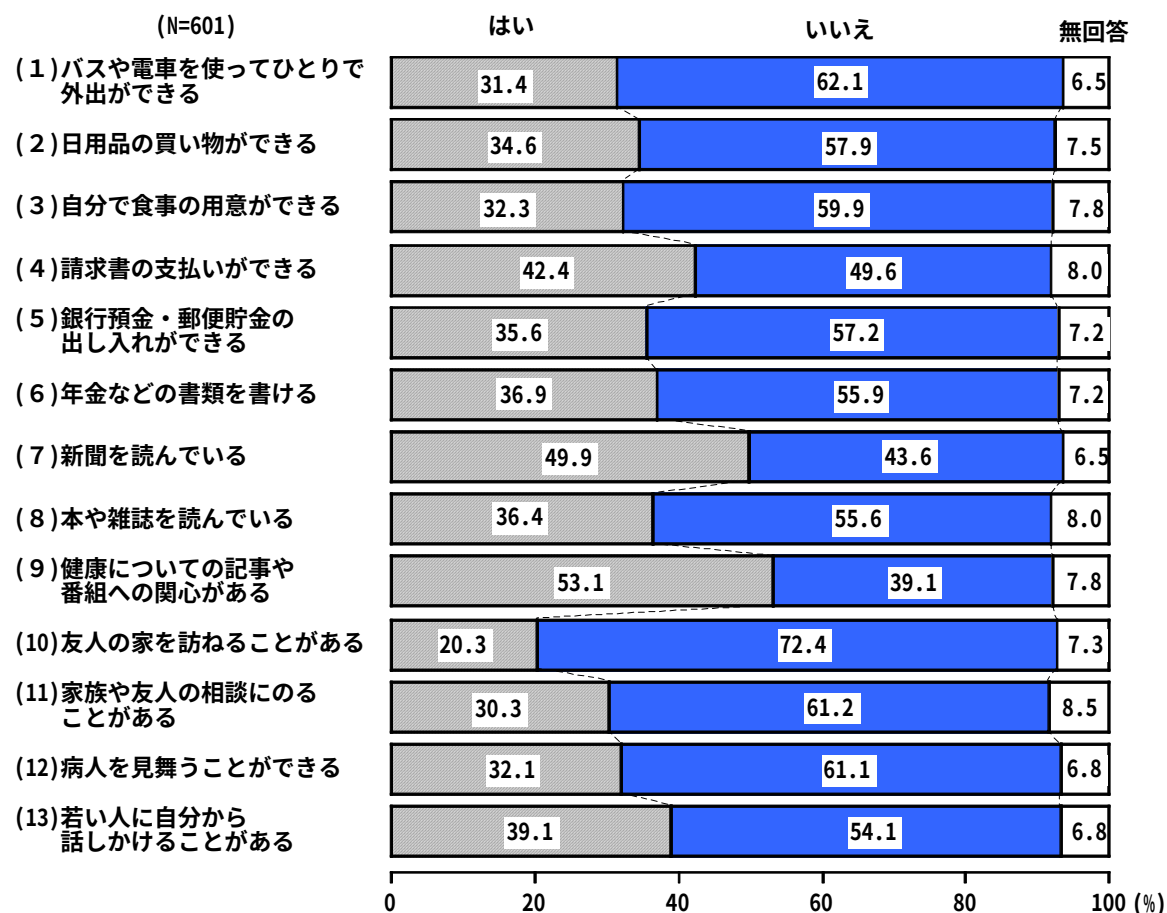
図 2-3 日常生活動作（基本的ADL）



基本的な日常基本動作のうち、介助が必要な割合（「全面的に人の手を借りないとできない」に「一部手助けが必要」を加えた割合）が最も高いのは『(4) 入浴』で 46.5%となっている。

(3) 老研式活動能力指標（高次ADL）

図 2-4 老研式活動能力指標（高次ADL）

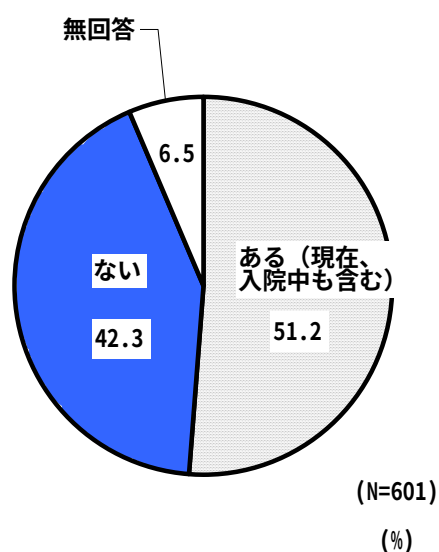


高次の日常生活動作のうち、『(7) 新聞を読んでいる』『(9) 健康についての記事や番組への関心がある』では「はい」が50%前後を占めるが、『(10) 友人の家を訪ねることがある』(72.4%)をはじめとして、『(1) バスや電車を使ってひとりで外出ができる』(62.1%), 『(11) 家族や友人の相談にのることがある』(61.2%), 『(12) 病人を見舞うことができる』(61.1%) などでは「いいえ」の割合が高くなっている。

(4) 入院経験と現在治療を受けている病気

ア この1年間に入院した経験

図 2-5 この1年間に入院した経験



この1年間に入院したことがある人は、現在入院中の人も含め 51.2%となっている。

イ 現在治療を受けている病気

表 2-1 現在治療を受けている病気

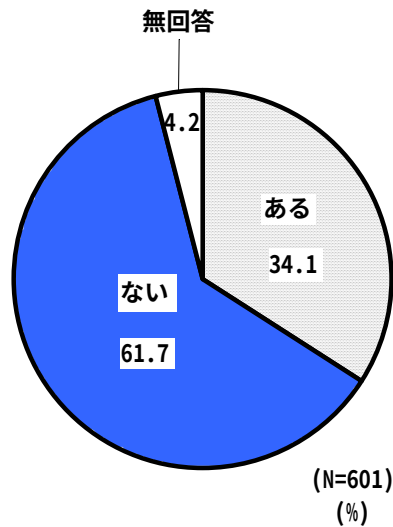
調査数	高血圧症	高脂血症	心臓病（心筋梗塞、狭心症など）	脳血管疾患（脳梗塞、脳出血など）	肺炎など	呼吸器系疾患（喘息、結核）	消化器系疾患	泌尿器系疾患	腎臓病	肝臓病	糖尿病	腰痛、膝痛などの病気	眼の病気	耳、鼻の病気	精神疾患	歯の病気	その他	特にな	無回答
601	216	41	150	113	60	7	90	73	32	29	72	198	153	48	47	85	121	23	21
100.0	35.9	6.8	25.0	18.8	10.0	1.2	15.0	12.1	5.3	4.8	12.0	32.9	25.5	8.0	7.8	14.1	20.1	2.8	3.5

現在治療を受けている病気としては、「高血圧症」が 35.9%と最も多く、次いで「腰痛、膝痛などの病気」(32.9%)、「眼の病気」(25.5%)、「心臓病（心筋梗塞、狭心症など）」(25.0%) などとなっている。

(5) 転倒経験

ア この1年間に転倒してケガをした経験

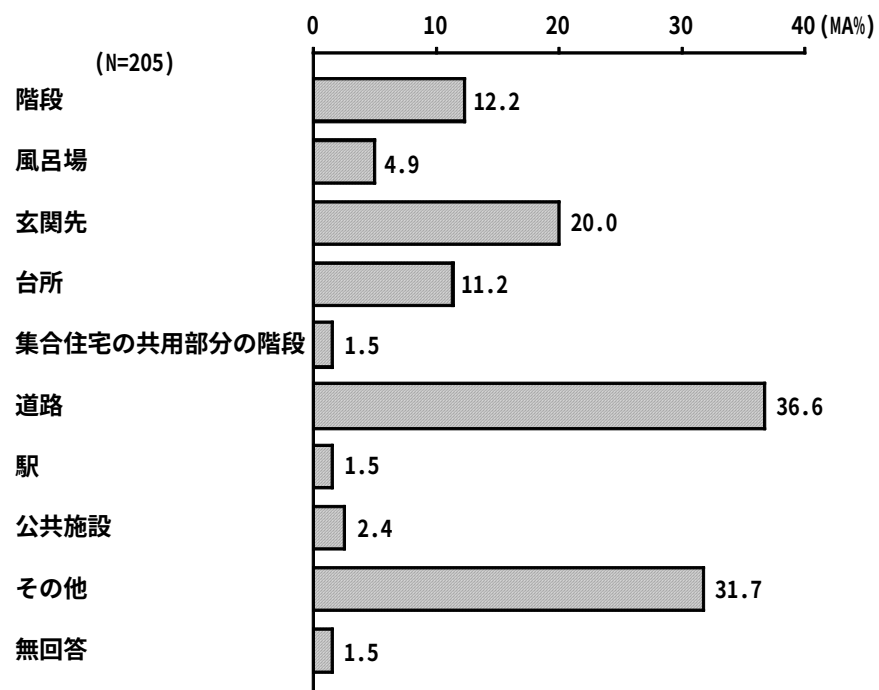
図 2-6 この1年間に転倒してケガをした経験



この1年間に転倒してケガをしたことがある人は、34.1%となっている。

イ 転倒した場所

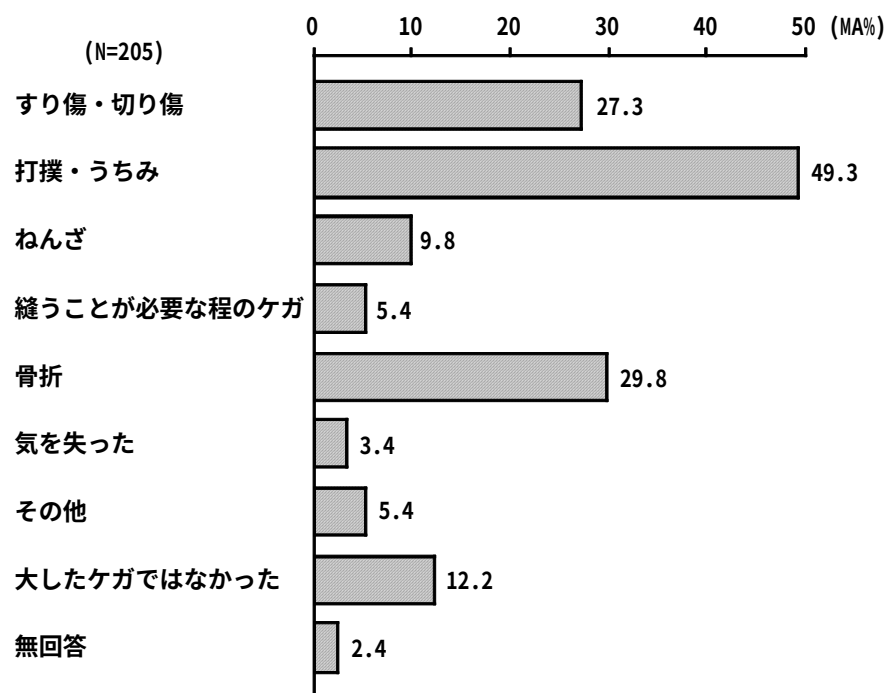
図 2-7 転倒した場所



転倒した場所は、「道路」が36.6%と最も多く、次いで「玄関先」(20.0%)、「階段」(12.2%) などとなっている。

ウ 転倒したときのケガの程度

図 2-8 転んだときのケガの程度

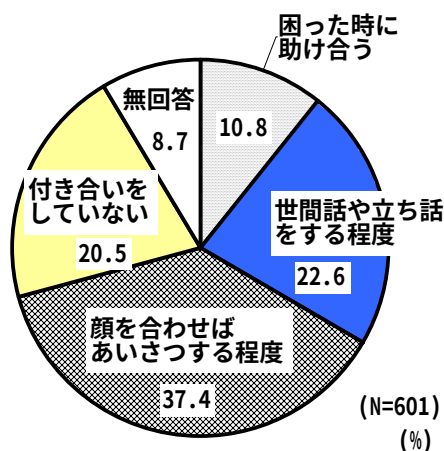


転倒したときのケガの程度をみると、「打撲・うちみ」が 49.3%と最も多く、次いで「骨折」(29.8%)、「すり傷・切り傷」(27.3%)となっている。

(6) 近所付き合いと社会参加・生きがい活動の状況

ア 近所付き合いの程度

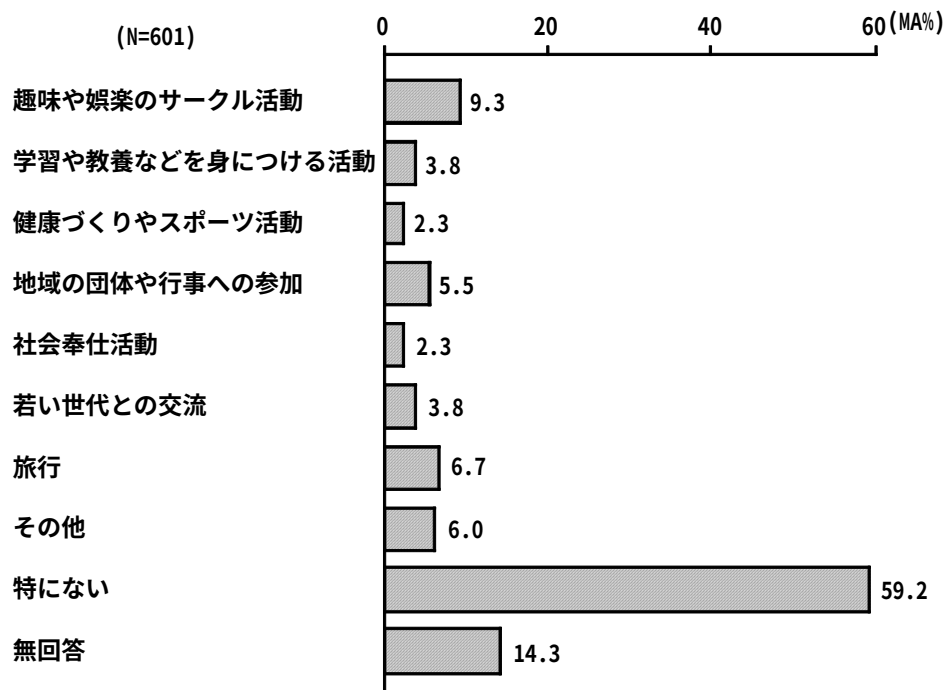
図 2-9 近所付き合いの程度



近所付き合いの程度は、「顔を合わせばあいさつする程度」が 37.4%と最も多く、次いで「世間話や立ち話をする程度」(22.6%)、「付き合いをしていない」(20.5%)であり、「困った時に助け合う」は 10.8%となっている。

イ 生きがい活動への参加状況

図 2-10 生きがい活動への参加状況

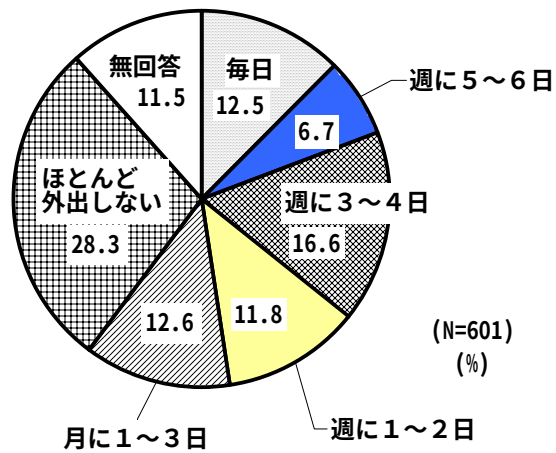


現在参加している生きがい活動については、「特にない」が 59.2%を占めている。参加している活動としては、「趣味や娯楽のサークル活動」が 9.3%、「旅行」が 6.7%などとなっている。

(7) 外出の状況

ア 外出の頻度

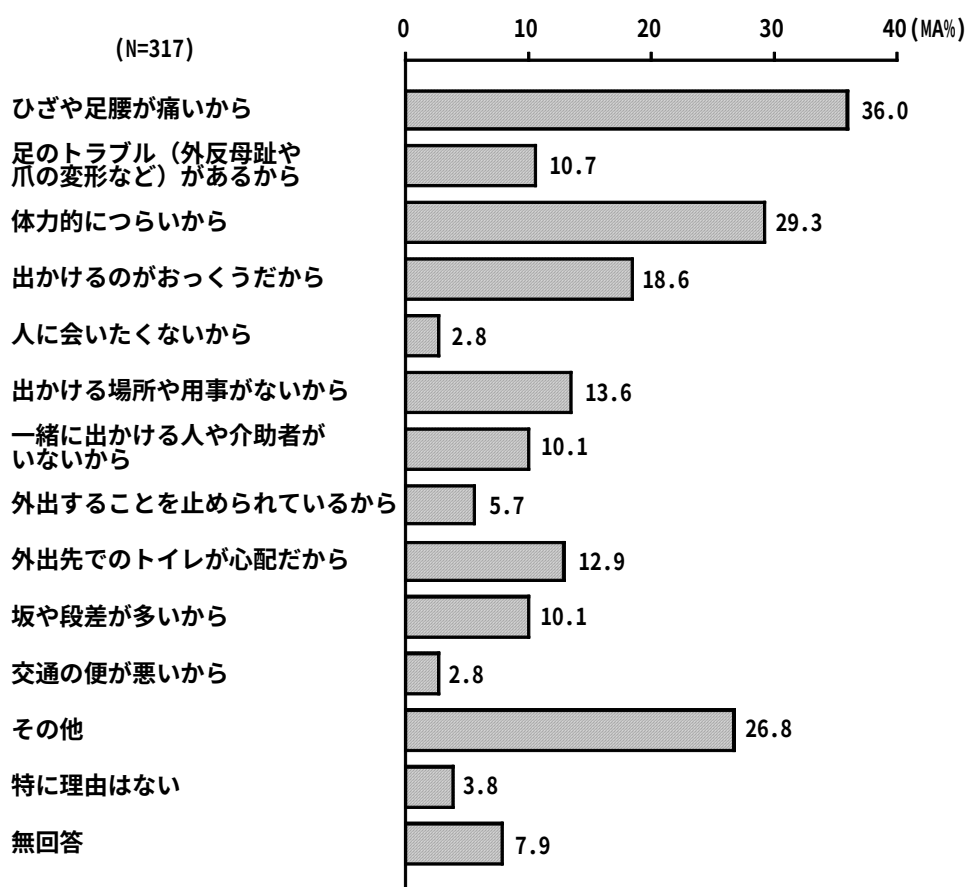
図 2-11 外出の頻度



外出する頻度をみると、「ほとんど外出しない」が 28.3%と最も多く、次いで「週に3～4日」(16.6%)、「月に1～3日」(12.6%)、「毎日」(12.5%)となっている。

イ 外出を控える理由

図 2-12 外出を控える理由

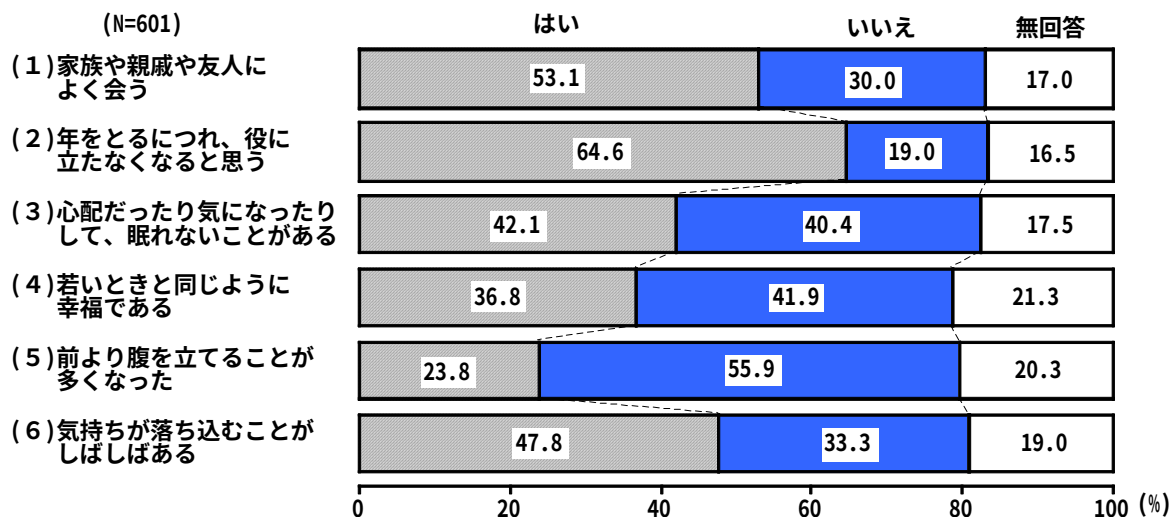


外出頻度が週に1～2日以下の人に外出を控える理由をたずねたところ、「ひざや足腰が痛いから」が36.0%と最も多く、次いで「体力的につらいから」(29.3%)、「出かけるのがおっくうだから」(18.6%)、「出かける場所や用事がないから」(13.6%)などとなっている。

(8) 主観的幸福感

ア 主観的幸福感（モラル・スケール）

図 2-13 主観的幸福感（モラルスケール）



『(1) 家族や親戚や友人によく会う』では「はい」が 53.1%と過半数を占めるが、
『(4) 若いときと同じように幸福である』については 36.8%と少なくなっている。

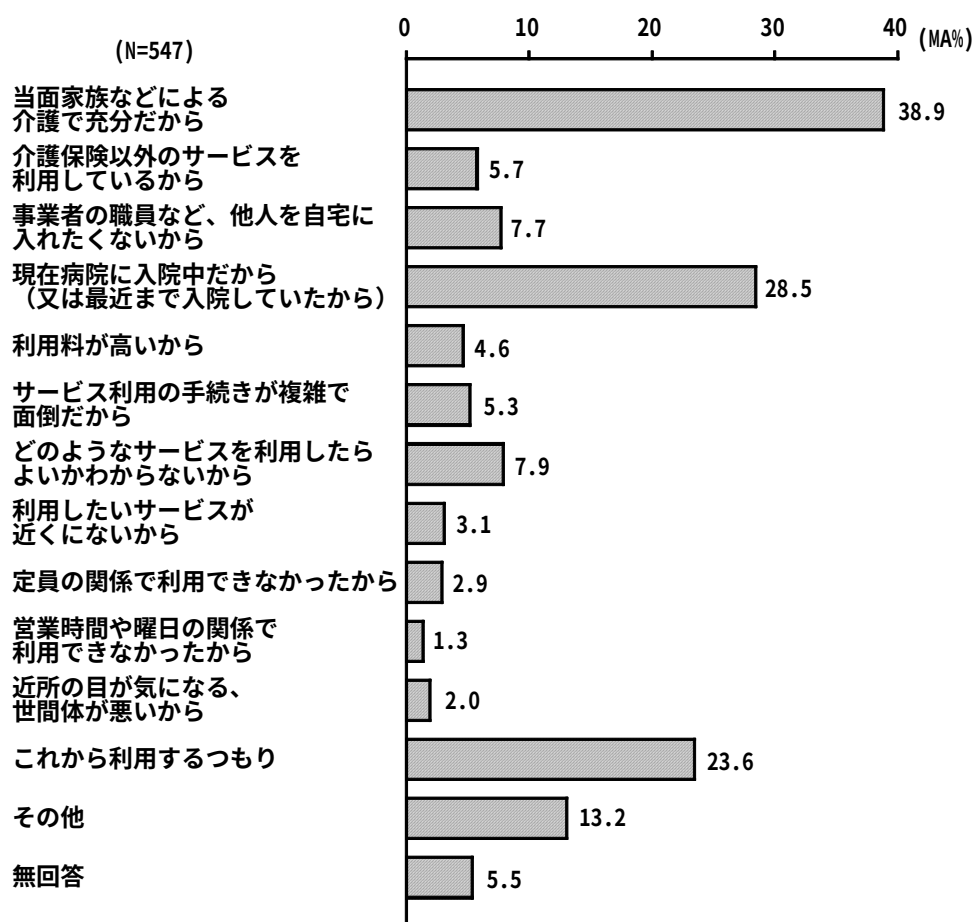
また、『(5) 前より腹を立てることが多くなった』では「いいえ」が 55.9%を占める
一方、『(2) 年をとるにつれ、役に立たなくなると思う』については 19.0%と非常に少
なくなっている。

3 介護保険サービスの利用状況

(1) 介護保険サービスの利用状況

ア 介護保険サービスを利用していない理由

図 3-1 介護保険サービスを利用していない理由

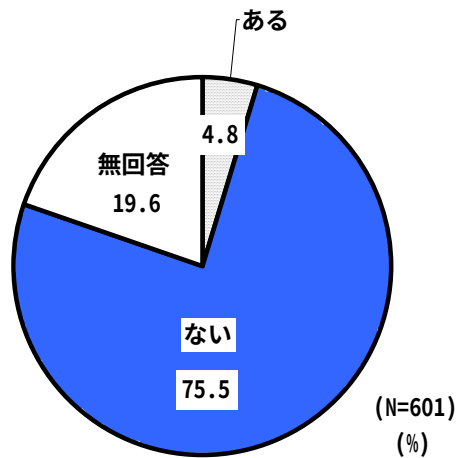


介護保険サービスを利用していない理由は、「当面家族などによる介護で充分だから」が38.9%と最も多く、次いで「現在病院に入院中だから（又は最近まで入院していたから）」（28.5%）、「これから利用するつもり」（23.6%）となっている。

(2) 障害や疾患等を理由にサービス利用を断られた経験

ア 障害や疾患等を理由に利用を断られた経験の有無

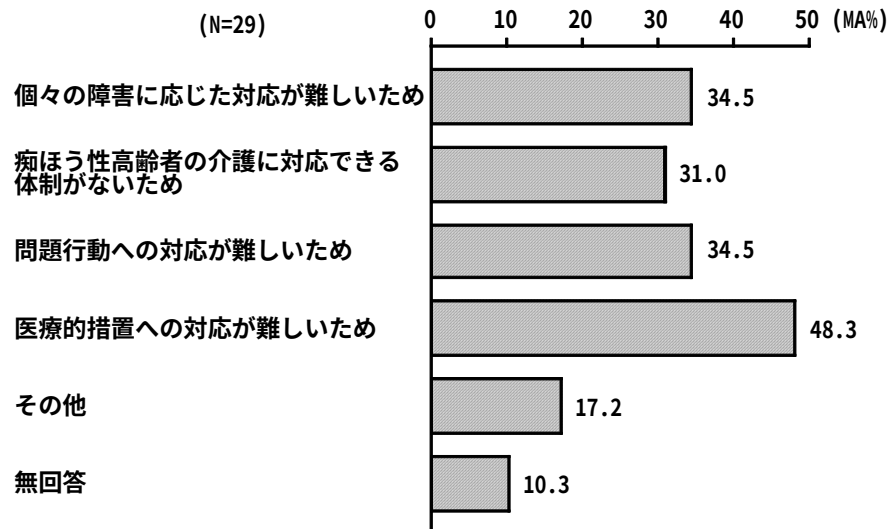
図 3-2 障害や疾患等を理由に利用を断られた経験の有無



障害や疾患等を理由に事業者から介護保険サービスの利用を断られたことがある人は、4.8%となっている。

イ 利用を断られた主な理由

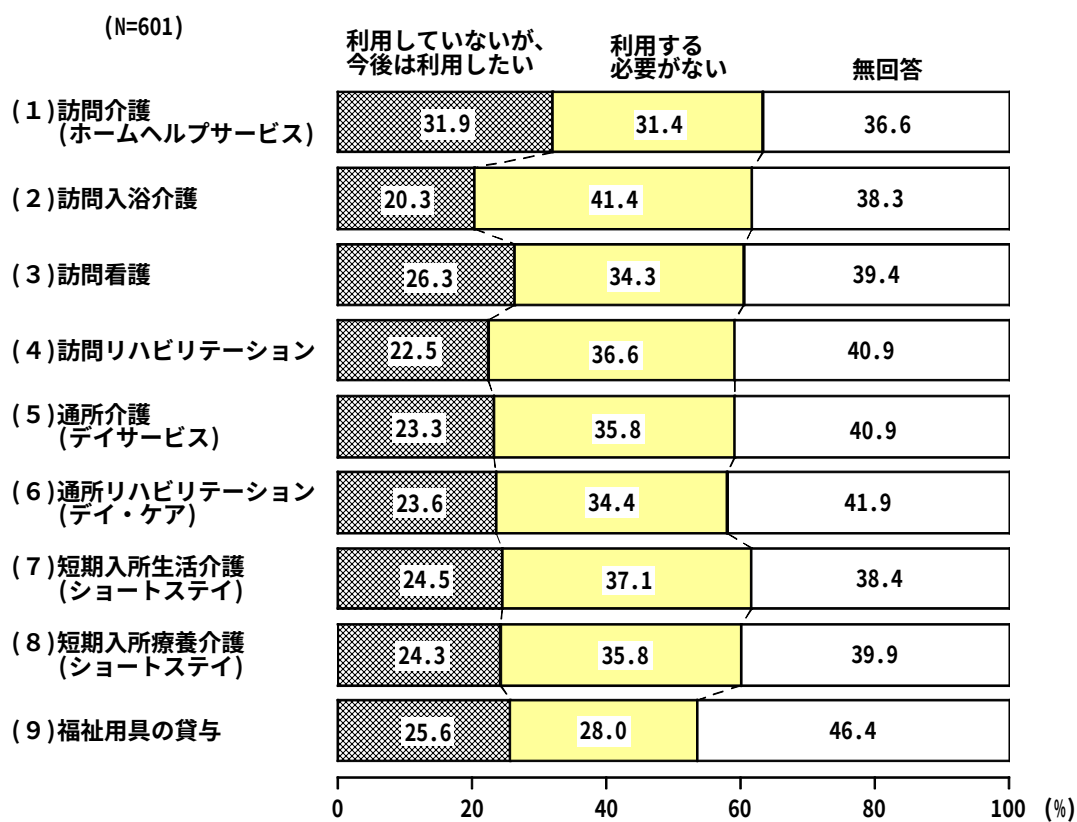
図 3-3 利用を断られた主な理由



サービスの利用を断られた主な理由としては、「医療的措置への対応が難しいため」が48.3%、「個々の障害に応じた対応が難しいため」「問題行動への対応が難しいため」がともに34.5%、「痴ほう性高齢者の介護に対応できる体制がないため」が31.0%となっている。

(3) 居宅サービスの利用状況・利用意向

図 3-4 居宅サービスの利用状況・利用意向

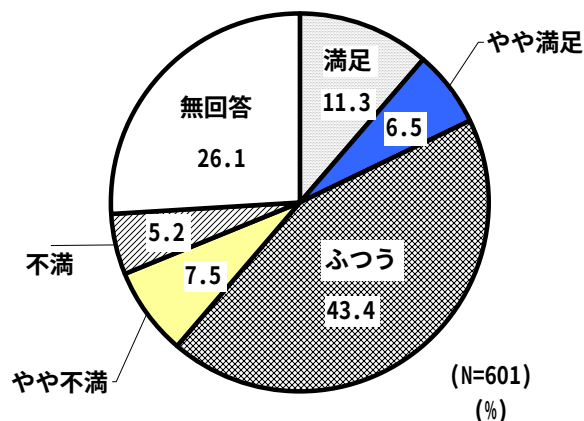


居宅サービスの今後の利用希望については、『(1)訪問介護(ホームヘルプサービス)』が31.9%と最も多く、全項目について20%以上となっている。

(4) 事業者やサービス内容に関する情報への希望

ア 事業者やサービス内容に関する情報への満足度

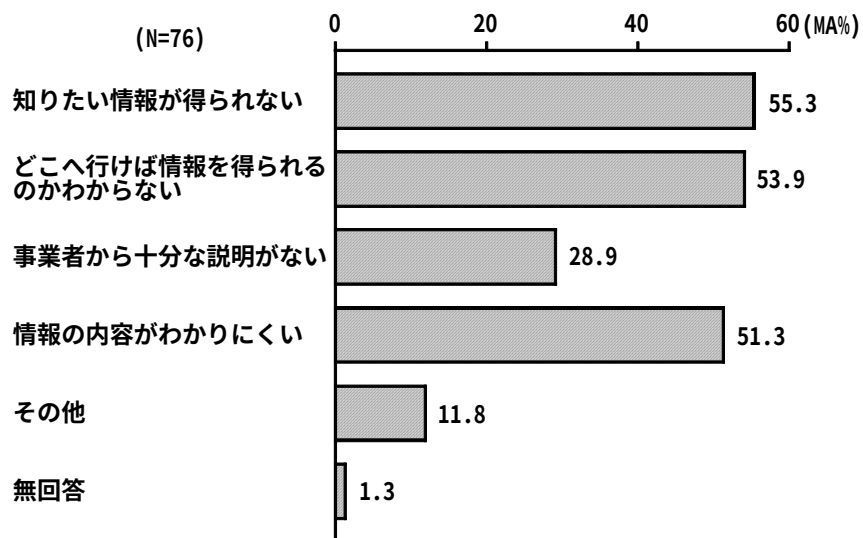
図 3-5 事業者やサービス内容に関する情報への満足度



事業者やサービス内容に関する情報入手について満足している人は、「やや満足」を合わせて全体の 17.8% となっている。

イ 不満を感じている点

図 3-6 不満を感じている点

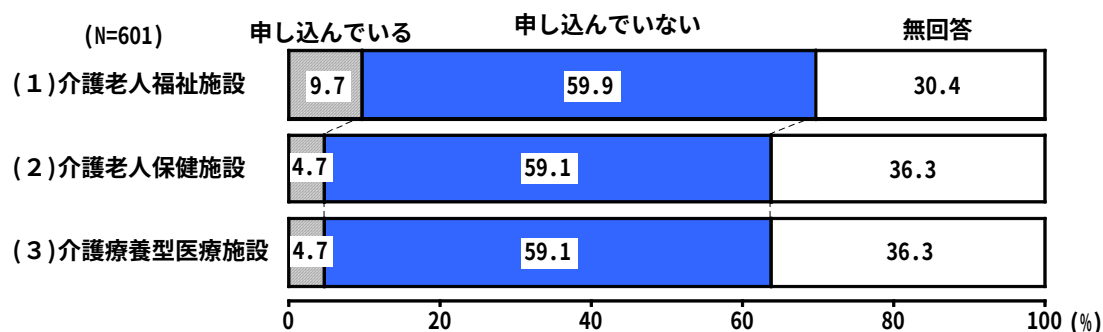


不満を感じている点についてみると、「知りたい情報が得られない」「どこへ行けば情報を得られるのかわからない」「情報の内容がわかりにくい」の3つの項目で 50% を超えている。

(5) 介護保険施設への入所申込状況

ア 施設への申込みの有無

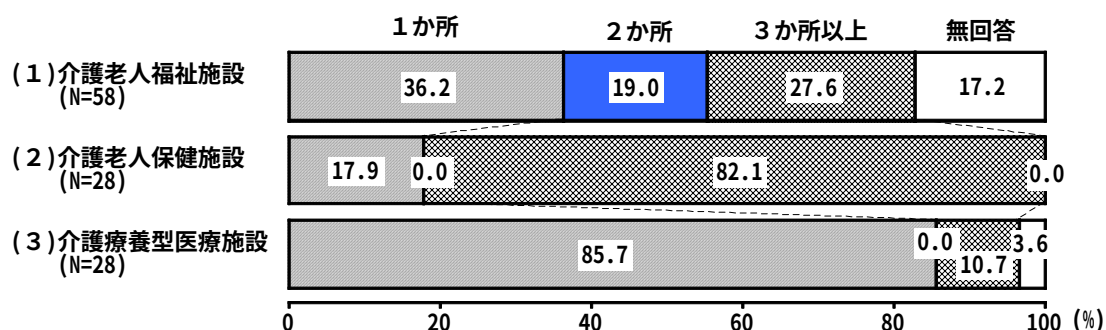
図 3-7 施設への申込みの有無



介護保険施設への申込み状況をみると、「申し込んでいる」は、介護老人福祉施設が9.7%、介護老人保健施設・介護療養型医療施設がともに4.7%となっている。

イ 申込み施設数

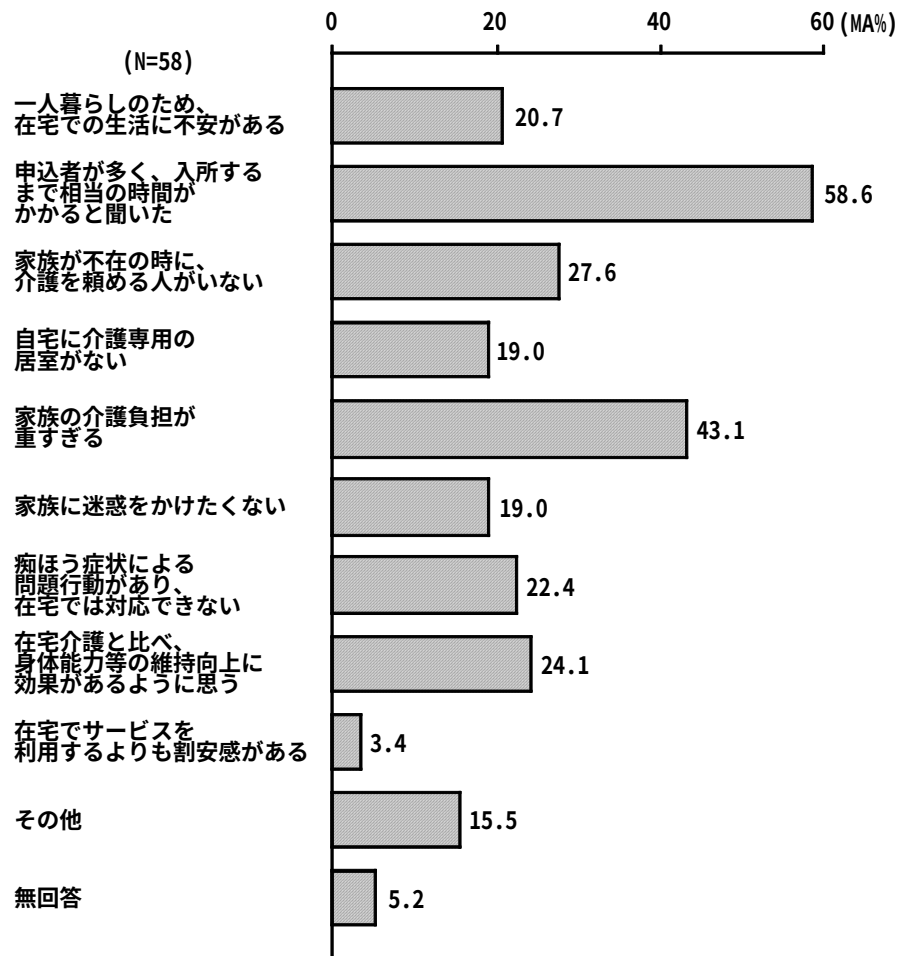
図 3-8 申込み施設数



申込み施設数については、介護老人福祉施設は「1 か所」が36.2%、「3 か所以上」が27.6%であり、介護老人保健施設は「3 か所以上」、介護療養型医療施設は「1 か所」が最も多くなっている。

ウ 入所申込みをした理由

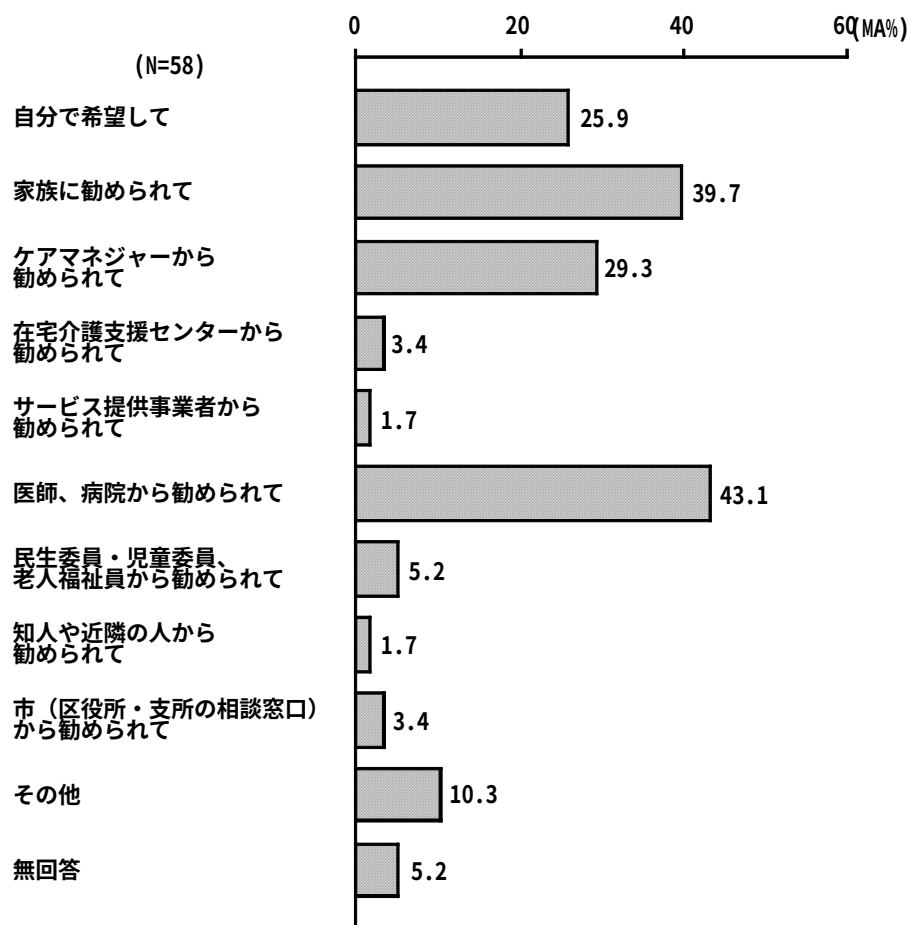
図 3-9 入所申込みをした理由



施設に入所申込みをした理由としては、「申込者が多く、入所するまで相当の時間がかかる」と聞いたが 58.6%、「家族の介護負担が重すぎる」が 43.1%などとなっている。

エ 入所申込みをしたきっかけ

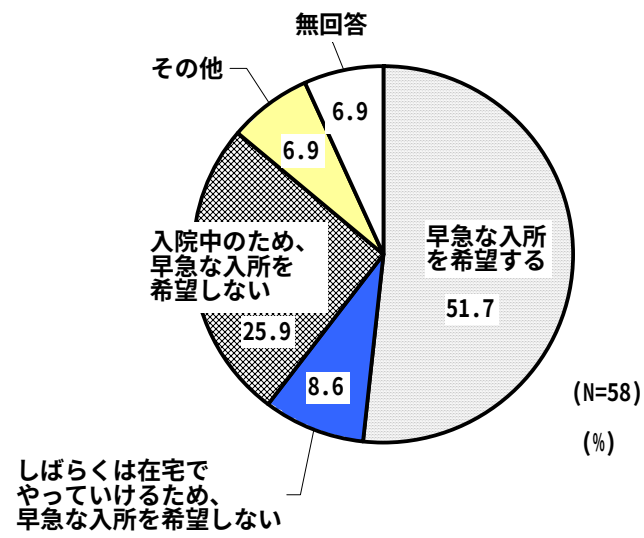
図 3-10 入所申込みをしたきっかけ



入所申込みをしたきっかけについては、「医師、病院から勧められて」が43.1%、「家族に勧められて」が39.7%などとなっている。

オ 早急な入所希望の有無

図 3-11 早急な入所希望の有無

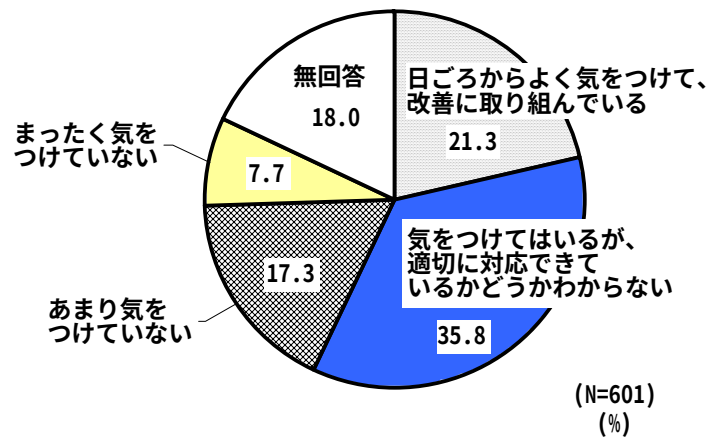


施設への早急な入所を希望している人は 51.7%と過半数を占め、「入院中のため、早急な入所を希望しない」が 25.9%となっている。

4 介護予防と介護のあり方について

(1) 心身の変化に対する意識

図 4-1 心身の変化への対応・改善の有無

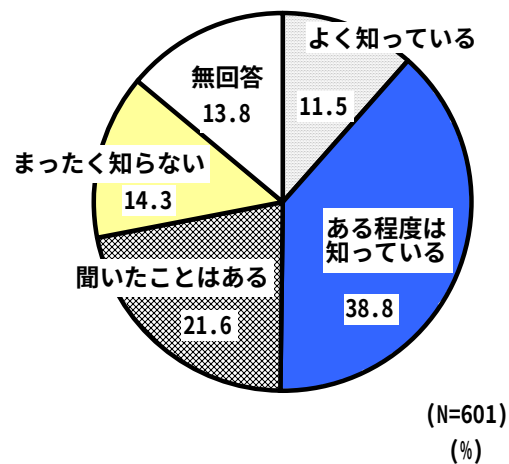


心身の変化に対して日ごろから配慮している人は全体の 57.1%を占め、「改善に取り組んでいる」人は 21.3%となっている。

(2) 介護予防に関する知識と取り組み

ア 老化予防・介護予防に関する理解

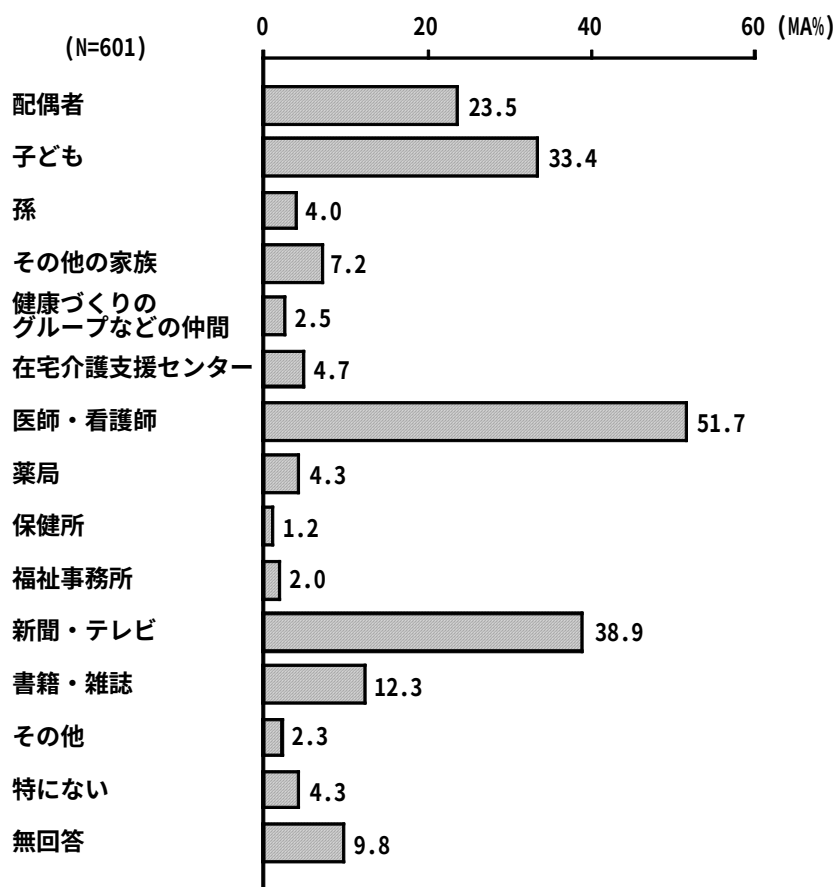
図 4-2 老化予防・介護予防に関する理解



介護予防や老化予防について「知っている」（「よく知っている」に「ある程度は知っている」を加えた割合）と答えた人は 50.3%となっている。

イ 病気・老化の予防や健康づくりに関する情報源

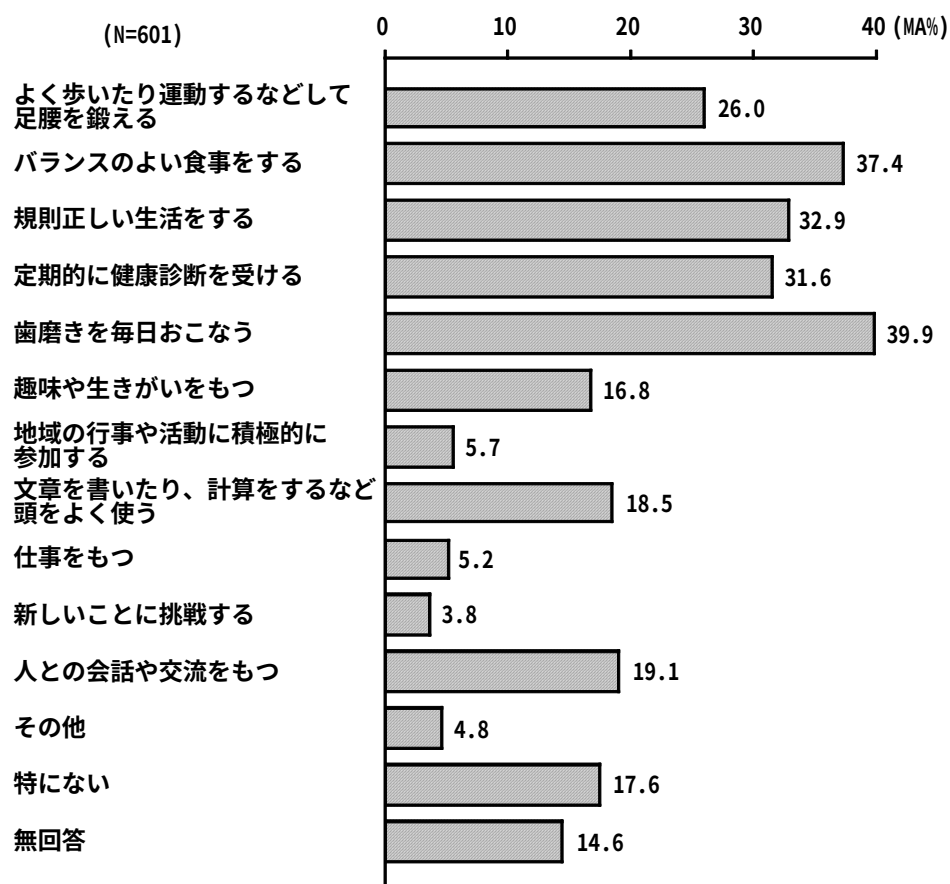
図 4-3 病気・老化の予防や健康づくりに関する情報源



病気・老化予防や健康づくりに関する情報源としては、「医師・看護師」が 51.7%と最も多く、次いで「新聞・テレビ」(38.9%)、「子ども」(33.4%)、「配偶者」(23.5%)となっている。

ウ 病気・老化の予防のため取り組んでいること

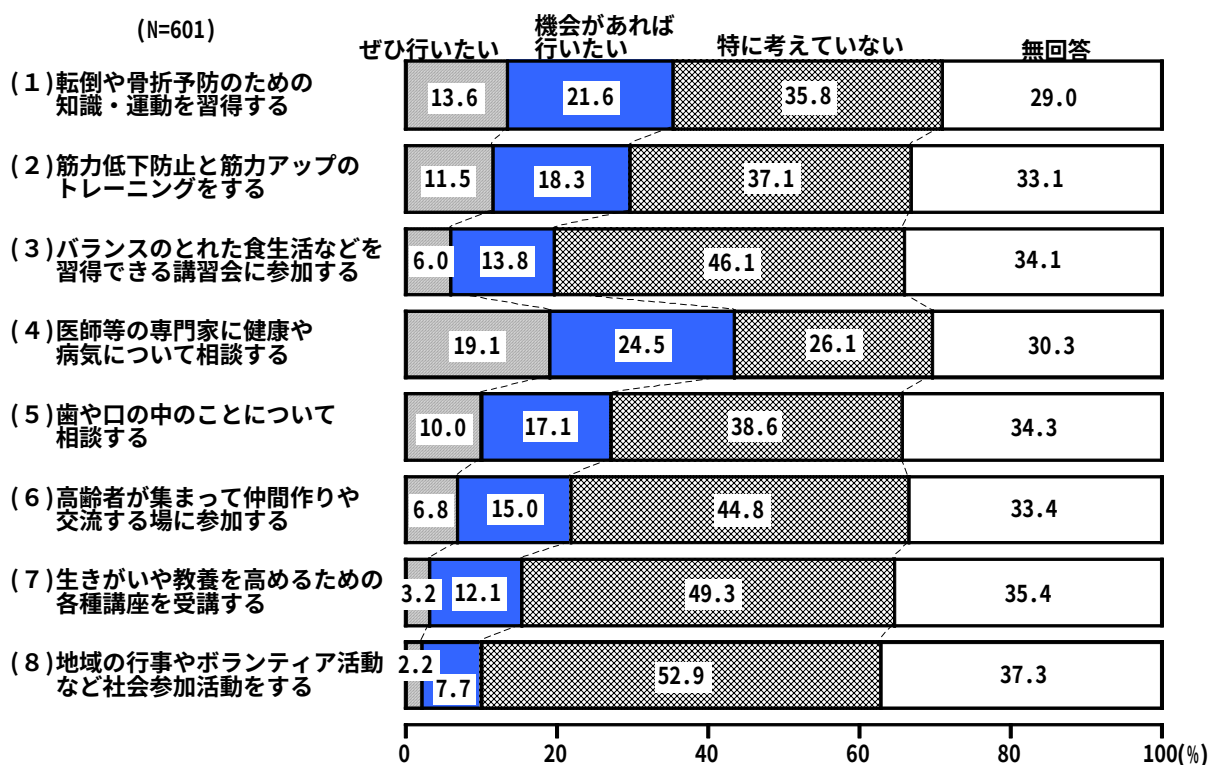
図 4-4 病気・老化の予防のため取り組んでいること



病気・老化予防のために取り組んでいることとしては、「歯磨きを毎日おこなう」が39.9%と最も多く、次いで「バランスのよい食事をする」(37.4%)、「規則正しい生活をする」(32.9%)、「定期的に健康診断を受ける」(31.6%)が多くなっている。

エ 病気・老化の予防や健康づくりのために行いたいこと

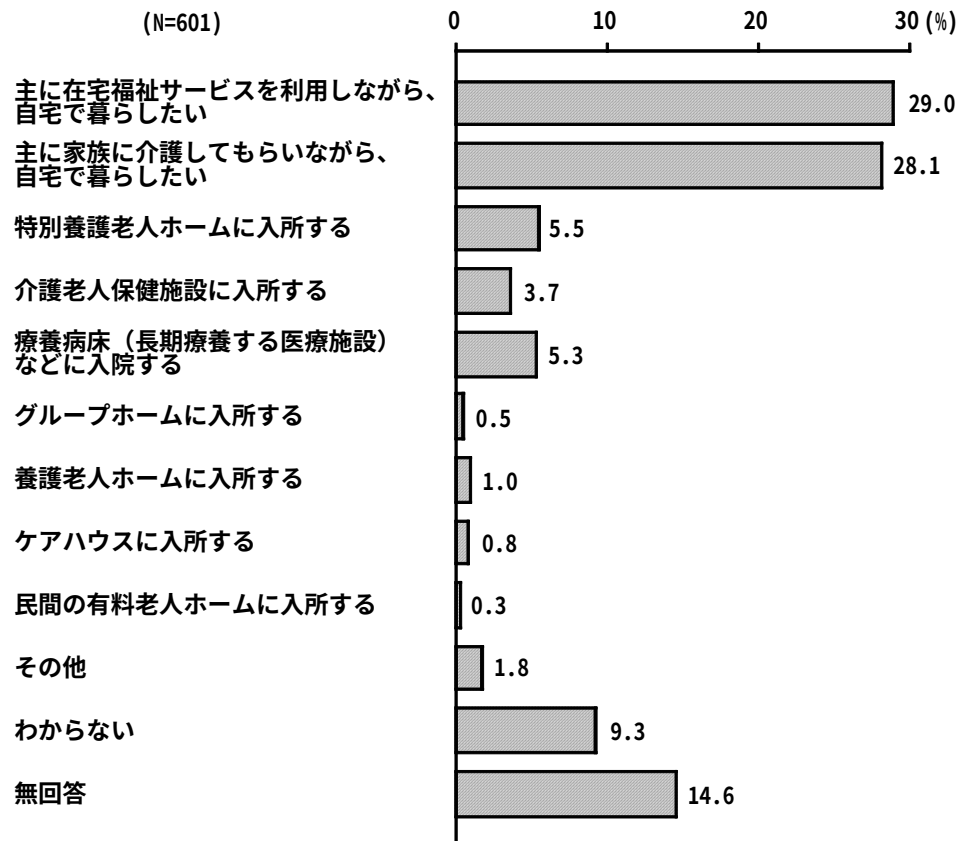
図 4-5 病気・老化の予防や健康づくりのために行いたいこと



病気・老化予防や健康づくりのために今後行いたいこと（「ぜひ行いたい」に「機会があれば行いたい」を加えた割合）としては、『(4) 医師等の専門家に健康や病気について相談する』が 43.6%と最も多く、次いで『(1) 転倒や骨折予防のための知識・運動を習得する』（35.2%）、『(2) 筋力低下防止と筋力アップのトレーニングをする』（29.8%）などとなっている。

(3) 住まいと介護について希望する暮らし方

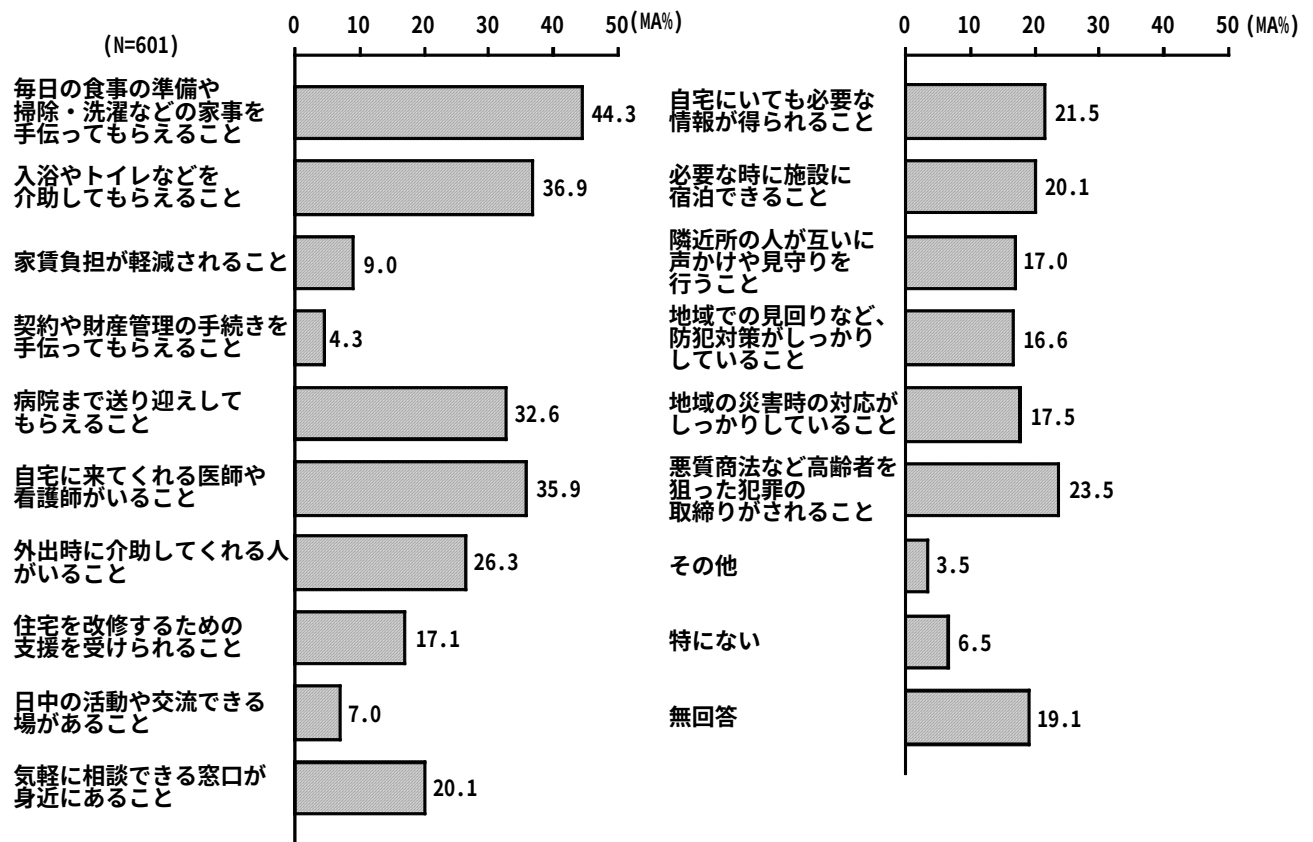
図 4-6 住まいと介護について希望する暮らし方



住まいと介護について希望する暮らし方としては、「主に在宅福祉サービスを利用しながら、自宅で暮らしたい」が 29.0%、「主に家族に介護してもらいながら、自宅で暮らしたい」が 28.1%となっており、合計すると全体の 57.1%が自宅での生活を希望している。

(4) 在宅生活を続けていく上で必要な支援

図 4-7 在宅生活を続けていく上で必要な支援

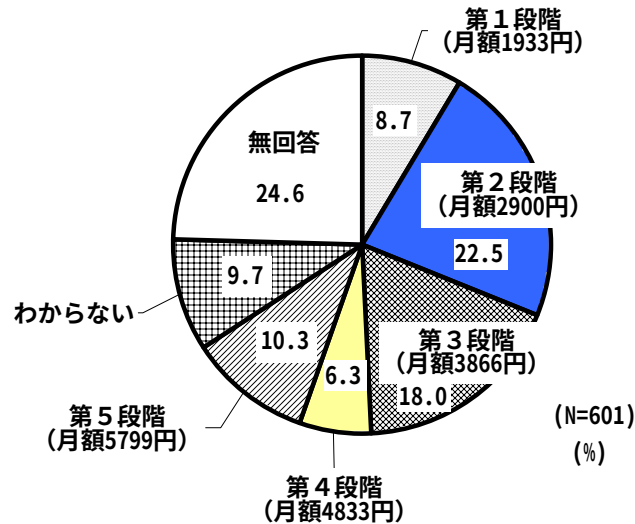


在宅生活を続けていく上で必要な支援としては、「毎日の食事の準備や掃除・洗濯などの家事を手伝ってもらえること」が44.3%と最も多く、次いで「入浴やトイレなどを介助してもらえること」(36.9%)、「自宅に来てくれる医師や看護師がいること」(35.9%)、「病院まで送り迎えしてもらえること」(32.6%) などとなっている。

5 介護保険制度について

(1) 第1号被保険者保険料の所得段階別区分

図 5-1 介護保険料の段階

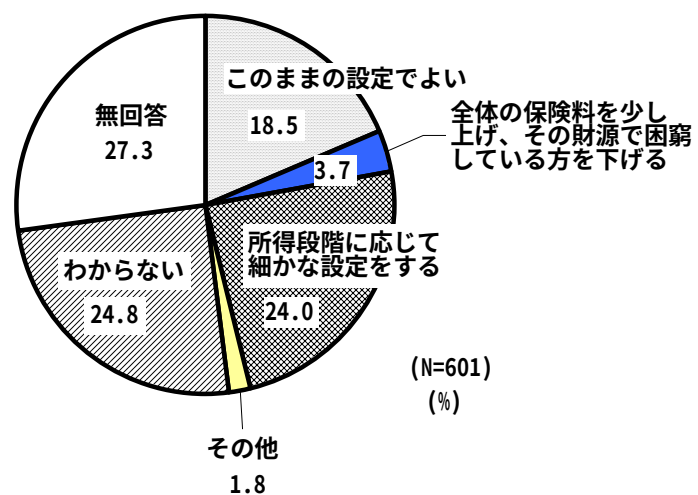


第1号被保険者保険料の所得段階別区分は、「第2段階」が 22.5%、「第3段階」が 18.0%と多くなっている。

(2) 保険料の設定および給付と負担のあり方についての意向

ア 介護保険料の設定について

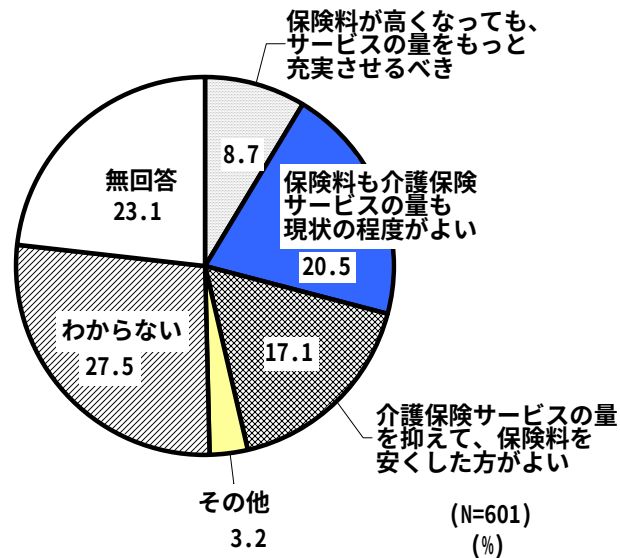
図 5-2 介護保険料の設定について



第1号被保険者の所得段階別保険料の設定方法については、「所得段階に応じて細かな設定をする」が 24.0%と最も多く、「このままの設定でよい」は 18.5%、「全体の保険料を少し上げ、その財源で困窮している方を下げる」は 3.7%となっている。

イ 今後の保険料のあり方について

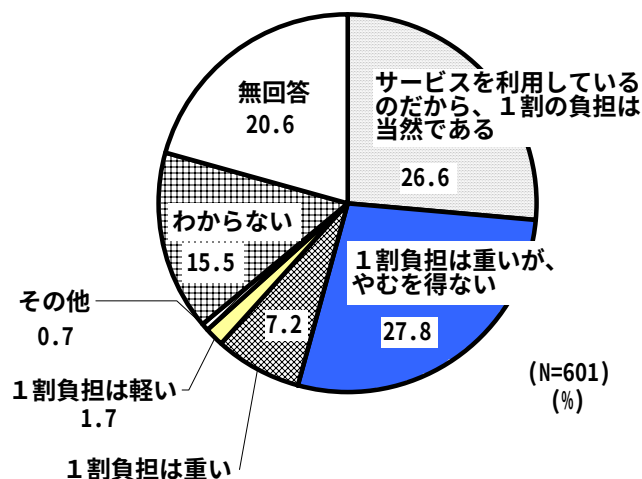
図 5-3 今後の保険料のあり方について



今後の保険料のあり方としては、「保険料も介護保険サービスの量も現状の程度がよい」が20.5%と最も多く、次いで「介護保険サービスの量を抑えて、保険料を安くした方がよい」(17.1%)、「保険料が高くなっても、サービスの量をもっと充実させるべき」(8.7%)となっている。

ウ 利用者負担について

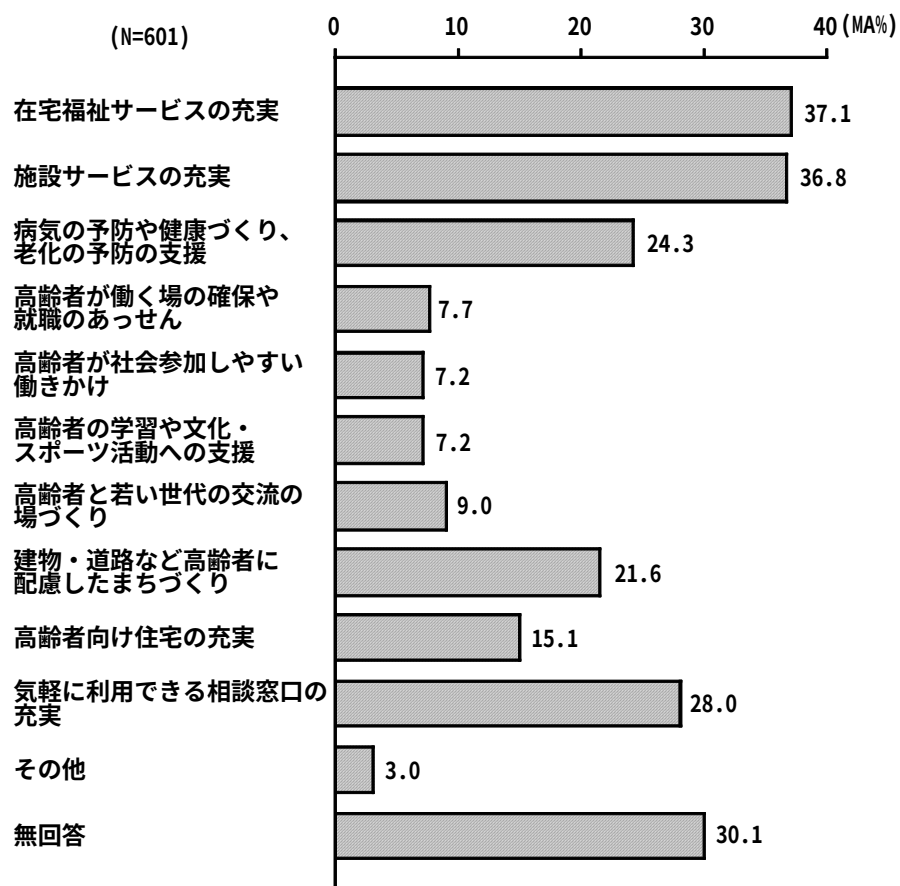
図 5-4 利用者負担について



介護サービス利用料の1割負担に対しては、「サービスを利用しているのだから、1割の負担は当然である」(26.6%)、および「1割負担は重い、やむを得ない」(27.8%)が多くなっている。

(3) 高齢者保健福祉施策に対する要望

図 5-5 高齢者保健福祉について充実を希望する施策



高齢者保健福祉について今後充実を望む施策としては、「在宅福祉サービスの充実」「施設サービスの充実」がともに約 37%と多く、次いで「気軽に利用できる相談窓口の充実」(28.0%)、「病気の予防や健康づくり、老化の防止の支援」(24.3%)、「建物・道路など高齢者に配慮したまちづくり」(21.6%)の順となっている。

6 在宅介護の状況について

(1) 介護者の続柄・年代

図 6-1 介護者の続柄

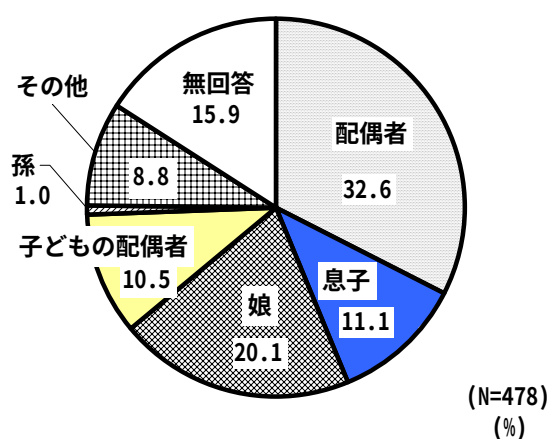
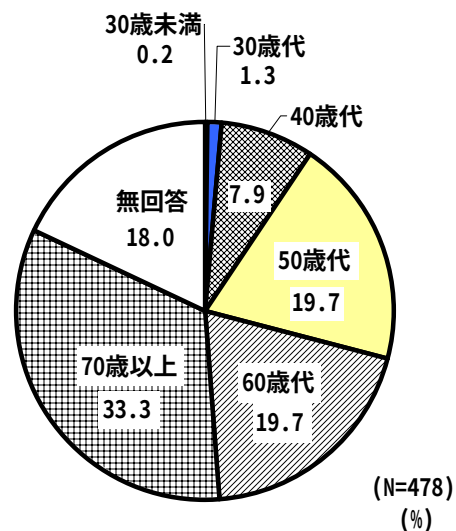


図 6-2 介護者の年代



調査対象者からみた介護者の続柄は、「配偶者」が 32.6%と最も多く、次いで「娘」(20.1%)となっている。

介護者の年代は、「70 歳以上」が 33.3%と最も多く、次いで「50 歳代」「60 歳代」がともに 19.7%と、50 歳以上が全体の 70%強を占める。

(2) 介護サービスの利用等にかかる意思決定者

図 6-3 介護サービスの利用等にかかる意思決定者

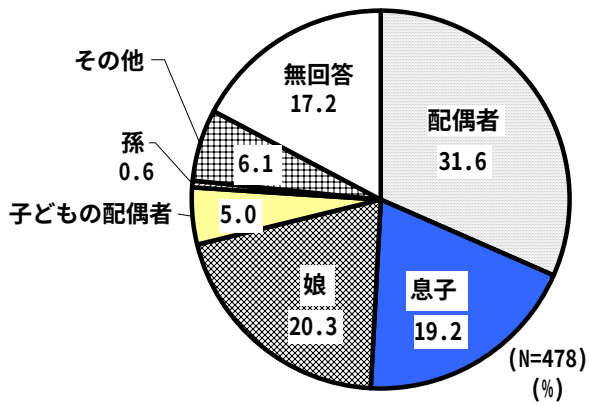
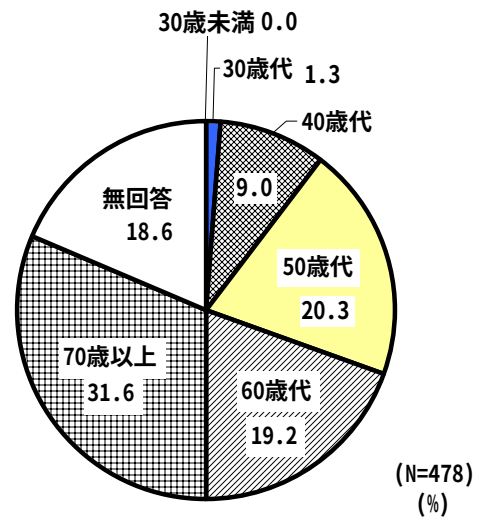


図 6-4 意思決定者の年代

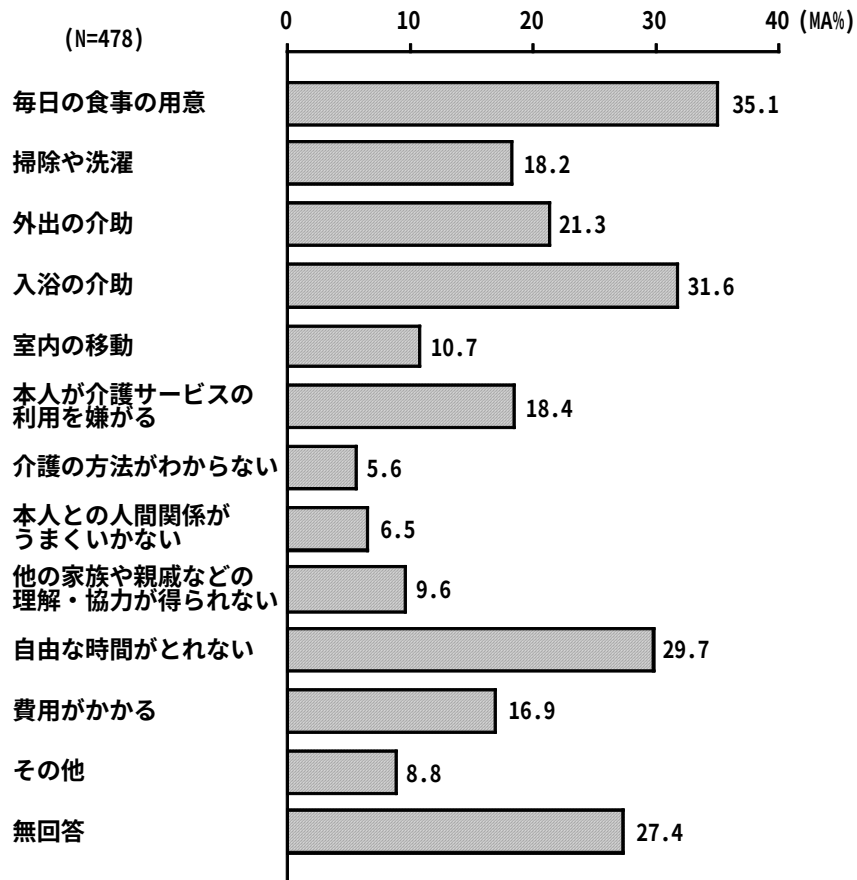


調査対象者がサービス利用する場合などの意思決定に最も関わっている人は、「配偶者」が31.6%と最も多く、次いで「娘」(20.3%)、「息子」(19.2%)となっている。

この意思決定者の年代は、「70歳以上」が31.6%と最も多く、次いで「50歳代」(20.3%)、「60歳代」(19.2%)と、50歳以上が全体の70%強を占める。

(3) 在宅介護の負担について

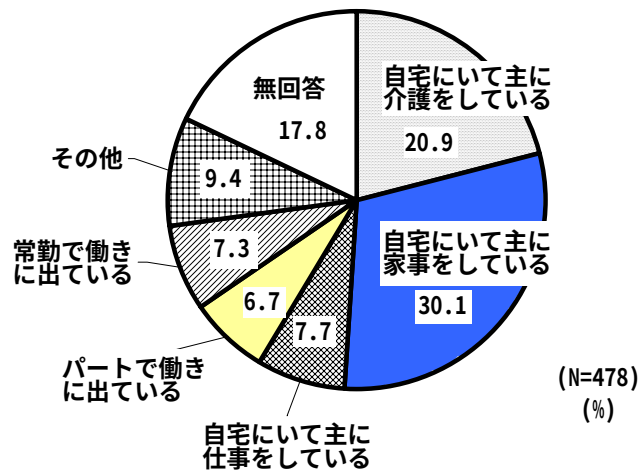
図 6-5 家庭における介護で負担が大きいと感じること



家庭における介護で負担が大きいと感じる介護内容は、「毎日の食事の用意」が35.1%と最も多く、次いで「入浴の介助」(31.6%)、「自由な時間がとれない」(29.7%)、「外出の介助」(21.3%)となっている。

(4) 介護者の昼間の生活状況

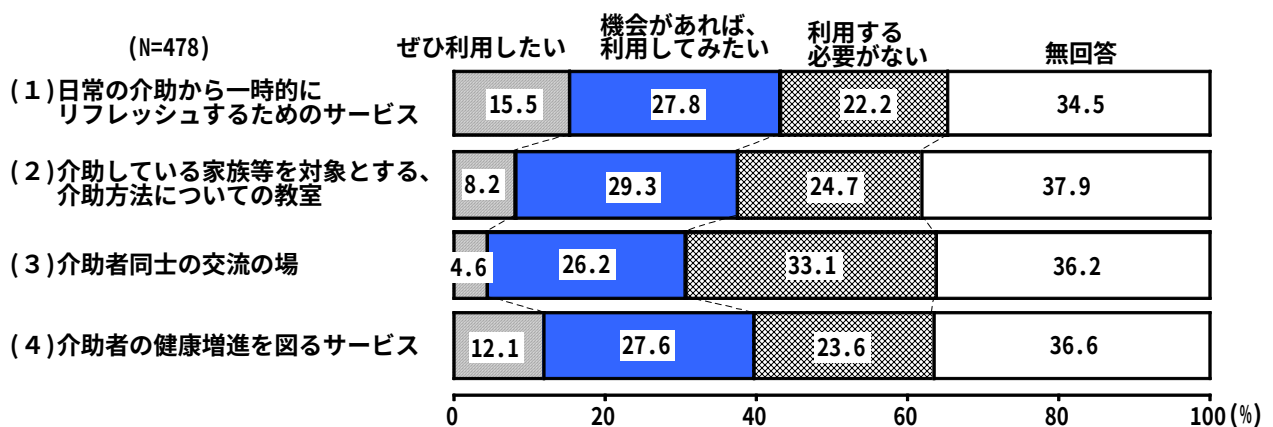
図 6-6 介護者の昼間の生活状況



介護者の昼間の生活状況を見ると、「自宅にいて主に家事をしている」が 30.1%と最も多く、次いで「自宅にいて主に介護をしている」(20.9%)となっている。

(5) 介護者支援施策に対する意向

図 6-7 介護者が利用したいサービス



介護者が利用したいと思うサービス（「ぜひ利用したい」に「機会があれば、利用してみたい」を加えた割合）としては、『(1) 日常の介助から一時的にリフレッシュするためのサービス』が 43.3%と最も多く、次いで『(4) 介助者の健康増進を図るサービス』(39.7%)となっている。